【別記１】品目、調達目標及び判断基準

１．定義 1
２．紙類 2
３．文具類 7
４．オフィス家具等 13
５．ＯＡ機器 15
５－１　コピー機等 15
５－２　電子計算機 22
５－３　プリンタ等 26
５－４　ファクシミリ 30
５－５　スキャナ 33
５－６　磁気ディスク装置 35
５－７　ディスプレイ 37
５－８　シュレッダー 40
５－９　デジタル印刷機 41
５－10　記録用メディア 43
５－11　電池 44
５－12　電子式卓上計算機 45
５－13　カートリッジ等 46
５－14　掛時計 50
５－15　プロジェクタ 51
６．移動電話 53
７．家電製品 56
７－１　電気冷蔵庫等 56
７－２　テレビジョン受信機 58
７－３　電気便座 62
７－４　電子レンジ 63
８．エアコンディショナー等 65
８－１　エアコンディショナー 65
８－２　ガスヒートポンプ式冷暖房機 68
８－３　ストーブ 69
９．温水器等 71
９－１　ヒートポンプ式電気給湯器 71
９－２　ガス温水機器 73
９－３　石油温水機器 75
９－４　ガス調理機器 77
10．照明 79
10－１　照明器具 79
10－２　ランプ 82

11. 自動車等 85
11－１　自動車 85
11－２　ＩＴＳ対応車載器 92
11－３　タイヤ 93
11－４　２サイクルエンジン油 94
12. 消火器 95
13. 制服・作業服 96
14. インテリア・寝装寝具 99
14－１　カーテン等 99
14－２　カーペット 101
14－３　毛布等 103
14－４　ベッド 105
15. 作業手袋 107
16. その他繊維製品 108
16－１　テント・シート類 108
16－２　防球ネット 110
16－３　旗・のぼり・幕類 112
16－４　モップ 113
17. 設備 114
18. 災害備蓄用品 119
18－１　災害備蓄用品（飲料水） 119
18－２　災害備蓄用品（食料） 120
18－３　災害備蓄用品（生活用品・資材） 122
19. 公共工事 127
20. 役務 148
20－１　省エネルギー診断 148
20－２　印刷 149
20－３　食堂 156
20－４　自動車専用タイヤ更生 157
20－５　自動車整備 158
20－６　庁舎管理等 159
20－７　輸配送 170
20－８　旅客輸送 173
20－９　照明機能提供業務 176
20－10　小売業務 177
20－11　クリーニング 178
20－12　自動販売機設置 179
20－13　引越輸送 182
20－14　会議運営 185

１．定　義

この別記において、「目標」、「エコマーク商品とグリーン購入適合品の関係」、「判断の基準」及び「配慮事項」は下記のとおりとする。

「目標」:	調達する際のグリーン購入適合品調達割合の目標
「エコマーク商品とグリーン購入適合品の関係」:	品目の横に「エコマーク商品」という文字があるものは、エコマーク商品を選べばグリーン購入法適合商品となる。 ※エコマークはトップランナー制度により基準を作成しているが、グリーン購入法は全国で調達可能なことが前提であることから、エコマーク基準よりやや緩やかな基準となっている。
「判断の基準」:	本基準を満たすものがグリーン購入適合品となる。
「配慮事項」:	グリーン購入の要件ではないが、グリーン購入対象品目等を調達するに当たって、更に配慮することが望ましい事項

長野県グリーン購入推進方針の平成 26 年度変更部分は赤字記載

２．紙　類〔目標：100%〕〔全てエコマーク商品〕

(1) 品目及び判断の基準等

【情報用紙】〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
コピー用紙	【判断の基準】 ○　製品の総合評価値（※１）が80ポイント以上であること。 なお、総合評価値の記載がない場合は、以下のa～ｄのポイント合計が80ポイント以上であること。 ａ　古紙パルプ配合率70%以上であること。（70%以上で配点） ｂ　バージンパルプ（※２）が使用される場合にあっては、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプ（※３、４）を使用したものであること。（30%までで配点） ただし、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの利用したものが調達不可能な場合にあっては、その他の持続可能性を目指したパルプを利用したものでもよい。（30%までで配点） ｃ　白色度が75%未満であること。（60～75%未満で配点） ｄ　坪量が68g/m²未満（※５）であること。（62～68g/m²未満で配点）

a

配　合　率	70%	75%	80%	85%	90%	95%	100%
ポイント	50	55	60	65	70	75	80

b

森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの利用割合の合計	5%	10%	15%	20%	25%	30%
ポイント	5	10	15	20	25	30

その他持続可能性を目指したパルプの利用割合	5%	10%	15%	20%	25%	30%
ポイント	2.5	5	7.5	10	12.5	15

c

白色度	75%	73%	70%	68%	65%	63%	60%
ポイント	0	2	5	7	10	12	15

d

坪　量（g／m²）	68	67	66	65	64	63	62
ポイント	0	2.5	5	7.5	10	12.5	15

※１　コピー用紙においては、古紙パルプ配合率、森林認証材パルプ配合率、間伐材等パルプ配合率、その他の持続可能性を目指した原料の調達方針に基づいて使用するパルプ利用割合、白色度及び坪量について総合評価したもの。評価の方法、紙の原料に関する事項等の詳細については、巻末「参考」を参照のこと。

※２　バージンパルプの原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照）

※３　「間伐材等」とは、間伐材または竹をいう。

※４　間伐材の確認は、林野庁作成の「間伐材チップの確認のためのガイドライン（平成21年２月13日）」に準拠して行うものとする。また、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの実配合割合については、各制度に基づくクレジット方式により運用を行ってもよい。（巻末「参考」を参照）

※５　坪量の小さいコピー用紙は、複写機等の使用時に相対的にカール、紙詰まり、裏抜け等が発生するリスクが高まる場合があるため、過度に坪量の小さい製品の調達には留意が必要である。

	【配慮事項】 ○　製品の包装又梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。
フォーム用紙	【判断の基準】 ①　古紙パルプ配合率70%以上かつ白色度70%程度以下であること。 ②　塗工されているものについては、塗工量が両面で12g/㎡以下であること。 ③　紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。(巻末「参考」を参照) 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。
インクジェットカラープリンター用塗工紙	【判断の基準】 ①　古紙パルプ配合率70%以上であること。 ②　塗工量が両面で20g/㎡以下であること。ただし、片面の最大塗工量は12g/㎡とする。 ③　紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。(巻末「参考」を参照) 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

【印刷用紙】〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
塗工されていない印刷用紙	【判断の基準】 ① 総合評価値（※１）が80ポイント以上であること。 （以下のa～ｃのポイント合計が80ポイント以上であること。） ａ 古紙パルプ配合率60%以上であること。（60%以上で配点） （下表1） ｂ バージンパルプ（※２）が使用される場合にあっては、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプ（※３、４）を使用したものであること。 （40%までで配点） （下表2） ただし、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの利用したものが調達不可能な場合にあっては、その他の持続可能性を目指したパルプを利用したものでもよい。（40%までで配点） （下表3） ｃ 白色度が75%未満であること。（60～75%未満で配点）（※５） （下表4） ※１ 塗工されていない印刷用紙においては、古紙パルプ配合率、森林認証材パルプ配合率、間伐材等パルプ配合率、その他の持続可能性を目指した原料の調達方針に基づいて使用するパルプ利用割合及び白色度を総合評価したもの。評価の方法、紙の原料に関する事項等の詳細については、巻末「参考」を参照のこと。 ※２ バージンパルプの原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ※３ 「間伐材等」とは、間伐材または竹をいう。 ※４ 間伐材の確認は、林野庁作成の「間伐材チップの確認のためのガイドライン（平成21年２月13日）」に準拠して行うものとする。また、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの実配合割合については、各制度に基づくクレジット方式により運用を行ってもよい。（巻末「参考」を参照） ※５ ファンシーペーパー又は抄色紙（色上質紙及び染料を使用した色紙一般を含む。）には適用しない。ファンシーペーパー又は抄色紙であって、印刷に係る判断の基準（印刷参照）に示されたＡランク（紙へのリサイクルにおいて阻害とならないもの）の紙である場合は５、それ以外の紙である場合は０ ② 製品の総合評価値及びその内訳（指標項目ごとの、指標値又は加算値、及び評価値）がウエブサイト等で容易に確認できること。 ③ 再生利用しにくい加工が施されていないこと。 【配慮事項】 ○ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

表1（ａ）

配合率	60%未満	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%	100%
ポイント	0	50	55	60	65	70	75	80	85	90

表2（ｂ）

森林認証材材パルプ及び間伐材等パルプの利用割合の合計	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%
ポイント	5	10	15	20	25	30	35	40

表3（ｂ ただし書）

その他持続可能性を目指したパルプの利用割合	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%
ポイント	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20

表4（ｃ）

白色度	75%	73%	70%	68%	65%	63%	60%
ポイント	0	2	5	7	10	12	15

塗工されている印刷用紙	【判断の基準】 ① 総合評価値（※１）が80ポイント以上であること。 （以下のa～ｃのポイント合計が80ポイント以上であること。） ａ　古紙パルプ配合率60%以上であること。（60%以上で配点） 	配合率	60%未満	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%	100%
ポイント	0	50	55	60	65	70	75	80	85	90	 ｂ　バージンパルプ（※２）が使用される場合にあっては、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプ（※３、４）を使用したものであること。（40%までで配点） 	森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの利用割合の合計	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%
---	---	---	---	---	---	---	---	---
ポイント	5	10	15	20	25	30	35	40	 ただし、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの利用したものが調達不可能な場合にあっては、その他の持続可能性を目指したパルプを利用したものでもよい。（40%までで配点） 	その他持続可能性を目指したパルプの利用割合	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%
---	---	---	---	---	---	---	---	---
ポイント	2.5	5	7.5	10	12.5	15	17.5	20	 ｃ　塗工量が30g/㎡以下であること。（30g/㎡以下で配点） 	塗工量（g/㎡）	10g/㎡以下	10～20g/㎡以下	20～30g/㎡以下	30g/㎡超え
---	---	---	---	---
ポイント	15	10	5	0	 ※１　塗工されている印刷用紙においては、古紙パルプ配合率、森林認証材パルプ配合率、間伐材等パルプ配合率、その他の持続可能性を目指した原料の調達方針に基づいて使用するパルプ利用割合及び塗工量を総合評価したもの。評価の方法、紙の原料に関する事項等の詳細については、巻末「参考」を参照のこと。 ※２　バージンパルプの原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ※３　「間伐材等」とは、間伐材または竹をいう。 ※４　間伐材の確認は、林野庁作成の「間伐材チップの確認のためのガイドライン（平成21年２月13日）」に準拠して行うものとする。また、森林認証材パルプ及び間伐材等パルプの実配合割合については、各制度に基づくクレジット方式により運用を行ってもよい。（巻末「参考」を参照） ② 製品の総合評価値及びその内訳（指標項目ごとの、指標値又は加算値、及び評価値）がウエブサイト等で容易に確認できること。 ③ 再生利用しにくい加工が施されていないこと。 【配慮事項】 ○ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

【衛生用紙】〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
・トイレットペーパー ・ティッシュペーパー	【判断の基準】 ○　古紙パルプ配合率100%であること。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

３．文具類〔目標：100%〕〔全てエコマーク商品〕

(1) 品目及び判断の基準等

＜文具類共通＞〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
※括弧内は配慮事項に追加がある場合 ・シャープペンシル（下記①） ・シャープペンシル替芯（容器のみ） ・ボールペン（下記②） ・マーキングペン（下記③） ・鉛筆 ・スタンプ台（下記④） ・朱肉（下記⑤） ・印章セット（下記⑥） ・印箱 ・公印 ・ゴム印 ・回転ゴム印 ・定規 ・トレー ・消しゴム（巻紙（スリーブ）又はケースのみ） ・ステープラー（汎用型、汎用型以外）（下記⑦） ・ステープラー針リムーバー（下記⑦） ・連射式クリップ（本体） ・事務用修正具（テープ）（下記⑧） ・事務用修正具（液状）（容器のみ） ・ブックスタンド ・ペンスタンド ・クリップケース ・はさみ（下記⑨） ・マグネット（玉） ・マグネット（バー） ・テープカッター ・パンチ（手動） ・モルトケース（紙めくり用スポンジケース） ・紙めくりクリーム（容器のみ） ・鉛筆削（手動）（下記⑩） ・ＯＡクリーナー（ウェットタイプ）（容器のみ）（下記⑪）	【判断の基準】 ※　金属が主要材料であって、プラスチック、木質、又は紙を使用していないものは、対象外。 ○　金属を除く主要材料が、プラスチック、木質及び紙の場合は、次のそれぞれの要件を満たすこと。 ①　プラスチックの場合は、再生プラスチック（備考１）がプラスチック重量の40%以上使用されていること。 ※　スタンプ台、朱肉、連射式クリップ（本体）、事務用修正具（テープ）、ブックスタンド、ＯＡクリーナー（ウェットタイプ）、メディアケース、絵筆、ごみ箱、リサイクルボックスについては、④の判断基準を適用。 ②　木質の場合は、間伐材及び再生資源（合板・製材工場から発生する端材等）であること、又は、原料の原木は、適正な手続きにより伐採されたものであること。（配慮事項･･･持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。）（巻末「参考」を参照） ③　紙の場合は、紙の原料は古紙パルプ配合率50%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ④　再生プラスチック（備考１）が製品全体重量の70%以上使用されていること（消耗部分（備考２）を除く。）。ただし、ポストコンシューマ材料（※）からなる再生プラスチック（備考１）にあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。 ※　製品として使用された後、廃棄された材料又は製品 ⑤　ステープラー（汎用型）で主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック（備考１）が製品全体重量の70%以上使用されていること（機構部分を除く。）。 【配慮事項】 ①　古紙パルプ配合率、再生プラスチック（備考１）配合率が可能な限り高いものであること。 ②　使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

・ＯＡクリーナー（液タイプ）（容器のみ）（下記⑪） ・レターケース ・マウスパッド ・丸刃式紙裁断機（下記⑫） ・カッターナイフ ・カッティングマット（下記⑬） ・絵筆 ・絵の具（容器のみ） ・墨汁（容器のみ） ・のり（液状・澱粉のり）（補充用を含む。）（容器のみ）（下記⑭） ・のり（固形・テープ）（容器・ケースのみ）（下記⑮） ・ファイリング用品（※） ・アルバム ・カードケース ・パンチラベル（下記⑯） ・付箋フィルム（下記⑰） ・黒板拭き ・ホワイトボード用イレーザー ・額縁 ・ごみ箱 ・リサイクルボックス ・缶・ボトルつぶし機（手動） ・名札（机上用）（衣服取付型・首下げ型） ・鍵かけ（フックを含む。） 注）上記にない文具については、個別の判断基準を適用する。	※「ファイリング用品」とは、ファイル又はバインダーに補充して用いる背見出し、ポケット及び仕切紙をいう。

備考）１　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

２　「消耗部分」とは、使用することにより消耗する部分をいう。なお、消耗部分が交換可能な場合（カートリッジ等）は、交換可能な部分すべてを、消耗部分が交換不可能な場合（ワンウエイ）は、当該部分（インク等）のみを製品全体重量から除く。

＜判断基準は上記共通、配慮事項に追加のあるもの＞

品目	配慮事項（文具個別）
①シャープペンシル	○　残芯が可能な限り少ないこと。
②ボールペン	○　芯が交換できること。
③マーキングペン	○　消耗品が交換又は補充できること。
④スタンプ台	○　インク又は液が補充できること。
⑤朱肉	○　インク又は液が補充できること。

⑥印章セット	○　液が補充できること。
⑦ステープラー（汎用型※、汎用型以外） （針を用いない方式のものも含む）、 ステープラー針リムーバー	○　再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるように、分離又は分別の工夫がなされていること。 ※「ステープラー（汎用型）」とは JIS S6036 の２に規定するステープラつづり針の種類 10 号を使用するハンディタイプのものをいう。また、「ステープラー（汎用型以外）」とは、ステープラー（汎用型）以外のものをいい、針を用いない方式のものを含む。
⑧事務用修正具（テープ）	○　消耗品が交換できること。
⑨はさみ	○　再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるように、分離又は分別の工夫がなされていること。
⑩鉛筆削（手動）	○　再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるように、分離又は分別の工夫がなされていること。
⑪ＯＡクリーナー（ウェットタイプ・液タイプ）	○　内容物が補充できること。
⑫丸刃式紙裁断機	○　再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるように、分離又は分別の工夫がなされていること。
⑬カッティングマット	○　マットの両面が使用できること。
⑭のり（液状・澱粉のり） （補充用を含む。）	○　内容物が補充できること。
⑮のり（固形・テープ）	○　消耗品が交換できること。
⑯パンチラベル	○　粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであり、樹脂ラミネート加工がされていないこと。
⑰付箋フィルム	○　粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであること。

＜文具類の中で、個別に判断基準が設けられているもの＞〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
・クラフトテープ ・両面粘着紙テープ	【判断の基準】 ○　テープ基材については古紙パルプ配合率40%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） 【配慮事項】（クラフトテープのみ適用） ○　粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであり、樹脂ラミネート加工がされていないこと。
・粘着テープ（布粘着）	【判断の基準】 ○　テープ基材（ラミネート層を除く。）については再生プラスチック（備考１）がプラスチック重量の40%以上使用されていること。
・ダストブロワー	【判断の基準】 ○　オゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 ○　ハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと、又は地球温暖化係数が 140 未満の物質（備考２）が使用されていること。ただし、可燃性の高い物質が使用されている場合にあっては、製品に、その取扱いについての適切な記載がなされていること。

メディアケース ※　CD、DVD 及び BD 用のもの	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック（備考１）が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料（※）からなる再生プラスチック（備考１）にあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。 ※　製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品 ②　CD、DVD及びBD用にあっては、厚さ5mm程度以下のスリムタイプケースであること。 ③　植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考３）が使用されていること。
ＯＡフィルター （枠あり）	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　文具類共通の判断の基準を満たすこと、又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考３）が使用されていること。 ②　枠部は、再生プラスチック（備考１）が枠部全体重量の50%以上使用されていること。
ＯＨＰフィルム	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　再生プラスチック（備考１）がプラスチック重量の30%以上使用されていること。 ②　インクジェット用のものにあっては、上記①の要件を満たすこと、又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考３）が使用されていること。
・ファイル（※１） ・バインダー（※２）	【判断の基準】 ①　金属を除く主要材料が紙の場合にあっては、紙の原料は古紙パルプ配合率70％以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） 紙以外の場合は、、次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　文具類共通の判断の基準を満たすこと。 ②　クリアホルダーにあっては、上記①の要件を満たすこと、又は、植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考３）が使用されていること。（ファイルのみ） 【配慮事項】 ○　表紙ととじ具を分離し、部品を再使用、再生利用又は分別廃棄できる構造になっていること。 ※１　ファイルとは、穴をあけてとじる各種ファイル（フラットファイル、パイプ式ファイル、とじこみ表紙、ファスナー（とじ具）、コンピュータ用キャップ式等）及び穴をあけずにとじる各種ファイル（フォルダー、ホルダー、ボックスファイル、ドキュメントファイル、透明ポケット式ファイル、スクラップブック、Ｚ式ファイル、クリップファイル、用箋挟、図面ファイル、ケースファイル等穴をあけてとじる各種ファイル（フラットファイル、パイプ式ファイル、とじこみ表紙、ファスナー（とじ具）、コンピュータ用キャップ式等をいう。 ※２　バインダーとは、MP バインダー、リングバインダー等をいう。

つづりひも	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　主要材料が紙の場合にあっては、原料として使用した古紙パルプの重量が製品全体重量の70%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ②　主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック（備考１）が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料（※）からなる再生プラスチック（備考１）にあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。 ※　製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品 ③　上記①又は②以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。
事務用封筒（紙製）	【判断の基準】 ○　古紙パルプ配合率40%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照）
窓付き封筒（紙製）	【判断の基準】 ○　古紙パルプ配合率40%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） 〔窓部分に紙を使用している場合は、古紙パルプ配合率の判断の基準を窓部分には適用しない。〕 ○　窓部分にプラスチック製フィルムを使用している場合は、窓フィルムについては再生プラスチック（備考１）がプラスチック重量の40%以上使用されていること、又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考３）が使用されていること。
・けい紙 ・起案用紙 ・ノート	【判断の基準】 ○　古紙パルプ配合率70%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ○　塗工されているものについては塗工量が両面で30ｇ/㎡以下であり、塗工されていないものについては白色度が70%程度以下であること。
・タックラベル ・インデックス ・付箋紙	【判断の基準】 ○　主要材料が紙の場合にあっては、原料として使用した古紙パルプの重量が製品全体重量の70%以上であること（粘着部分（重量に関して備考４）を除く。）。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。 【配慮事項】 ○　粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであり、樹脂ラミネート加工がされていないこと。

チョーク	【判断の基準】 ○　再生材料が製品全体重量比で10%以上使用されていること。
グラウンド用白線	【判断の基準】 ○　再生材料が製品全体重量比で70%以上使用されていること。
梱包用バンド	【判断の基準】 ○　主要材料が紙の場合にあっては、古紙パルプ配合率100%であること。 ○　主要材料がプラスチックの場合にあっては、ポストコンシューマ材料（※）からなる再生プラスチック（備考１）が製品全体重量の25%以上使用されていること。ただし、廃ペットボトルのリサイクル製品は除く。 ※　製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品

備考）１　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

２　「地球温暖化係数が 140 未満の物質」とは、二酸化炭素、炭化水素及びハイドロフルオロオレフィン（HFO1234ze）等。

３　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

４　「粘着部分」とは、主としてラベル等に用いる感圧接着剤を塗布した面をいう。なお、粘着材及び剥離紙・剥離基材（台紙）を製品全体重量から除く。

４．オフィス家具等〔目標：100%〕〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
・いす ・机 ・棚 ・収納用什器（棚以外） ・ローパーティション ・コートハンガー ・傘立て ・掲示板 ・黒板 ・ホワイトボード（※） ※黒板以外の各種方式の筆記ボード	【判断の基準】 ○　大部分の材料が金属類（※）である棚又は収納用什器は①及び⑤、それ以外の場合は、金属を除く主要素材別に以下の②～④及び⑤の要件を満たすこと。 ※　製品に使用されている金属類が製品全体重量の95%以上であるもの。 ①　金属類の場合 収納庫（カルテ収納等の特殊用途は除く。）の棚板及び棚（書架・軽量棚・中量棚）の棚板にあっては、次のア、イ及びウの要件を、それ以外の場合にあっては、イ及びウの要件を満たすこと。 ア．区分ごとの基準（別表１）を上回らないこと。 イ．単一素材分解可能率（※）が85%以上であること。 ウ．別表２の評価項目ごとに評価基準に示された環境配慮設計がなされていること。 ※単一素材分解可能率（%）＝単一素材まで分解可能な部品数／製品部品数×100（算定方式） 次のいずれかに該当するものは、単一素材分解可能率の算定対象となる部品に含まれないものとする。 ①盗難、地震や操作上起こりうる転倒を防止するための部品（錠前、転倒防止機構部品、安定保持部品等） ②部品落下防止の観点から、本体より張り出しが起きる部位を保持する部品（ヒンジ、引出レール等） ③日本工業規格又はこれに準ずる部品の固定又は連結等に使用する付属のネジ ②　金属を除く主要材料がプラスチックの場合 再生プラスチック（備考１）がプラスチック重量の10%以上使用されていること、又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考２）がプラスチック重量の25%以上使用されていること。 ③　金属を除く主要材料が木質の場合 ア．間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源であること、又は原料の原木は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） イ．材料からのホルムアルデヒドの放散速度が、0.02mg/㎡h以下又はこれと同等のもの（備考３）であること。 ④　金属を除く主要材料が紙の場合 紙の原料は古紙パルプ配合率50%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ⑤　保守部品又は消耗品の供給期間は、当該製品の製造終了後５年以上であること。 【配慮事項】 ①　修理及び部品交換が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等部品の再使用若しくは素材の再生利用が容易になるような設計がなされていること。特に金属部分については、資源の有効な利用の促進に関する法律（平成3年法律第48号。）の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は材料の再生利用

	のための設計上の工夫がなされていること。 ② 使用される塗料は、粉体塗料、水性塗料等の有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ③ 使用済製品の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ④ 製品の包装又梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）１　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

２　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

３　放散速度が0.02mg/m²h以下と同等のものとは、次によるものとする。

ア．対応した日本工業規格又は日本農林規格があり、当該規格にホルムアルデヒドの放散量の基準が規定されている木質材料については、Ｆ☆☆☆の基準を満たしたもの。JIS S 1031に適合するオフィス用机・テーブル、JIS S 1032に適合するオフィス用いす、JIS S 1039に適合する書架・物品棚、及びJIS S 1033に適合するオフィス用収納家具は、本基準を満たす。

イ．上記 ア. 以外の木質材料については、JIS A1460 の規定する方法等により測定した数値が次の数値以下であるもの。

平均値	最大値
0.5mg/L	0.7mg/L

別表１　大部分の材料が金属類である棚又は収納用什器（収納庫）の棚板に係る機能重量の基準

区　　　分	基準
収納庫（カルテ収納棚等の特殊用途は除く。）の棚板	0.1
棚（書架・軽量棚・中量棚）の棚板	0.1

備考）棚板に適用される機能重量の基準の算出方法は、次式による。

機能重量の基準＝棚板重量（kg）÷棚耐荷重（kg）

別表２　大部分の材料が金属類である棚又は収納用什器に係る環境配慮設計項目

目　　的	評 価 項 目	評 価 基 準
リデュース配慮設計	原材料の使用削減	原材料の使用量の削減をしていること。
	軽量化・減量化	部品・部材の軽量化・減量化をしていること。
リサイクル配慮設計	再生可能材料の使用	再生可能な材料を使用していること。
	再生可能材料部品の分離・分解の容易化	再生可能な材料を使用している部分は部品ごとに簡易に分離・分解できる接合方法であること。
		その他の部品は容易に取り外しができること。
	再生資源としての利用	合成樹脂部分の材料表示を図っていること。
		材質ごとに分別できる工夫を図っていること。

５．ＯＡ機器〔目標：100%〕〔一部以外エコマーク商品〕

５－１　コピー機等〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
・コピー機 ・複合機 ・拡張性のあるデジタルコピー機	【判断の基準】 ＜共通事項＞ ①　使用される用紙がグリーン購入対象品目に該当する場合は、グリーン購入適合品を使用することが可能であること（※）。 ※　本体機能への影響や印刷品質に問題なく使用できる用紙であることが前提。 ②　次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．リユースに配慮したもの（※）であること。 ※　製造時にリユースを行なうシステムが構築･維持され、そのシステムから製造されたものであり、再生型機（使用済みの製品を部分分解・洗浄・修理し、新品同等品質又は一定品質に満たない部品を交換し、専用ラインで組み立てた製品）及び部品リユース型機（使用済みの製品を全分解・洗浄・修理し、新造機と同一品質を保証できる部品を新造機と同等の製造ラインで組み立てた製品）を指す。 イ．特定の化学物質（※）の使用（備考１）が制限されたものであること。 ※　特定の化学物質とは、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ポリブロモビフェニル並びにポリブロモジフェニルエーテルをいう。 ＜個別事項＞ ①　コピー機又は拡張性のあるデジタルコピー機 ア．コピー機又は拡張性のあるデジタルコピー機（カラーコピー機能を有するもの及び大判機を除く。）にあっては、別表１－１（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 イ．カラーコピー機能を有するコピー機又は拡張性のあるデジタルコピー機（大判機を除く。）にあっては、別表２－１（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ウ．大判コピー機又は拡張性のある大判デジタルコピー機（※１）にあっては、別表３（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ②　複合機（インクジェット方式を除く） ア．複合機（カラーコピー機能を有するもの及び大判複合機（※１）を除く。）にあっては、別表１－２（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 イ．カラーコピー機能を有する複合機（大判複合機（※１）を除く。）にあっては、別表２－２（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ウ．大判複合機（※１）にあっては、別表３（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ③　インクジェット方式の複合機 ア．インクジェット方式の複合機（大判複合機（※１）を除く。）にあっては、別表４－１（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 イ．インクジェット方式の大判複合機（※１）にあっては、別表４－２（※２）に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ※１　幅が406mm以上の連続媒体に対応する製品を含み、A2又はそれ以上の媒体用に設計された製品が含まれる。 ※２　リユースに配慮したコピー機等の判断基準のについては、使用済みの製品の回収までに相当程度期間を要することから、別表１－１、別表１－２、別表２－１、別表２－２、別表３、別表４－１及び別

	表４－２の基準を満たす製品が市場に供給されるまでの期間は、引き続き別表６－１から別表６－６の該当する要件を満たすことでグリーン購入適合品とみなすことにする。 なお、期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。 【配慮事項】 ①　使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合は、この限りでない。 ②　資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、部品の再使用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。特に希少金属類（※）を含む部品の再使用のための設計上の工夫がなされていること。 ※　希少金属類とは、昭和59年8月の通商産業省鉱業審議会レアメタル総合対策特別小委員会におい特定された31鉱種（希土類は17元素を1鉱種として考慮）の金属をいう。 ④　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考２）が可能な限り使用されていること。 ⑤　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑥　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※調達時の留意事項 ①　リユースに配慮したコピー機等は、使用済みの製品を回収し、厳密な品質検査を経て生産工程に供給後、当該機器の製造が可能となることから、安定的な製品供給が必ずしも保証されない場合がある。調達に際しては、グリーン購入適合品であること以外の入札等の要件を示す場合は、判断基準の共通事項②ア及びイについて併記すること。 ②　コピー機等の調達時に、機器本体の消耗品としてトナー容器単体で構成される消耗品を有する場合にあっては、本基本方針に示した品目「トナーカートリッジ」の判断の基準⑤の「トナーの化学安全性が確認されていること」を満たす場合は、特定調達物品等と同等の扱いとすること。 ③　コピー機、複合機及び拡張性のあるデジタルコピー機については、平成26年度の1年間は経過措置を設けることとし、この期間においては、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成25年2月5日閣議決定）のコピー機、複合機及び拡張性のあるデジタルコピー機に係る判断の基準を満たすことをもって特定調達物品等とみなすこととする。

備考）１　特定の化学物質の使用については、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書Ａの表 A.1（特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値以下とし、基準値を超える含有が許容される項目については、上記 JIS の附属書Ｂに準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについては JIS C 0950:2008 に準ずるものとする。

２　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１－１　コピー機又は拡張性のあるデジタルコピー機（カラーコピー機能を有するもの及び大判機を除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦5	≦0.3	要件なし
5＜ipm≦20	≦0.04×ipm＋0.1	
20＜ipm≦24	≦0.06×ipm－0.3	
24＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜37	≦0.11×ipm－1.8	
37≦ipm≦40		基本製品に内蔵されている
40＜ipm≦65	≦0.16×ipm－3.8	
65＜ipm≦90	≦0.2×ipm－6.4	
90＜ipm	≦0.55×ipm－37.9	

備考）　１　「製品速度」とは、モノクロ画像を生成する際の最大公称片面印刷速度であり、すべての場合において、算出された ipm 速度は、最も近い整数に四捨五入される。1ipm（分当たりの画像数）とは、1 分間に A4 判又は 8.5″×11″の用紙 1 枚の片面を印刷することとする。A4 判用紙と 8.5″×11″用紙とで異なる場合は、その 2 つの速度のうち速い方を適用する。以下別表１－２、別表２－１、別表２－２、別表３、別表４－１及び別表４－２において同じ。

２　A3 判の用紙に対応可能な製品（幅が 275mm 以上の用紙を使用できる製品。）については、区分ごとの基準に 0.3kWh を加えたものを基準とする。以下別表１－２、別表２－１及び別表２－２において同じ。

３　標準消費電力量の測定方法については、「国際エネルギースタープログラム要件　画像機器の製品基準　画像機器のエネルギー使用量を判断するための試験方法バージョン2.0」による。以下別表１－２、別表２－１及び別表２－２において同じ。

別表１－２　カラーコピー機能を有するコピー機又は拡張性のあるデジタルコピー機（大判機を除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦10	≦1.3	要件なし
10＜ipm≦15	≦0.06×ipm＋0.7	
15＜ipm≦19	≦0.15×ipm－0.65	
19＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜35	≦0.2×ipm－2.15	
35≦ipm≦75		基本製品に内蔵されている
75＜ipm	≦0.7×ipm－39.65	

別表２－１　複合機（カラーコピー機能を有するもの及び大判複合機を除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦5	≦0.4	要件なし
5＜ipm≦24	≦0.07×ipm＋0.05	
24＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜37	≦0.11×ipm－1.15	
37≦ipm≦50		基本製品に内蔵されている
50＜ipm≦80	≦0.25×ipm－8.15	
80＜ipm	≦0.6×ipm－36.15	

別２－２　カラーコピー機能を有する複合機（大判複合機を除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦10	≦1.5	要件なし
10＜ipm≦15	≦0.1×ipm＋0.5	
15＜ipm≦19	≦0.13×ipm＋0.05	
19＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜35	≦0.2×ipm－2.05	
35≦ipm≦70		基本製品に内蔵されている
70＜ipm≦80	≦0.7×ipm－37.05	
80＜ipm	≦0.75×ipm－41.05	

別表３　大判コピー機、拡張性のある大判デジタルコピー機又は大判複合機に係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

製品速度（ipm）	スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
ipm≦30	30 分	≦8.2W	≦0.5W
30＜ipm	60 分		

備考）　１　「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。以下別表４－１及び別表４－２において同じ。

２　スリープモード消費電力の基準は、本表の基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力に別表５の追加機能に対するスリープモード消費電力許容値を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。以下別表４－１及び別表４－２において同じ。

３　消費電力の測定方法については、「国際エネルギースタープログラム要件　画像機器の製品基準　画像機器のエネルギー使用量を判断するための試験方法バージョン 2.0」による。以下別表４－１及び別表４－２において同じ。

別表４－１　インクジェット方式の複合機に係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

製品速度（ipm）	スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
ipm≦10	15 分	≦0.6W	≦0.5W
10＜ipm≦20	30 分		
20＜ipm	60 分		

別表４－２　インクジェット方式の大判複合機に係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

製品速度（ipm）	スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
ipm≦30	30 分	≦4.9W	≦0.5W
30＜ipm	60 分		

別表５　追加機能に対するスリープモード消費電力許容値

追加機能の種類	接続の種類	最大データ速度ｒ（Mbit/秒）	詳細	追加機能許容値（W）
インターフェース	有線	ｒ＜20	例：USB1.x、IEEE488、IEEE1284／パラレル／セントロニクス、RS232C	0.2
		20≦ｒ＜500	例：USB2.x、IEEE1394／ファイヤワイヤ／i.LINK、100Mb イーサネット	0.4
		ｒ≧500	例：USB3.x、1Gb イーサネット	0.5
		任意	例：フラッシュメモリカード／スマートカードリーダー、カメラインターフェース、ピクトブリッジ	0.2
	ファックスモデム	任意	ファクシミリと複合機のみに適用	0.2
	無線、無線周波数（RF）	任意	例：ブルートゥース、802.11	2.0
	無線、赤外線（IR）	任意	例：IrDA	0.1
コードレス電話機	該当なし	該当なし	コードレス電話機と通信する画像製品の能力。画像製品が対応するように設計されているコードレス電話機の数に関係なく、1 回のみ適用される。コードレス電話機自体の消費電力要件に対応していない。	0.8
メモリ	該当なし	該当なし	画像製品においてデータ保存用に利用可能な内部容量に適用される。内部メモリの全容量に適用され、RAM に応じて増減する。この許容値は、ハードディスク又はフラッシュメモリには適用されない。	0.5/GB
スキャナ	該当なし	該当なし	複合機及び複写機にのみ適用 例：冷陰極蛍光ランプ（CCFL）あるいは、発光ダイオード（LED）、ハロゲン、熱陰極蛍光管（HCFT）、キセノン又は管状蛍光灯（TL）技術等の CCFL ではない他の技術（ランプの大きさ、又は採用されているランプ／電球の数に関係なく、1 回のみ適用される）。	0.5
電源装置	該当なし	該当なし	標準形式のインクジェット又はインパクトマーキング技術を使用する製品における銘板出力電力（Pout）が 10W を超える内部及び外部電源装置の両方に対して適用される。	0.02×（Pout－10.0）
タッチパネルディスプレイ	該当なし	該当なし	モノクロ及びカラーの両方のタッチパネルディスプレイに適用される。	0.2
内部ディスクドライブ	該当なし	該当なし	ハードディスク及び半導体ドライブを含め、あらゆる大容量ストレージ製品が含まれる。外部ドライブに対するインターフェイスは対象ではない。	0.15

備考）追加機能の種類のうち、インターフェース追加機能のファクシミリ機能を含めた許容値の数は 2 以下であり、非インターフェース追加機能の許容値の数は無制限である。

別表６－１　リユースに配慮したコピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

コピー速度 (CPM:1分当たりのコピー枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード への 移行時間	低電力モード からの 復帰時間	オフモード 消費電力	オフモード への 移行時間	両面コピー機能
0＜CPM≦20	－	－	－	≦ 5W	≦30分	推奨
20＜CPM≦44	≦3.85×CPM+5W	≦15分	≦30秒	≦15W	≦60分	必須
44＜CPM	≦3.85×CPM+5W	≦15分	≦30秒 （推奨）	≦20W	≦90分	必須

備考）１　「コピー速度」とは、1分当たりのコピー枚数(CPM)をいう。以下別表６－２において同じ。

両面コピーについてはコピー枚数を2枚と計算する。

大判コピー機を除くコピー機については、A4サイズの用紙を用いた場合のコピー速度とする。また、大判コピー機については、当該機器の最大サイズの1分当たりのコピー枚数を次のようにA4サイズの用紙のコピー枚数に換算してコピー速度を算定する。

①A2サイズの用紙は、コピー枚数を4倍すること。
②A1サイズの用紙は、コピー枚数を8倍すること。
③A0サイズの用紙は、コピー枚数を16倍すること。

２　「両面コピー機能」とは、自動的に両面をコピー又は画像出力することができる機能とする。以下別表６－３及び別表６－５において同じ。

３　「推奨」とは、両面コピー機能を備えていること又は両面コピー機能を付加的に備えることができることが望ましいことをいう。以下別表６－３及び別表６－５において同じ。

４　「必須」とは、両面コピー機能を備えていること又は両面コピー機能を付加的に備えることができることをいう。以下別表６－３及び別表６－５において同じ。

５　「低電力モード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられ実現される低電力状態をいう。以下別表６－２から別表６－６において同じ。

６　「オフモード」とは、一定時間が経過した後に自動オフ機能によって電源を切った状態をいう。以下別表６－２、別表６－５及び別表６－６において同じ。

７　消費電力の測定方法については、国際エネルギースタープログラム制度運用細則（平成18年1月1日施行）別表第２による。以下別表６－２から別表６－６において同じ。

８　低電力モードの消費電力が常にオフモードの消費電力を満たす場合は、オフモードを備える必要はない。以下別表６－２、別表６－５及び別表６－６において同じ。

別表６－２　リユースに配慮した大判コピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

コピー速度 (CPM：1分当たりのコピー枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード への 移行時間	低電力モード からの 復帰時間	オフモード 消費電力	オフモード への 移行時間
0＜CPM≦40	－	－	－	≦10W	≦30分
40＜CPM	≦3.85×CPM+5W	≦15分	≦30秒 （推奨）	≦20W	≦90分

別表６－３　リユースに配慮した複合機（カラーコピー機能を有するものを含む。）に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度(ipm：1分当たりの画像出力枚数)	低電力モード消費電力	低電力モードからの復帰時間	スリープモード消費電力	スリープモードへの移行時間	両面コピー機能
0＜ipm≦ 10	－	－	≦ 25W	≦ 15分	推奨
10＜ipm≦ 20	－	－	≦ 70W	≦ 30分	推奨
20＜ipm≦ 44	≦3.85×ipm+50W	≦30秒	≦ 80W	≦ 60分	必須
44＜ipm≦100	≦3.85×ipm+50W	≦30秒(推奨)	≦ 95W	≦ 90分	必須
100＜ipm	≦3.85×ipm+50W	≦30秒(推奨)	≦105W	≦120分	必須

備考）１　「スリープモード」とは、低電力モードに移行後に引き続き出力動作が行われなかった場合、電源を切ることなしに自動的に切り替えられ連続的に実現される第二の低電力状態をいう。以下別表６－４について同じ。

２　低電力モードの消費電力が常にスリープモードの消費電力を満たす場合は、スリープモードを備える必要はない。以下別表６－４において同じ。

３　低電力モードへの移行時間は出荷時に15分以下にセットする。以下別表６－４から別表６－６において同じ。

別表６－４　リユースに配慮した大判複合機に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度(ipm：1分当たりの出力枚数)	低電力モード消費電力	低電力モードからの復帰時間	スリープモード消費電力	スリープモードへの移行時間
0＜ipm≦40	－	－	≦70W	≦30分
40＜ipm	≦4.85×ipm+50W	≦30秒(推奨)	≦105W	≦90分

別表６－５　リユースに配慮した拡張性のあるデジタルコピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度(ipm：1分当たりの画像出力枚数)	低電力モード消費電力	低電力モードからの復帰時間	オフモード消費電力	オフモードへの移行時間	両面コピー機能
0＜ipm≦10	－	－	≦5W	≦15分	推奨
10＜ipm≦20	－	－	≦5W	≦30分	推奨
20＜ipm≦44	≦3.85×ipm+5W	≦30秒	≦15W	≦60分	必須
44＜ipm≦100	≦3.85×ipm+5W	≦30秒(推奨)	≦20W	≦90分	必須
100＜ipm	≦3.85×ipm+5W	≦30秒(推奨)	≦20W	≦120分	必須

別表６－６　リユースに配慮した拡張性のある大判デジタルコピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度(ipm：1分当たりの画像出力枚数)	低電力モード消費電力	低電力モードからの復帰時間	オフモード消費電力	オフモードへの移行時間
0＜ipm≦40	－	－	≦65W	≦30分
40＜ipm	≦4.85×ipm+45W	－	≦100W	≦90分

５－２ 電子計算機〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
電子計算機	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「電子計算機」に含まれないものとする。 ①　複合理論性能が１秒につき 20 万メガ演算以上のもの ②　256 を超えるプロセッサからなる演算処理装置を用いて演算を実行することができるもの ③　入出力用信号伝送路（最大データ転送速度が１秒につき 100 メガビット以上のものに限る。）が 512 本以上のもの ④　演算処理装置、主記憶装置、入出力制御装置及び電源装置がいずれも多重化された構造のもの ⑤　複合理論性能が１秒につき 100 メガ演算未満のもの ⑥　専ら内蔵された電池を用いて、電力線から電力供給を受けることなしに使用されるものであって、磁気ディスク装置を内蔵していないもの ①　次のいずれかの要件を満たすこと。 ア. サーバ型電子計算機（備考1）にあっては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を上回らないこと。 イ. クライアント型電子計算機（備考２）にあっては、エネルギー消費効率が別表２に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を上回らないこと。 ②　特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）は、含有率基準値（備考３）を超えないこと。また、当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。（※） ※　この基準は、パーソナルコンピュータに適用 ③　一般行政事務用ノートパソコン（※１）の場合にあっては、搭載機器・機能の簡素化（※２）がなされていること。 ※１　クライアント型電子計算機のうち電池駆動型のものであって、通常の行政事務の用に供するもの（携帯を行う場合や一般行政事務以外の用途に使用されるものは除く。）をいう。 ※２「搭載機器・機能の簡素化」とは、次の要件を満たすことをいう。なお、赤外線通信ポート、シリアルポート、パラレルポート、PC カード、S-ビデオ端子等のインターフェイスは、装備されていないことが望ましい。 ア. 内臓モデム、無線 LAN、CD/DVD、BD 等は、標準搭載されていないこととし、調達時に選択又は外部接続可能であること。 イ. 周辺機器を接続するための USB インターフェイスを複数備えていること。 【配慮事項】 ①　資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　一般行政事務用ノートパソコンにあっては、二次電池（バッテリ）の駆動時間（※）が必要以上に長くないこと。 ※　停電等の緊急時において、コンピュータを終了させ、電源を遮断する（シャットダウン）ための時間が確保されていること。 ③　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること。 ④　筐体又は部品にプラスチックが使用される場合には、再生プラスチック（備考４）が可能な限り使用されていること、又は、植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考５）が可能な限り使用されていること。（※）

	※　植物を原料とするプラスチックを使用する場合にあっては、次の事項が担保されていること。 ア.環境負荷低減効果に係る情報が開示・公表されていること。 イ.使用済製品の回収及びリサイクルのシステムがあること。 ウ.リサイクルの阻害要因とならないよう、植物を原料とするプラスチックの使用部位に関する情報開示がなされていること。 ⑤　筐体又は筐体部品にマグネシウム合金が使用される場合には、再生マグネシウム合金が可能な限り使用されていること。 ⑥　製品とともに提供されるマニュアルやリカバリCD等の付属品が可能な限り削減されていること。 ⑦　製品の包装又梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑧　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※調達時、調達後の留意点 ア.化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。 イ.調達に当たって、使用目的・事業内容を十分勘案し、必要な機器・機能のみを要件とすること。 ウ.マニュアルやリカバリ CD 等の付属品については必要最小限とするようなライセンス契約の方法を検討すること。

備考）１　「サーバ型電子計算機」とは、ネットワークを介してサービス等を提供するために設計された電子計算機をいう。

２　「クライアント型電子計算機」とは、サーバ型電子計算機以外の電子計算機をいう。

３　判断の基準②の特定の化学物質の含有率基準値は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める基準による。なお、同 JIS の付属書 B の除外項目に該当するものは、特定の化学物質の含有率基準値を超える含有が許容されるものとする。

４　「再生プラスチック」とは、製品として使用された後に廃棄されたプラスチック及び製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材又は不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

５　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

別表１　サーバ型電子計算機に係る基準エネルギー消費効率

区分			基準エネルギー消費効率
CPU の種別	I/O スロット数	CPU ソケット数	
専用 CISC	32 未満		1,950
	32 以上		2,620
RISC	8 未満		13
	8 以上 40 未満		31
	40 以上		140
IA64	10 未満		6.2
	10 以上		22
IA32	0		1.3
	1 以上 7 未満	2 未満	1.2
		2 以上 4 未満	1.9
		4 以上	6.7
	7 以上		7.4

備考）　１　「専用 CISC」とは、ビット数の異なる複数の命令を実行できるように設計された CPU のうち、電子計算機毎に専用に設計されたものをいう。

２　「RISC」とは、ビット数の異なる複数の命令を実行できるように設計された CPU 以外の CPU をいう。

３　「IA64」とは、ビット数の異なる複数の命令を実行できるように設計された CPU のうち、専用 CISC 以外のものであって、64 ビットアーキテクチャのものをいう。

４　「IA32」とは、ビット数の異なる複数の命令を実行できるように設計された CPU のうち、専用 CISC 以外のものであって、32 ビットアーキテクチャのものをいう。

５　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 74 号（平成 22 年 3 月 31 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

別表２　クライアント型電子計算機に係る基準エネルギー消費効率

<table>
<tr><th colspan="4">区　　　　分</th><th rowspan="2">基準エネルギー消費効率</th></tr>
<tr><th>クライアント型電子計算機の電源及びメモリチャネル数の種別</th><th>主記憶容量</th><th>独立型GPU</th><th>画面サイズ</th></tr>
<tr><td rowspan="6">電池駆動型のものであってメモリチャネル数が２以上のもの</td><td>16 ギガバイト以上</td><td></td><td></td><td>2.25</td></tr>
<tr><td>4 ギガバイト超
16 ギガバイト未満</td><td></td><td></td><td>0.34</td></tr>
<tr><td rowspan="4">4 ギガバイト以下</td><td rowspan="2">搭載</td><td>17 型以上</td><td>0.31</td></tr>
<tr><td>17 型未満</td><td>0.21</td></tr>
<tr><td rowspan="2">非搭載</td><td>12 型以上 17 型未満</td><td>0.15</td></tr>
<tr><td>12 型未満</td><td>0.21</td></tr>
<tr><td>電池駆動型以外のものであってメモリチャネル数が２以上のもののうち電源装置にＡＣアダプターを用いるもの</td><td></td><td></td><td></td><td>0.29</td></tr>
<tr><td rowspan="4">電池駆動型以外のものであってメモリチャネル数が２以上のもののうち電源装置にＡＣアダプターを用いないもの</td><td>16 ギガバイト以上</td><td></td><td></td><td>2.25</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4 ギガバイト超
16 ギガバイト未満</td><td>搭載</td><td></td><td>0.51</td></tr>
<tr><td>非搭載</td><td></td><td>0.64</td></tr>
<tr><td>4 ギガバイト以下</td><td></td><td></td><td>0.53</td></tr>
<tr><td>メモリチャネル数が２未満のもの</td><td></td><td></td><td></td><td>0.51</td></tr>
</table>

備考）１　「メモリチャネル数」とは、メモリコントローラから分岐する主記憶装置へのバスインターフェースの論理チャネルの数をいう。

２　「電池駆動型」とは、専ら内蔵された電池を用いて、電力線から電力供給を受けることなしに使用され得るものをいう。

３　「独立型 GPU」とは、画像データ処理用のプロセッサのうち、専用のローカルメモリを有するものをいう。

４　「画面サイズ」とは、表示画面の対角外径寸法をセンチメートル単位で表した数値を 2.54 で除して小数点第２位以下を四捨五入した数値をいう。

５　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 74 号（平成 22 年 3 月 31 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

５－３ プリンタ等〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
プリンタ プリンタ／ファクシミリ兼用機	【判断の基準】 ① プリンタ又はプリンタ／ファクシミリ兼用機（大判プリンタ（※）を除く。）にあっては、下記アからエの表番号に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ※ 幅が406mm以上の連続媒体に対応する製品を含み、A2又はそれ以上の媒体用に設計された製品が含まれる。 ア．モノクロプリンタ（高性能インクジェット方式を含み、インクジェット方式及びインパクト方式を除く。）･･･別表１－１ モノクロプリンタ／ファクシミリ兼用機･･･別表１－２ イ．カラープリンタ（高性能インクジェット方式を含み、インクジェット方式及びインパクト方式を除く。）･･･別表２－１ カラープリンタ／ファクシミリ兼用機･･･別表２－２ ウ．インクジェット方式のプリンタ･･･別表３ エ．インパクト方式のプリンタ･･･別表４ ② 大判プリンタ（①※）のうちインクジェット方式のものは別表４－１に示された区分ごとの基準、それ以外のものは別表４－２に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ③ 使用される用紙がグリーン購入対象品目に該当する場合は、グリーン購入適合品を使用することが可能であること（※）。 ※ 本体機能への影響や印刷品質に問題なく使用できる用紙であることが前提。 【配慮事項】 ① 使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合には、この限りでない。 ② 分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③ 一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ④ 紙の使用量を削減できる機能を有すること。 ⑤ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑥ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※ プリンタ等の調達時に、機器本体の消耗品としてトナー容器単体で構成される消耗品を有する場合にあっては、本基本方針に示した品目「トナーカートリッジ」の判断の基準⑤の「トナーの化学安全性が確認されていること」を満たす場合は、グリーン購入適合品等と同等の扱いとすること。 ※ 平成26年度の1年間は経過措置を設けることとし、この期間においては、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成25年2月5日閣議決定）のプリンタ及びプリンタ／ファクシミリ兼用機に係る判断の基準を満たすことをもって特定調達物品等とみなすこととする。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１－１　モノクロプリンタ（インクジェット方式、インパクト方式及び大判プリンタを除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦5	≦0.3	要件なし
5＜ipm≦20	≦0.04×ipm＋0.1	
20＜ipm≦24	≦0.06×ipm－0.3	
24＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜37	≦0.11×ipm－1.8	
37≦ipm≦40		基本製品に内蔵されている
40＜ipm≦65	≦0.16×ipm－3.8	
65＜ipm≦90	≦0.2×ipm－6.4	
90＜ipm	≦0.55×ipm－37.9	

備考）　１　「製品速度」とは、モノクロ画像を生成する際の最大公称片面印刷速度であり、すべての場合において、算出された ipm 速度は、最も近い整数に四捨五入される。1ipm（分当たりの画像数）とは、1 分間に A4 判又は 8.5″×11″の用紙 1 枚の片面を印刷することとする。A4 判用紙と 8.5″×11″用紙とで異なる場合は、その 2 つの速度のうち速い方を適用する。以下別表１－２、別表２－１及び別表２－２において同じ。

２　A3 判の用紙に対応可能な製品（幅が 275mm 以上の用紙を使用できる製品。）については、区分ごとの基準に 0.3kWh を加えたものを基準とする。以下別表１－２、別表２－１及び別表２－２において同じ。

別表１－２　モノクロプリンタ／ファクシミリ兼用機（インクジェット方式、インパクト方式及び大判プリンタを除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦5	≦0.4	要件なし
5＜ipm≦24	≦0.07×ipm＋0.05	
24＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜37	≦0.11×ipm－1.15	
37≦ipm≦50		基本製品に内蔵されている
50＜ipm≦80	≦0.25×ipm－8.15	
80＜ipm	≦0.6×ipm－36.15	

別表２－１　カラープリンタ（インクジェット方式、インパクト方式及び大判プリンタを除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦10	≦1.3	要件なし
10＜ipm≦15	≦0.06×ipm＋0.7	
15＜ipm≦19	≦0.15×ipm－0.65	
19＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜35	≦0.2×ipm－2.15	
35≦ipm≦75		基本製品に内蔵されている
75＜ipm	≦0.7×ipm－39.65	

別表２－２　カラープリンタ／ファクシミリ兼用機（インクジェット方式、インパクト方式及び大判プリンタを除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）	自動両面要件
ipm≦10	≦1.5	要件なし
10＜ipm≦15	≦0.1×ipm＋0.5	
15＜ipm≦19	≦0.13×ipm＋0.05	
19＜ipm≦30		基本製品に内蔵されている、あるいは任意の付属品
30＜ipm＜35	≦0.2×ipm－2.05	
35≦ipm≦70		基本製品に内蔵されている
70＜ipm≦80	≦0.7×ipm－37.05	
80＜ipm	≦0.75×ipm－41.05	

別表３　インクジェット方式又はインパクト方式のプリンタ（大判プリンタを除く。）に係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

製品速度（ipm）	スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
ipm≦10	5 分	≦0.6W	≦0.5W
10＜ipm≦20	15 分		
20＜ipm≦30	30 分		
30＜ipm	60 分		

備考）　１　「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。別表４－１及び別表４－２において同じ。

２　スリープモード消費電力の基準は、本表の基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力に別表５の追加機能に対するスリープモード消費電力許容値を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。別表４－１及び別表４－２において同じ。

３　消費電力の測定方法については、「国際エネルギースタープログラム要件　画像機器の製品基準　画像機器のエネルギー使用量を判断するための試験方法バージョン 2.0」による。以下別表４－１及び別表４－２において同じ。

別表４－１　インクジェット方式の大判プリンタに係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

製品速度（ipm）	スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
ipm≦30	30 分	≦4.9W	≦0.5W
30＜ipm	60 分		

別表４－２　インクジェット方式以外の大判プリンタに係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

製品速度（ipm）	スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
ipm≦30	30 分	≦2.5W	≦0.5W
30＜ipm	60 分		

別表５　追加機能に対するスリープモード消費電力許容値

追加機能の種類	接続の種類	最大データ速度ｒ（Mbit/秒）	詳細	追加機能許容値（W）
インターフェース	有線	ｒ＜20	例：USB1.x、IEEE488、IEEE1284／パラレル／セントロニクス、RS232C	0.2
		20≦ｒ＜500	例：USB2.x、IEEE1394／ファイヤワイヤ／i.LINK、100Mb イーサネット	0.4
		ｒ≧500	例：USB3.x、1Gb イーサネット	0.5
		任意	例：フラッシュメモリカード／スマートカードリーダー、カメラインターフェース、ピクトブリッジ	0.2
	ファックスモデム	任意	ファクシミリと複合機のみに適用	0.2
	無線、無線周波数（RF）	任意	例：ブルートゥース、802.11	2.0
	無線、赤外線（IR）	任意	例：IrDA	0.1
コードレス電話機	該当なし	該当なし	コードレス電話機と通信する画像製品の能力。画像製品が対応するように設計されているコードレス電話機の数に関係なく、1 回のみ適用される。コードレス電話機自体の消費電力要件に対応していない。	0.8
メモリ	該当なし	該当なし	画像製品においてデータ保存用に利用可能な内部容量に適用される。内部メモリの全容量に適用され、RAM に応じて増減する。この許容値は、ハードディスク又はフラッシュメモリには適用されない。	0.5/GB
スキャナ	該当なし	該当なし	複合機及び複写機にのみ適用 例：冷陰極蛍光ランプ（CCFL）あるいは、発光ダイオード（LED）、ハロゲン、熱陰極蛍光管（HCFT）、キセノン又は管状蛍光灯（TL）技術等の CCFL ではない他の技術（ランプの大きさ、又は採用されているランプ／電球の数に関係なく、1 回のみ適用される）。	0.5
電源装置	該当なし	該当なし	標準形式のインクジェット又はインパクトマーキング技術を使用する製品における銘板出力電力（Pout）が 10W を超える内部及び外部電源装置の両方に対して適用される。	0.02×（Pout－10.0）
タッチパネルディスプレイ	該当なし	該当なし	モノクロ及びカラーの両方のタッチパネルディスプレイに適用される。	0.2
内部ディスクドライブ	該当なし	該当なし	ハードディスク及び半導体ドライブを含め、あらゆる大容量ストレージ製品が含まれる。外部ドライブに対するインターフェイスは対象ではない。	0.15

備考）追加機能の種類のうち、インターフェース追加機能のファクシミリ機能を含めた許容値の数は 2 以下であり、非インターフェース追加機能の許容値の数は無制限である。

５－４　ファクシミリ

品目	判断の基準等
ファクシミリ	【判断の基準】 ①　モノクロファクシミリ（インクジェット方式を除く。） 別表１に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ②　カラーファクシミリ（インクジェット方式を除く。） 別表２に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ③　インクジェット方式のファクシミリ 別表３に示された基準を満たすこと。 【配慮事項】 ①　使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合には、この限りでない。 ②　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　平成26年度の1年間は経過措置を設けることとし、この期間においては、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成25年2月5日閣議決定）のファクシミリに係る判断の基準を満たすことをもって特定調達物品等とみなすこととする。

備考）・　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１　モノクロファクシミリ（インクジェット方式を除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）
ipm≦5	≦0.3
5＜ipm≦20	≦0.04×ipm＋0.1
20＜ipm≦30	≦0.06×ipm－0.3
30＜ipm≦40	≦0.11×ipm－1.8
40＜ipm≦65	≦0.16×ipm－3.8
65＜ipm≦90	≦0.2×ipm－6.4
90＜ipm	≦0.55×ipm－37.9

備考）　1　「製品速度」とは、モノクロ画像を生成する際の最大公称片面印刷速度であり、すべての場合において、算出された ipm 速度は、最も近い整数に四捨五入される。1ipm（分当たりの画像数）とは、1 分間に A4 判又は 8.5″×11″の用紙 1 枚の片面を印刷することとする。A4 判用紙と 8.5″×11″用紙とで異なる場合は、その 2 つの速度のうち速い方を適用する。別表２において同じ。

2　A3 判の用紙に対応可能な製品（幅が 275mm 以上の用紙を使用できる製品。）については、区分ごとの基準に 0.3kWh を加えたものを基準とする。別表２において同じ。

3　標準消費電力量の測定方法については、「国際エネルギースタープログラム要件　画像機器の製品基準　画像機器のエネルギー使用量を判断するための試験方法バージョン 2.0」による。以下別表２及び別表３において同じ。

別表２　カラーファクシミリ（インクジェット方式を除く。）に係る標準消費電力量の基準

製品速度（ipm）	基準（kWh）
ipm≦10	≦1.3
10＜ipm≦15	≦0.06×ipm＋0.7
15＜ipm≦30	≦0.15×ipm－0.65
30＜ipm≦75	≦0.2×ipm－2.15
75＜ipm	≦0.7×ipm－39.65

別表３　インクジェット方式のファクシミリに係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
５分	≦0.6W	≦0.5W

備考）　１　「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。

２　スリープモード消費電力の基準は、本表の基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力に別表４の追加機能に対するスリープモード消費電力許容値を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。

別表４　追加機能に対するスリープモード消費電力許容値

追加機能の種類	接続の種類	最大データ速度ｒ（Mbit/秒）	詳細	追加機能許容値（W）
インターフェース	有線	ｒ＜20	例：USB1.x、IEEE488、IEEE1284／パラレル／セントロニクス、RS232C	0.2
		20≦ｒ＜500	例：USB2.x、IEEE1394／ファイヤワイヤ／i.LINK、100Mb イーサネット	0.4
		ｒ≧500	例：USB3.x、1Gb イーサネット	0.5
		任意	例：フラッシュメモリカード／スマートカードリーダー、カメラインターフェース、ピクトブリッジ	0.2
	ファックスモデム	任意	ファクシミリと複合機のみに適用	0.2
	無線、無線周波数（RF）	任意	例：ブルートゥース、802.11	2.0
	無線、赤外線（IR）	任意	例：IrDA	0.1
コードレス電話機	該当なし	該当なし	コードレス電話機と通信する画像製品の能力。画像製品が対応するように設計されているコードレス電話機の数に関係なく、1回のみ適用される。コードレス電話機自体の消費電力要件に対応していない。	0.8
メモリ	該当なし	該当なし	画像製品においてデータ保存用に利用可能な内部容量に適用される。内部メモリの全容量に適用され、RAM に応じて増減する。この許容値は、ハードディスク又はフラッシュメモリには適用されない。	0.5/GB
スキャナ	該当なし	該当なし	複合機及び複写機にのみ適用 例：冷陰極蛍光ランプ（CCFL）あるいは、発光ダイオード（LED）、ハロゲン、熱陰極蛍光管（HCFT）、キセノン又は管状蛍光灯（TL）技術等の CCFL ではない他の技術（ランプの大きさ、又は採用されているランプ／電球の数に関係なく、1 回のみ適用される）。	0.5
電源装置	該当なし	該当なし	標準形式のインクジェット又はインパクトマーキング技術を使用する製品における銘板出力電力（Pout）が 10W を超える内部及び外部電源装置の両方に対して適用される。	0.02×（Pout－10.0）
タッチパネルディスプレイ	該当なし	該当なし	モノクロ及びカラーの両方のタッチパネルディスプレイに適用される。	0.2
内部ディスクドライブ	該当なし	該当なし	ハードディスク及び半導体ドライブを含め、あらゆる大容量ストレージ製品が含まれる。外部ドライブに対するインターフェイスは対象ではない。	0.15

備考）追加機能の種類のうち、インターフェース追加機能のファクシミリ機能を含めた許容値の数は 2 以下であり、非インターフェース追加機能の許容値の数は無制限である。

５－５ スキャナ

品目	判断の基準等
スキャナ	【判断の基準】 ○　別表１に示された基準を満たすこと。 【配慮事項】 ①　使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ②　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　平成26年度の1年間は経過措置を設けることとし、この期間においては、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成25年2月5日閣議決定）のスキャナに係る判断の基準を満たすことをもって特定調達物品等とみなすこととする。

備考）・　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１　スキャナに係るスリープ移行時間、基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力、待機時消費電力の基準

スリープへの移行時間	基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力	待機時消費電力
15 分	≦2.5W	≦0.5W

備考）１　「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。

２　スリープモード消費電力の基準は、本表の基本マーキングエンジンのスリープモード消費電力に表２の追加機能に対するスリープモード消費電力許容値を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。

３　消費電力の測定方法については、「国際エネルギースタープログラム要件　画像機器の製品基準　画像機器のエネルギー使用量を判断するための試験方法バージョン 2.0」による。

別表２　追加機能に対するスリープモード消費電力許容値

追加機能の種類	接続の種類	最大データ速度ｒ（Mbit/秒）	詳細	追加機能許容値（W）
インターフェース	有線	ｒ＜20	例：USB1.x、IEEE488、IEEE1284／パラレル／セントロニクス、RS232C	0.2
		20≦ｒ＜500	例：USB2.x、IEEE1394／ファイヤワイヤ／i.LINK、100Mb イーサネット	0.4
		ｒ≧500	例：USB3.x、1Gb イーサネット	0.5
		任意	例：フラッシュメモリカード／スマートカードリーダー、カメラインターフェース、ピクトブリッジ	0.2
	無線、無線周波数（RF）	任意	例：ブルートゥース、802.11	2.0
	無線、赤外線（IR）	任意	例：IrDA	0.1
コードレス電話機	該当なし	該当なし	コードレス電話機と通信する画像製品の能力。画像製品が対応するように設計されているコードレス電話機の数に関係なく、1 回のみ適用される。コードレス電話機自体の消費電力要件に対応していない。	0.8
メモリ	該当なし	該当なし	画像製品においてデータ保存用に利用可能な内部容量に適用される。内部メモリの全容量に適用され、RAM に応じて増減する。この許容値は、ハードディスク又はフラッシュメモリには適用されない。	0.5/GB
スキャナ	該当なし	該当なし	複合機及び複写機にのみ適用 例：冷陰極蛍光ランプ（CCFL）あるいは、発光ダイオード（LED)、ハロゲン、熱陰極蛍光管（HCFT)、キセノン又は管状蛍光灯（TL）技術等の CCFL ではない他の技術（ランプの大きさ、又は採用されているランプ／電球の数に関係なく、1 回のみ適用される）。	0.5
電源装置	該当なし	該当なし	標準形式のインクジェット又はインパクトマーキング技術を使用する製品における銘板出力電力（Pout）が 10W を超える内部及び外部電源装置の両方に対して適用される。	0.02×（Pout－10.0）
タッチパネルディスプレイ	該当なし	該当なし	モノクロ及びカラーの両方のタッチパネルディスプレイに適用される。	0.2
内部ディスクドライブ	該当なし	該当なし	ハードディスク及び半導体ドライブを含め、あらゆる大容量ストレージ製品が含まれる。外部ドライブに対するインターフェイスは対象ではない。	0.15

備考）追加機能の種類のうち、インターフェース追加機能の許容値の数は 2 以下であり、非インターフェース追加機能の許容値の数は無制限である。

５－６ 磁気ディスク装置

品目	判断の基準等
磁気ディスク装置	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「磁気ディスク装置」に含まれないものとする。 ①記憶容量が１ギガバイト以下のもの ②ディスクの直径が40㎜以下のもの ③最大データ転送速度が１秒につき270ギガバイトを越えるもの ○　エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの算定式を用いて算出された基準エネルギー消費効率の数値を上回らないこと。 【配慮事項】 ①　使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ②　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　磁気ディスク装置に係る基準エネルギー消費効率の算定式

区　分				基準エネルギー消費効率の算定式
磁気ディスク装置の種別	磁気ディスク装置の形状及び性能	回転数	用途	
単体ディスク	ディスクサイズが 75mm 超であってディスク枚数が 1 枚のもの			E＝exp(2.98×ln(N)-30.8)
	ディスクサイズが 75mm 超であってディスク枚数が 2 枚又は 3 枚のもの			E＝exp(2.98×ln(N)-31.2)
	ディスクサイズが 75mm 超であってディスク枚数が 4 枚以上のもの			E＝exp(2.11×ln(N)-23.5)
	ディスクサイズが 50mm 超 75mm 以下であってディスク枚数が 1 枚のもの	5000 回毎分以下		E＝exp(2.98×ln(N)-29.8)
		5000 回毎分超 6000 回毎分以下		E＝exp(2.98×ln(N)-31.2)
		6000 回毎分超		E＝exp(4.30×ln(N)-43.5)
	ディスクサイズが 50mm 超 75mm 以下であってディスク枚数が 2 枚又は 3 枚のもの	5000 回毎分以下		E＝exp(2.98×ln(N)-31.5)
		5000 回毎分超 6000 回毎分以下		E＝exp(2.98×ln(N)-32.2)
		6000 回毎分超		E＝exp(4.58×ln(N)-46.8)
	ディスクサイズが 50mm 超 75mm 以下であってディスク枚数が 4 枚以上のもの			E＝exp(2.98×ln(N)-31.9)

	ディスクサイズが40mm超50mm以下であってディスク枚数が1枚のもの			E＝exp(2.98×ln(N)-30.2)
	ディスクサイズが40mm超50mm以下であってディスク枚数が2枚以上のもの			E＝exp(2.98×ln(N)-30.9)
サブシステム			メインフレームサーバ用のもの	E＝exp(1.85×ln(N)-18.8)
			メインフレームサーバ用以外のもの	E＝exp(1.56×ln(N)-17.7)

備考）１　「メインフレームサーバ」とは、専用CISC（ビット数の異なる複数の命令を実行できるように設計されたCPUのうち、電子計算機毎に専用に設計されたものをいう。）が搭載されたサーバ型電子計算機（ネットワークを介してサービス等を提供するために設計された電子計算機をいう。）をいう。

２　E及びNは次の数値を表すものとする。

E：基準エネルギー消費効率

N：回転数（単位：回毎分）

３　lnは底をeとする対数を表す。

４　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第75号（平成22年3月31日）の「３エネルギー消費効率の測定方法」による。

５－７　ディスプレイ〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
ディスプレイ（※） ※　本項判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ディスプレイ」は、主としてコンピュータの表示装置として使用する標準的なもの（コンピュータモニタ、デジタルフォトフレーム、サイネージディスプレイ等）であって、可視対角線画像サイズが61インチ以下のものとする	【判断の基準】 ①　別表１及び別表２に示された基準を満たすこと。 ②　動作が再開されたとき、自動的に使用可能な状態に戻ること。 ③　特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）は、含有率基準値（備考１）を超えないこと。また、当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。（※） ※　この基準は、パーソナルコンピュータ表示装置に適用 【配慮事項】 ①　使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ②　資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考２）が可能な限り使用されていること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達後は、化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

備考）１　判断の基準③の特定の化学物質の含有率基準値は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める基準による。なお、同 JIS の付属書 B の除外項目に該当するものは、特定の化学物質の含有率基準値を超える含有が許容されるものとする。

２　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１　ディスプレイに係るオンモード消費電力の基準

製品機種及び対角線画面サイズｄ（インチ）	D_p≦20,000 の場合の消費電力（W）	D_p＞20,000 の場合の消費電力（W）
ｄ＜12.0	≦6.0×ｒ＋0.05×Ａ＋3.0	≦6.0×r_1＋3.0×r_2＋0.05×Ａ＋3.0
12.0≦ｄ＜17.0	≦6.0×ｒ＋0.01×Ａ＋5.5	≦6.0×r_1＋3.0×r_2＋0.01×Ａ＋5.5
17.0≦ｄ＜23.0	≦6.0×ｒ＋0.025×Ａ＋3.7	≦6.0×r_1＋3.0×r_2＋0.025×Ａ＋3.7
23.0≦ｄ＜25.0	≦6.0×ｒ＋0.06×Ａ－4.0	≦6.0×r_1＋3.0×r_2＋0.06×Ａ－4.0
25.0≦ｄ≦61.0	≦6.0×ｒ＋0.1×Ａ－14.5	≦6.0×r_1＋3.0×r_2＋0.1×Ａ－14.5
30.0≦ｄ≦61.0（サイネージディスプレイに適用）	≦0.27×Ａ＋8.0	

備考）１　「ｒ」はディスプレイ解像度（メガピクセル）を、「Ａ」は可視画面面積（平方インチ）をそれぞれ表す。また、画素密度 D_p 及びｒ$_1$、ｒ$_2$ の算出方法は、次式による。

$D_p = r \times 10^6 / A$

$D_p > 20,000$ の場合：

$r_1 = 20,000 \times A / 10^6$, $r_2 = (D_p - 20,000) \times A / 10^6$

２　「オンモード」とは、主機能を１つ以上提供しているときの消費電力モードをいう。

３　「サイネージディスプレイ」とは、一般に対角線画像サイズが 12 インチより大きく、画素密度が 5,000 以下の業務用表示板をいう。

４　次の①から③に示す特性及び機能をすべて有するコンピュータモニタについては、本表に従って算出された消費電力の P に許容値の P_{EP} を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。

①画面カバーガラスの有無にかかわらず、少なくとも 85 度の水平視角において最低 60:1 のコントラスト比が測定されるもの

②2.3 メガピクセル以上の基本解像度のもの

③IEC 61966 2-1 により規定されている、少なくとも sRGB の色域サイズのもの（色空間における変化は、規定の sRGB 色の 99%以上に対応している限り許容される）

対角線画面サイズが 27 インチ未満の場合：$P_{EP} = 0.30 \times P$

対角線画面サイズが 27 インチ以上の場合：$P_{EP} = 0.75 \times P$

５　初期設定により周囲光に応じてディスプレイの明るさを自動調節する機能が有効にされている機器については、本表に従って算出された消費電力（P）に許容値の P_{ABC} を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。ただし、下記の消費電力低減率 R_{ABC} が 20%未満の場合は P_{ABC} を加算しない。消費電力低減率 R_{ABC} 及び許容値 P_{ABC} の算出方法は、次式による。

$R_{ABC} = 100 \times (P_{300} - P_{10}) / P_{300}$

P_{300} は 300lux の周囲光水準、P_{10} は 10lux の周囲光水準で試験したときの消費電力

$P_{ABC} = 0.10 \times P$

６　消費電力の測定方法については、「国際エネルギースタープログラムの制度運用細則（平成 25 年６月施行）　別表２－２」による。

別表２　ディスプレイに係るスリープモード消費電力及びオフモード消費電力の基準

スリープモード 消費電力（W）	オフモード 消費電力（W）
≦0.5	≦0.5

備考）１　「スリープモード」とは、接続している装置又は内部要因から信号を受信した後に製品が移行する消費電力モード（接続されている機器、ネットワーク、遠隔操作装置、内部要因から信号を受け取った場合に当該モードから復帰可能であること。）をいう。

２　スリープモード消費電力の基準は、別表３のブリッジ接続又はネットワーク能力に対するスリープモード消費電力許容値及び別表４の追加能力に対するスリープモード消費電力許容値を加算して算出された値を適合判断に用いるものとする。

３　「オフモード」とは、電源に接続しているが、オンモード又はスリープモードのいずれの機能も提供していないときの消費モード（使用者による電源スイッチ又は制御装置の直接的な操作によってのみ、本モードを終了させることができる。）をいう。なお、必ずしも本モードを備えている必要はなく、本モードを提供する機器の場合は、本表の基準を満たすこと。

４　消費電力の測定方法については、「国際エネルギースタープログラムの制度運用細則（平成 25 年６月施行）　別表２－２」による。

別表３　ブリッジ接続又はネットワーク能力に対するスリープモード消費電力許容値

能力	対象となる種類	消費電力許容値（W）
ブリッジ接続	USB1.x	0.1
	USB2.x	0.5
	USB3.x、ディスプレイポート（非映像接続）、サンダーボルト	0.7
ネットワーク接続	Wi-Fi	2.0
	ファストイーサネット	0.2
	ギガビットイーサネット	1.0

別表４　追加能力に対するスリープモード消費電力許容値

能力	対象となる種類	消費電力許容値（W）
センサー	占有センサー	0.5
メモリ	フラッシュメモリカード／スマートカードリーダー、カメラインターフェース、ピクトブリッジ	0.2

５－８ シュレッダー

品目	判断の基準等
シュレッダー	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「シュレッダー」に含まれないものとする。 ①　裁断モーターの出力が500W以上のもの ②　裁断を行っていないときに､自動的に裁断モーターが停止しないもの ○　待機電力（※１）（ただし、低電力モード（※２）又はオフモード（※３）を備える機種については、これらのモードでの消費電力）が、別表に示された区分ごとの基準を満たすこと。 ※１「待機電力」とは、電源を入れた状態で、裁断を行っていないときに消費される電力をいう。 ※２「低電力モード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられ実現される低電力状態をいう。 ※３「オフモード」とは、一定時間が経過した後に自動オフ機能によって電源を切った状態をいう。 【配慮事項】 ①　使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ②　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ④　裁断された紙の減容及び再生利用の容易さに配慮されていること。 ⑤　低電力モード（※２）又はオフモード（※３）への移行時間は出荷時に10分以下にセットされていること。 ⑥　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑦　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く｡)。

別表　シュレッダーに係る待機電力の基準

区分		待機電力（低電力モード又はオフモードを備える機種については、これらのモードの消費電力）
裁断モーターの出力（※１）	オートスタートの有無（※２）	
100W 未満	有／無	＜ 2.5W
100W 以上 500W 未満	有	＜ 3.0W
	無	＜ 2.0W

※１　「裁断モーターの出力」とは、裁断に用いられるモーターの出力をいう。
※２　「オートスタート」とは、紙の投入により自動的に裁断を開始し、裁断が終了すると自動的に運転を停止する機能をいう。

５－９　デジタル印刷機〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
デジタル印刷機 （※） ※　デジタル製版機能を有した孔版方式の全自動印刷機をいう。	【判断の基準】 ①　エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの基準の数値を上回らないこと。 ②　使用される用紙がグリーン購入対象品目に該当する場合は、グリーン購入適合品等を使用することが可能であること。 【配慮事項】 ①　インク容器の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。 ②　使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合は、この限りでない。 ③　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ④　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ⑤　低電力モード（※１）及びオートシャットオフモード（※２）への移行時間は出荷時に５分以下に設定されていること。ただし、出荷後、変更することができない構造の機械については既定値とする。 ※１　「低電力モード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられる低電力状態をいう。以下同じ。 ※２　「オートシャットオフモード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動オフ機能によって電源を切った状態をいう。以下同じ。 ⑥　製品の包装又梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑦　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　デジタル印刷機のエネルギー消費効率の基準

		デジタル印刷機エネルギー消費効率（W）			
		A3 対応機		B4 対応機，A4 対応機	
		プリンタ機能作動時	プリンタ機能非作動時	プリンタ機能作動時	プリンタ機能非作動時
プリンタ機能標準装備型		35.5	28	22	20
上記以外	プリンタ機能あり	35.5		22	
	プリンタ機能なし		24		19

１　「プリンタ機能標準装備型」とは、パソコンの出力プリンタとして動作する機能が標準装備として付加され、製品として切り離すことのできないものをいう。

２　「上記以外」とは、拡張機能としてパソコンの出力プリンタとして動作する機能を付加できるもの及びパソコンの出力プリンタとして動作することができないものをいう。

３　「A3 対応機」、「B4 対応機」、「A4 対応機」とは、次による。

A3 対応機：最大印刷領域の各辺がそれぞれ 287mm、409mm 以上のもの

B4 対応機：最大印刷領域の各辺がそれぞれ 250mm、353mm 以上のもの

A4 対応機：最大印刷領域の各辺がそれぞれ 204mm、288mm 以上のもの

4　エネルギー消費効率の算定方法については次式による。

E ＝（A＋７×B）／8

A：機械立ち上げ時の１時間における消費電力量（Wh）

- 電源の投入後、印刷速度はデフォルトで、テストチャートを使用して１版目を製版し、①の条件で印刷を行う。印刷終了後直ちに同じ条件で２版目の製版を開始し、①の条件で印刷を行う。その後その状態で放置するものとする。
- 電源投入後速度変更はしない。

B：通常時の１時間における消費電力量（Wh）

- Ａの測定終了後１版目を製版し、①の条件で印刷を行う。印刷終了後直ちに同じ条件で２版目の製版を開始し、①の条件で印刷を行う。その後その状態で放置するものとする。

A、Bの測定条件

①	１版当たりの印刷枚数	200枚／版
②	１時間の製版枚数	2版／時
③	１時間の印刷枚数	400枚／時
④	印刷速度	工場出荷時に設定された電源投入時の速度
⑤	テストチャート	A4、画像面積比率4～7%
⑥	標準印刷用紙	64g/㎡の上質紙
⑦	測定時の環境条件	温度：21±3℃／湿度：65±10% 測定前に12時間以上放置

⑧　プリンタ機能非作動時の測定の場合、放置時におけるオートシャットオフモード又は低電力モードへの移行を認める。

⑨　低電力モード及びオートシャットオフモードへの移行時間は5分にセットする。ただし、出荷後、変更することができない構造の機械については既定値を用いる。

⑩　プリンタ機能作動時の測定の場合、オートシャットオフモード機能を作動させてはならない、また、放置時における低電力モードへの移行を認める。

５－１０ 記録用メディア〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
記録用メディア （※） ※ 対象は、直径12cm の CD-R、CD-RW、DVD±R、DVD ± RW 、DVD-RAM、BD-R、BD-RE とする。	【判断の基準】 ○ 次のいずれかの要件を満たすこと〔判断の基準はケースに適用〕。 ① 再生プラスチック（備考１）がケース全体重量の 30%以上使用されていること。 ② 厚さ 5mm 程度以下のスリムタイプケースであること、又は集合タイプ（スピンドルタイプなど）であること。 ③ 植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考２）が使用されていること。 ④ 紙製にあっては、古紙パルプ配合率 70%以上であること。なお、紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） 【配慮事項】 ○ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）１ 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

２ 「植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

５－１１ 電池

品目	判断の基準等
一次電池又は小形充電式電池（※） ※　対象は、「単１形」、「単２形」、「単３形」又は「単４形」とする。	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　一次電池にあっては、別表に示された負荷抵抗の区分ごとの最小平均持続時間（備考）を下回らないこと。 ②　小形充電式電池（二次電池）であること。 【配慮事項】 ①　使用済みの小形充電式電池の回収システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）　「最小平均持続時間」は JIS C 8515 に規定する放電試験条件に準拠して測定するものとする。JIS C 8515 で規定されるアルカリ乾電池に適合する一次電池は、本基準を満たす。

別表　一次電池に係る最小平均持続時間

形状の通称（寸法:高さ・直径）	負荷抵抗（Ω）	最小平均持続時間	
		初　度	12 か月貯蔵後及び使用推奨期間内
単１形（61.5mm・34.2mm）	2.2	810 分	725 分
	10	81 時間	72 時間
	2.2	15 時間	13 時間
	1.5	450 分	405 分
	600mA(放電電流)	11 時間	9.5 時間
単２形（50.0mm・26.2mm）	3.9	770 分	690 分
	20	77 時間	69 時間
	3.9	12 時間	10 時間
	400mA(放電電流)	8.0 時間	7.0 時間
単３形（50.5mm・14.5mm）	43	60 時間	54 時間
	3.9	4.0 時間	3.6 時間
	10	11.5 時間	10.0 時間
	1000mA(放電電流)	200 回	180 回
	24	31 時間	27 時間
	250mA(放電電流)	4.5 時間	4.0 時間
単４形（44.5mm・10.5mm）	5.1	130 分	115 分
	24	14.5 時間	13.0 時間
	10	5.0 時間	4.5 時間
	75	44 時間	39 時間
	600mA(放電電流)	140 回	125 回

５－１２ 電子式卓上計算機

品目	判断の基準等
電子式卓上計算機（※） ※　対象は、通常の行政事務の用に供するもの。	【判断の基準】 ①　使用電力の50%以上が太陽電池から供給されること。 ②　再生プラスチック（備考）がプラスチック重量の40%以上使用されていること。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

５－１３ カートリッジ等〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
トナーカートリッジ（※） ※ 対象は、新たに購入する補充用の製品であって、コピー機やプリンタなどの機器の購入時に装着又は付属しているものは含まない。	【判断の基準】 ① 使用済トナーカートリッジの回収（※１）及びマテリアルリサイクル（※２）のシステムがあること。 ※１ 回収システムとは、以下の要件を満たすことをいう。 ① 製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みのカートリッジ等を回収（自ら回収又は他の業者に委託して回収すること。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（販売店における回収ルート、逆流通ルートによる回収、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。 ② カートリッジ本体に、製品名及び事業者名（ブランド名なども可）をユーザが見やすいように記載していること。 ③ 製品の包装、同梱される印刷物、本体機器製品の取扱説明書又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し使用済カートリッジ等の回収に関する具体的な情報（回収方法、回収窓口等）提供がなされていること。 ※２ 材料としてのリサイクル（エネルギー回収や油化、ガス化、高炉還元、コークス炉化学原料化は含まない）をいう。 ② 回収したトナーカートリッジ部品の再使用・マテリアルリサイクル率（※）が回収製品全体質量（トナーを除く）の50%以上であること。 ※ 使用済みとなって排出され、回収されたカートリッジ等の質量のうち、再使用又はマテリアルリサイクルされた部品質量の割合をいう。ただし、「回収されたカートリッジ等」の対象から、ウエブサイト又はカタログ等において回収対象外として公表しているカートリッジ等は除く。 ③ 回収したトナーカートリッジ部品の再資源化率（※）が回収製品全体重量（トナーを除く）の95%以上であること。 ※ 使用済みとなって排出され、回収されたカートリッジ等質量のうち、再使用、マテリアルリサイクル、エネルギー回収や油化、ガス化、高炉還元又はコークス炉化学原料化された部品質量の割合をいう。ただし、「回収されたカートリッジ等」の対象から、ウエブサイト又はカタログ等において回収対象外として公表しているカートリッジ等は除く。 ④ 回収したトナーカートリッジ部品の再使用又は再生利用できない部分については、焼却時の減量化等が行われた上で、適正処理（※）され、単純埋立されないこと。 ※ 再使用又は再生利用できない部分については、使用済カートリッジ等を回収した事業者が自らの責任において適正に処理・処分していることをいい、他の事業者が実施する回収システムによって行う処理（事業者間において交わされた契約、合意等によって行う場合を除く。）は含まれない。ただし、その対象から、ウエブサイト又はカタログ等において回収対象外として公表しているカートリッジ等は除く。 ⑤ トナーの化学安全性（備考）が確認されていること。 ⑥ 感光体は、カドミウム、鉛、水銀、セレン及びその化合物を処方構成成分として含まないこと。 ⑦ 使用される用紙がグリーン購入対象品目に該当する場合は、グリーン購入適合品等を使用することが可能であること。 ※ 「トナーカートリッジ」とは、電子写真方式を利用したコピー機、プリンタ及びファクシミリ等の機器に使用されるトナーを充填したトナー容器、感光体又は現像ユニットのいずれか２つ以上を組み合わせて構成される印字のためのカートリッジであって、「新品トナーカートリッジ」（※１）又は「再生トナーカートリッジ」（※２）をいう。ただし、現像ユニット及び感光体から構成されるカートリッジについては、トナー容器とのセット販売品に限り

	対象とし、トナー容器単体、感光体単体又は現像ユニット単体で構成される製品は対象外とする。 ※１　「新品トナーカートリッジ」とは、本体機器メーカーによって製造又は委託製造されたトナーカートリッジをいう。 ※２　「再生トナーカートリッジ」とは、使用済トナーカートリッジにトナーを再充填し、必要に応じて消耗部品を交換し、包装又は同梱される印刷物又は取扱説明書のいずれかに再生カートリッジであることの表記をされたトナーカートリッジをいう。 【配慮事項】 ①　回収したトナーカートリッジのプラスチックが、材料又は部品として再びトナーカートリッジに使用される仕組みがあること。 ②　各種システムの構築及び再資源化率等に係る判断の基準を満たすことを示す証明書等を備えていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達にあたっては、次の事項に十分留意すること。 １　本体機器への影響や印刷品質勘案し、次の事項に十分留意すること。 ア．以下のカートリッジ等の品質保証がなされていること。 ①　自社規格によって品質管理が十分なされたものであり、印字不良・ジャム・トナー／インク漏れ・ノズル詰り・本体破損などの品質不良についての品質保証（使用される製品に起因する品質不良が発生した場合において、代替品の手配、機器本体の修理等）がなされていること（一般に本体機器の保証外のカートリッジ等の使用に起因する不具合への対応は、保守契約又は保証期間内であっても有償となる場合が多い）。 ②　本項の判断の基準を満足する製品の使用に起因するコピー機、プリンタ等の機器本体への破損故障等の品質に係る問題が発生した場合は、当該製品の情報（製品名、事業者名、ブランド名、機器本体名等）及び発生した問題を記録するよう努めること。 イ．使用目的・用途等を踏まえインクカートリッジを選択すること。 ①　写真画質等の高い印刷品質が必要な場合、長期保存する場合、直射日光の当たる場所での使用を想定する場合等は、耐光性、耐オゾン性、耐水性等に優れ、本体機器と連携のとれたインクカートリッジを選択すること。 ②　新品インクカートリッジに充填されているインクと再生インクカートリッジに充填されているインクは同一のものではないことから発色が異なることを認識し、使用するインクカートリッジを選択すること。 ２　製品の化学安全性及び事業者の回収システム・リサイクルシステム・適正処理システム等の構築に関する信頼性の確保の観点から、事業者が次の書類を備えていること（例えば、事業者の判断で公開するウエブサイト等で確認できることなど）に十分留意すること。 ア．トナー又はインクに関する Ames 試験に係る報告書等 イ．トナー又はインクに関する MSDS（化学物質等安全データシート） ウ．配慮事項に示された各種システムの構築及び再資源化率等に係る判断の基準を満たすことを示す証明書等
インクカートリッジ（※） ※　対象は、新たに購入する補充用	【判断の基準】 ①　使用済インクカートリッジの回収システムがあること。（トナーカートリッジ判断基準①※に同じ。） ②　回収したインクカートリッジ部品の再使用・マテリアルリサイクル率

の製品であって、コピー機やプリンタなどの機器の購入時に装着又は付属しているものは含まない。	が回収製品全体質量（インクを除く）の25%以上であること。（トナーカートリッジ判断基準②※に同じ。） ③　回収したインクカートリッジ部品の再資源化率（トナーカートリッジ判断基準③※に同じ。）が回収製品全体重量（インクを除く）の95%以上であること。 ④　回収したインクカートリッジ部品の再使用又は再生利用できない部分については、減量化等が行われた上で、適正処理され、単純埋立されないこと。（トナーカートリッジ判断基準④※に同じ。） ⑤　インクの化学安全性（備考）が確認されていること。 ⑥　使用される用紙がグリーン購入対象品目に該当する場合は、グリーン購入適合品等を使用することが可能であること。 ※「インクカートリッジ」とは、インクジェット方式を利用したコピー機、プリンタ及びファクシミリ等の機器に使用されるインクを充填したインクタンク及び印字ヘッド付きインクタンクである印字のためのカートリッジであって、「新品インクカートリッジ」（※１）又は「再生インクカートリッジ」（※２）をいう。 ※１　「新品インクカートリッジ」とは、本体機器メーカーによって製造又は委託製造されたインクカートリッジをいう。 ※２　「再生インクカートリッジ」とは、使用済インクカートリッジにインクを再充填し、必要に応じて消耗部品を交換し、包装又は同梱される印刷物又は取扱説明書のいずれかに再生カートリッジであることの表記をされたインクカートリッジをいう。 【配慮事項】 ①　各種システムの構築及び再資源化率等に係る判断の基準を満たすことを示す証明書等を備えていること。 ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※調達にあたっては、次の事項に十分留意すること。 １　本体機器への影響や印刷品質を勘案し、次の事項に十分留意すること。 ア．トナーカートリッジに同じ。 イ．使用目的・用途等を踏まえインクカートリッジを選択すること。 ①　写真画質等の高い印刷品質が必要な場合、長期保存する場合、直射日光の当たる場所での使用を想定する場合等は、耐光性、耐オゾン性、耐水性等に優れ、本体機器と連携のとれたインクカートリッジを選択すること。 ②　新品インクカートリッジに充填されているインクと再生インクカートリッジに充填されているインクは同一のものではないことから発色が異なることを認識し、使用するインクカートリッジを選択すること。 ２　トナーカートリッジに同じ。

備考）トナー及びインクの「化学安全性」とは、次の基準による。

ア．トナー及びインクには、以下の①～④の各物質が意図的に添加されていないこと。

①　カドミウム、鉛、水銀、六価クロム、ニッケル及びその化合物。ただし、着色剤として用いられる分子量の大きいニッケルの錯化合物を除く。

②　EU の危険な物質の分類、包装、表示に関する法律、規制、行政規定の近似化に関する EC 理事会指令 67/548/EEC の付属書Ｉにより次のＲ番号の表示が義務付けられている物質

- R40（発がん性の限定的な証拠がある）
- R45（発がん性がある）
- R46（遺伝可能な損害を引き起こす可能性がある）

- R49（吸入すると発がん性がある）
- R60（生殖能力に危害を与える可能性がある）
- R61（胎児に危害を与える可能性がある）
- R62（場合によっては生殖能力に危害を与える可能性がある）
- R63（場合によっては胎児に危害を与える可能性がある）
- R68（不可逆的な危害の可能性がある）

③　EC 理事会指令 67/548/EEC の付属書Ⅱ及び 1999/45/EC により、製品全体として危険シンボルを表示する必要性を生じさせる物質

④　１つ以上のアゾ基が分解されて表１に示すアミンを放出する可能性のあるアゾ着色剤（染料又は顔料）

イ. トナー及びインクに関し、Ames 試験において陰性であること。

ウ. トナー及びインクの MSDS(化学物質等安全データシート)を備えていること。

表１　特定の芳香族アミン

化学物質名		CAS No.
1	4-アミノジフェニル	92-67-1
2	ベンジジン	92-87-5
3	4-クロロ-*o*-トルイジン	95-69-2
4	2-ナフチルアミン	91-59-8
5	*o*-アミノアゾトルエン	97-56-3
6	2-アミノ-4-ニトロトルエン	99-55-8
7	*p*-クロロアニリン	106-47-8
8	2,4-ジアミノアニソール	615-05-4
9	4,4’-ジアミノジフェニルメタン	101-77-9
10	3,3’-ジクロロベンジジン	91-94-1
11	3,3’-ジメトキシベンジジン	119-90-4
12	3,3’-ジメチルベンジジン	119-93-7
13	3,3’-ジメチル-4,4’-ジアミノジフェニルメタン	838-88-0
14	*p*-クレシジン	120-71-8
15	4,4’-メチレン－ビス－（２－クロロアニリン）	101-14-4
16	4,4’-オキシジアニリン	101-80-4
17	4,4’-チオジアニリン	139-65-1
18	*o*-トルイジン	95-53-4
19	2,4-トルイレンジアミン	95-80-7
20	2,4,5-トリメチルアニリン	137-17-7
21	*o*-アニシジン	90-04-0
22	4-アミノアゾベンゼン	60-90-3

５－１４ 掛時計〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
掛時計（※） ※　対象は、通常の執務室・会議室等において使用する壁掛型の時計とし、講堂等において使用する大型のもの等は除く。	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　太陽電池及び小形充電式電池（二次電池）を有し、一次電池（備考１）を使用せず作動するものであること。 ②　太陽電池及び一次電池が使用される場合には、通常の使用状態（備考２）で一次電池が5年以上使用できるものであること。 ③　一次電池（備考１）のみで使用される場合には、電池が5年以上使用できるものであること。 【配慮事項】 ①　使用される一次電池の個数が、可能な限り少ないこと。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考３が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）１　判断の基準③における一次電池の電池寿命は JIS B 7026 による。

２　「通常の使用状態」とは、室内の開放された壁、柱等に掛けられて使用されている状態をいう。

３　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

５－１５ プロジェクタ〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
プロジェクタ（※） ※コンピュータ入力端子を有し、コンピュータ等の画像を拡大投写できるフロント投写方式の有効光束が5,000lm 未満の機器であって、一般の会議室、教室等で使用するものをいい、1m 以内の距離で６０ｲﾝﾁ（1.2m×0.9m）以上のスクリーンに投写できるプロジェクタ（以下「短焦点プロジェクタ」という。短焦点プロジェクタのうち、特に 0.5m 以内の距離で同様に投写できるプロジェクタを「超短焦点プロジェクタ」という。）を含むものとする。	【判断の基準】 ① 製品本体の重量が別表１に示された区分ごとの算定式を用いて算出された基準の数値を上回らないこと。 ② 消費電力が別表２に示された区分ごとの算定式を用いて算出された基準の数値を上回らないこと。 ③ 待機時消費電力（※１）が0.5W以下であること。ただし、ネットワーク待機時は適用外とする。（※２） ※１ 「待機時消費電力」とは、製品が主電源に接続され、不定時間保たれる最低消費電力をいう。待機（スタンバイ）は、製品の最低消費電力モードである。 ※２ AC遮断装置付の製品及び主として携帯目的の軽量型の製品には適用しない。 ④ 光源ランプに水銀を使用している場合は、次の要件を満たすこと。 ア．水銀の使用に関する注意喚起及び適切な廃棄方法に関する情報提供がなされていること。（※） ※ 光源ランプ及び製品本体の包装、同梱される印刷物、取扱説明書又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し水銀が使用されている旨、及び使用済の光源ランプの適正な廃棄方法に関する情報提供がなされていることをいう。 イ．使用済の光源ランプ又は製品を回収する仕組みがあること。（※） ※ 次の要件を満たすことをいう。 ア. 製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済の光源ランプ又は製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（販売店における回収ルート、逆流通ルートによる回収、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。 イ. 回収が適切に行われるよう、光源ランプ及び製品本体に製品名及び事業者名（ブランド名なども可）がユーザに見やすく記載されていること。 ウ. 光源ランプ及び製品本体の包装、同梱される印刷物、取扱説明書又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し使用済の光源ランプ又は製品の回収に関する具体的な情報（回収方法、回収窓口等）提供がなされていること。 ⑤ 保守部品又は消耗品の供給期間は、当該製品の製造終了後5年以上とすること。 ⑥ 特定の化学物質が含有率基準値（備考１）を超えないこと。また、当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。 【配慮事項】 ① 光源ランプの交換時期（※）が3,000時間以上であること。 ※ 「光源ランプの交換時期」とは、光源ランプが初期照度の50%まで低下する平均点灯時間であって、適正なランプ交換を促すための目安の時間をいう。 ② 可能な限り低騒音であること。 ③ 使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 ④ 製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ⑤ 筐体部分におけるハロゲン系難燃剤の使用が可能な限り削減されていること。

	⑥ 筐体又は部品にプラスチックが使用される場合には、再生プラスチック（※）が可能な限り使用されていること。 ※ 「再生プラスチック」とは、製品として使用された後に廃棄されたプラスチック及び製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材又は不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。 ⑦ 製品とともに提供されるマニュアルや付属品等が可能な限り削減されていること。 ⑧ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑨ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※ 調達時、調達後の留意点 ア．調達に当たって、使用目的・業務内容を十分勘案し、必要な機器・機能のみを要件とすること。 イ．マニュアルや付属品については必要最小限とするような契約の方法を検討すること。 ウ．物品の調達時に取扱説明書等に記載されている配慮事項を確認し、使用・廃棄等に当たって当該事項に配慮すること。 エ．使用済の光源ランプ又は製品を回収する仕組みが構築されている場合は、回収の仕組みを利用した適切な処理を行うこと。

備考） 1 判断の基準⑥における特定の化学物質の含有率基準値については、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書Ａの表 A.1（特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値とし、基準値を超える含有が許容される項目については、上記 JIS の附属書Ｂに準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについては JIS C 0950:2008 に準ずるものとする。

別表１ 製品本体重量の基準

有効光束：φ（lm）	光源ランプの数	重量の基準の算定式（kg）
φ＜2,500	－	4.0×α
2,500≦φ＜4,000	－	5.0×α
4,000≦φ＜5,000	１個	0.003×φ×α
	２個以上	0.003×φ×α×1.1

備考） 1 αは係数であって、短焦点プロジェクタの場合は 1.2、それ以外の場合は 1.0 とする。

2 有効光束が 4,000lm 未満の機器であって、超短焦点プロジェクタの場合は、重量の基準の算定式によらず 7.5kg 以下とする。

別表２ 消費電力の基準

有効光束：φ（lm）	消費電力の算定式（W）
φ＜2,500	0.085×φ×α×β×γ＋80
2,500≦φ＜5,000	0.077×φ×α×β×γ＋80

備考）α、β及びγは係数であって、次の数値を表す。

α：解像度が WXGA（1,280×768 ドット）以上のプロジェクタの場合は 1.1、それ以外の場合は 1.0

β：超短焦点プロジェクタ又は短焦点プロジェクタの場合は 1/cosθ、それ以外の場合は 1.0。ただし、θは打上角（プロジェクタのレンズ（ミラー）中心を通る水平線と投射画面中心の角度）とし、最大で 1.3 とする

γ：光源にランプを 2 個以上使用する場合は 1.5、それ以外の場合は 1.0

６．移動電話〔目標：可能な限り優先的に調達する〕

品目	判断の基準等
携帯電話 ＰＨＳ ※　対象は、通常の行政事務の用に供するものとする。	【判断の基準】 ①　次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．搭載機器・機能の簡素化（※１）がなされていること。 イ．機器本体を交換せずに、端末に搭載するアプリケーションのバージョンアップが可能となる取組がなされていること。 ウ．分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていることなど、別表に掲げる評価基準に示された環境配慮設計がなされていること。環境配慮設計の実施状況については、その内容がウエブサイトをはじめ環境報告書等により公表され、容易に確認できること。（※２） ※１　別表の評価項目ごとに評価基準に示された環境配慮設計がなされていることを指す。 ※２　可能な限り通話及びメール機能等に限定することとする。 ②　使用済移動電話の回収及びマテリアルリサイクルのシステムがあること（※）。回収及びマテリアルリサイクルのシステムについては、取組効果の数値が製造事業者、通信事業者又は販売事業者等のウエブサイトをはじめ環境報告書等により公表され、容易に確認できること。 ※　次の要件を満たすことをいう。 １　回収のシステムについては、次の要件ア、イ及びウを満たすこと。 ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの移動電話等を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（販売店における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。 イ．回収が適切に行われるよう、移動電話本体に製品名及び事業者名（ブランド名なども可）が廃棄時に見やすく記載されていること。 ウ．製品の包装、同梱される印刷物、本体機器製品の取扱説明書又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し使用済移動電話等の回収に関する具体的な情報（回収方法、回収窓口等）の提供がなされていること。 ２　マテリアルリサイクルのシステムについては、次の要件エ及びオを満たすこと。 ア.金属やプラスチック等を材料としてリサイクルするための取組がなされていること。 イ．部品の素材情報については、廃棄時に分別が容易なよう可能な限り記載されていること。 ③　回収した移動電話部品の再使用又は再生利用できない部分については、製造事業者、通信事業者又は販売事業者において適正処理されるシステムがあること。 ④　バッテリー等の消耗品について、製造事業者、通信事業者又は販売事業者において修理するシステム、及び更新するための部品を保管するシステムがあること（製品製造終了後６年以上保有）。（※） ※　通信システムの切替等にともない、当該機器が継続的にしようできない場合にあっては、「製品製造終了後６年以上保有」は適用しないものとする。 ⑤　特定の化学物質（備考１）が含有率基準値を超えないこと。また、当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。

	【配慮事項】 ① 製品の省電力化や充電器の待機時消費電力の低電力化等による省エネルギー化がなされていること。 ② 筐体又は部品に希少金属類（備考２）が使用されている場合、希少金属類を可能な限り減量または代替する取組がなされていること。 ③ 機器本体や消耗品以外の部品についても、修理するシステム、及び更新するための部品を保管するシステムがあること。 ④ 筐体部分におけるハロゲン系難燃剤の使用が可能な限り削減されていること。 ⑤ 筐体又は部品（充電器含む。）にプラスチックが使用される場合には、再生プラスチック（備考３）が可能な限り使用されていること。 ⑥ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑦ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※ 調達時、調達後の留意事項 ① 調達に当たって、使用目的・業務内容を十分勘案し、必要な機器・機能を要件とすること。 ② マニュアルや充電器等の付属品については必要最小限とするような契約の方法を検討すること。 ③ 物品等の調達時に取扱説明書等に記載されている配慮事項を確認し、配慮すること。 ④ 移動電話端末の更新等により端末を処分するに当たっては、回収システムを利用した適切な処理を行うこと。

備考）１ 特定の化学物質の使用については、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書Ａの表 A.1（特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値以下とし、基準値を超える含有が許容される項目については、上記 JIS の附属書Ｂに準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについては JIS C 0950:2008 に準ずるものとする。

２「希少金属類」とは、昭和 59 年 8 月の通商産業省鉱業審議会レアメタル総合対策特別小委員会において特定された 31 鉱種（希土類は 17 元素を１鉱種として考慮）の金属をいう。

３「再生プラスチック」とは、製品として使用された後に廃棄されたプラスチック及び製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材又は不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　移動電話に係る環境配慮設計項目

目　　的	評 価 項 目	評 価 基 準
リデュース配慮設計	製品等の省資源化（小型化、軽量化）	製品の容積や質量を、削減抑制していること。
	製品の省電力化	製品の消費電力を抑制していること。また、低消費電力技術等の開発に取り組んでいること。
	製品の長寿命化	製品の信頼性、耐久性が維持又は向上していること。
リユース配慮設計	共有化設計	充電器等について、リユースが容易な設計になっていること。
	分離・分解しやすい設計	リユースのための分離･分解が容易であること。
リサイクル配慮設計	リサイクル時の環境負荷低減	希少な材料を含む部品や鉄、銅、アルミニウム等汎用金属類の種類が把握できていること。
		複合材料の使用やリサイクルを阻害する加工等を削減していること。
	分離・分解が容易な構造	再資源化原料として利用が可能な材料、部品にするための分離・分解が容易であること。
		異種材料の分離が容易な構造であること。
		リサイクルのための分離･分解が容易であること。
	分別の容易性	リサイクルのための材料、部品等の材料判別が容易であること。
		製品の筐体に使用するプラスチックの種類、グレードが可能な限り統一されていること。

7．家電製品〔目標：100%〕

7－1　電気冷蔵庫等

品目	判断の基準等
電気冷蔵庫 電気冷凍庫 電気冷凍冷蔵庫	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「電気冷蔵庫」「電気冷凍庫」及び「電気冷凍冷蔵庫」に含まれないものとする。 ①熱電素子を使用するもの ②業務の用に供するために製造されたもの ③吸収式のもの ①　エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/165を乗じて小数点以下を切り捨てた数値を上回らないこと。（※） ※　判断の基準については、次のとおりとする。 ア．定格内容積 250 リットル以下のものは、基準を満たす製品が市場に十分供給されるまでの期間は、表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率を上回らないことで特定調達物品等とみなすこととする。なお、当該期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。 イ．定格内容積250リットル超400リットル以下のものは、平成26年度の1年間は経過措置とし、この期間においては、表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/133を乗じて小数点以下を切り捨てた数値を上回らないことで特定調達物品等とみなすこととする。 ②　冷媒及び断熱材発泡剤にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 ③　冷媒及び断熱材発泡剤にハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと。 ④　特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）の含有情報（備考１）がウエブサイトを始めラベル等で容易に確認できること。 【配慮事項】 ①　冷媒及び断熱材発泡剤に可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること。 ②　資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考２）が可能な限り使用されていること。 ④　使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ⑤　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑥　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※調達後の留意点 化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

備考）１　特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める方法によること。なお、判断の基準④については、電気冷凍庫には適用しない。

２　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　電気冷蔵庫等に係る基準エネルギー消費効率算定式

区分				基準エネルギー消費効率算定式
種　　別	冷却方式	定格内容積	冷蔵室区画の扉の枚数	
電気冷蔵庫及び電気冷凍冷蔵庫	冷気自然対流方式のもの			$E=0.844\times V_1+155$
	冷気強制循環方式のもの	300 リットル以下		$E=0.774\times V_1+220$
		300 リットル超	1 枚	$E=0.302\times V_1+343$
			2 枚以上	$E=0.296\times V_1+374$
電気冷凍庫	冷気自然対流方式のもの			$E=0.844\times V_2+155$
	冷気強制循環方式のもの	300 リットル以下		$E=0.774\times V_2+220$
		300 リットル超		$E=0.302\times V_2+343$

備考）１　E 及び V_1、V_2 は、次の数値を表す。

E：基準エネルギー消費効率（単位：kWh/年）

V_1：調整内容積（冷凍室の定格内容積に、当該冷凍室がスリースター室タイプのものにあっては 2.20 を、ツースター室タイプのものにあっては 1.87 を、ワンスター室タイプのものにあっては 1.54 を乗じた数値に冷凍室以外の貯蔵室の定格内容積を加え、小数点以下を四捨五入した数値）（単位：L）

V_2：調整内容積（冷凍室の定格内容積に、当該冷凍室がスリースター室タイプのものにあっ ては 2.20 を、ツースター室タイプのものにあっては 1.87 を、ワンスター室タイプのものにあっては 1.54 を乗じ、小数点以下を四捨五入した数値）（単位：L）

２　電気冷蔵庫及び電気冷凍冷蔵庫のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 34 号（平成 25 年 3 月 1 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

３　電気冷凍庫のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 35 号（平成 25 年 3 月 1 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

７－２ テレビジョン受信機

品目	判断の基準等
テレビジョン受信機 （備考１）	【判断の基準】 ①　ブラウン管を有するテレビジョン受信機（以下「ブラウン管テレビ」という。）にあっては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/118を乗じて小数点以下を切り捨てた数値を上回らないこと。 ②　液晶パネルを有するテレビジョン受信機（以下「液晶テレビ」という。）又はプラズマディスプレイパネルを有するテレビジョン受信機（以下「プラズマテレビ」という。）にあっては、エネルギー消費効率が別表２に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/128を乗じて小数点以下を切り捨てた数値を上回らないこと。 ③　特定の化学物質（備考２）（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）の含有情報がウエブサイトを始めラベル等で容易に確認できること。 【配慮事項】 ①　資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（※）が可能な限り使用されていること。 ※　「再生プラスチック」とは、製品として使用された後に廃棄されたプラスチック及び製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材又は不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達後の留意点 　化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

備考）１　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「テレビジョン受信機」に含まれないものとする。

①産業用のもの

②水平周波数が33.8キロヘルツを超えるブラウン管方式マルチスキャン対応のもの

③ツーリスト向け仕様のもの

④リアプロジェクション方式のもの

⑤受信機型サイズが10型若しくは10V型以下のもの

⑥ワイヤレス方式のもの

⑦電子計算機用ディスプレイであってテレビジョン放送受信機能を有するもの

２　特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める方法によること。

別表１　ブラウン管テレビに係る基準エネルギー消費効率算定式

区　分					基準エネルギー消費効率算定式
走査方式	アスペクト比	偏向角度	形　状	機　能	
通常走査方式のもの	4:3	100度以下のもの	フラット型以外	VTR（又はDVD）内蔵のもの以外	E=2.5×S+32
				VTR（又はDVD）内蔵のもの	E=2.5×S+60
			フラット型	VTR（又はDVD）内蔵のもの以外	E=2.5×S+42
				VTR（又はDVD）内蔵のもの	E=2.5×S+70
		100度超のもの	フラット型以外	VTR（又はDVD）内蔵のもの以外	E=5.1×S-4
				VTR（又はDVD）内蔵のもの	E=5.1×S+24
			フラット型	VTR（又はDVD）内蔵のもの以外	E=5.1×S+21
				VTR（又はDVD）内蔵のもの	E=5.1×S+49
	16:9		フラット型以外	VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能が無いもの	E=5.1×S-11
				VTR（又はDVD）内蔵のもの	E=5.1×S+17
				VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能を1つ有するもの	E=5.1×S+ 6
				VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能を2つ有するもの	E=5.1×S+13
				VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能を3つ有するもの	E=5.1×S+59
			フラット型	VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能が無いもの	E=5.1×S- 1
				VTR（又はDVD）内蔵のもの	E=5.1×S+27
				VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能を1つ有するもの	E=5.1×S+16
				VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能を2つ有するもの	E=5.1×S+23
				VTR（又はDVD）内蔵のもの以外であって付加機能を3つ有するもの	E=5.1×S+69
倍速走査方式のもの				アナログハイビジョンテレビ	E=5.5×S+72
				アナログハイビジョンテレビ以外のもの	E=5.5×S+41

備考）１　「VTR」とは、ビデオレコーダーをいい、「DVD」とは、デジタルバーサタイルディスクをいう。以下、同じ。

２　「受信機型サイズ」とは、表示画面の対角外径寸法をセンチメートル単位で表した数値を2.54で除して小数点以下を四捨五入した数値をいう。

３　「フラット型」とは、ブラウン管表面の中心と周辺部の間の最大落差値のブラウン管の対角寸法値に対する百分率比が0.5%以下のもの（ただし、周辺部及び対角寸法の測定位置は有効画面プラス５ミリメートル以内のこと。）を使用したものをいう。

４　「アナログハイビジョンテレビ」とは、走査線数1,125本であって、画面の横縦比が16:9のブラウン管テレビのうち、MUSEデコーダー及び衛星放送受信機能を有するものをいう。

５　「付加機能」とは、２チューナー２画面分割機能、文字多重放送受信機能、MUSE-NTSCコンバータをいう。

６　E及びSは次の数値を表すものとする。表２において同じ。
　E：基準エネルギー消費効率（単位：kWh/年）
　S：受信機型サイズ

７　エネルギー消費効率の算定方法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第24号（平成22年2月18日）の「２エネルギー消費効率の測定方法２－１」による。

別表２　液晶テレビ又はプラズマテレビに係る基準エネルギー消費効率又は算定式

区　分				基準エネルギー消費効率又は算定式
画素数	受信機型サイズ	動画表示	付加機能	
FHD	19V型未満	液晶ノーマル	付加機能を有しないもの	E=59
			付加機能を１つ有するもの	E=71
			付加機能を２つ有するもの	E=83
			付加機能を３つ有するもの	E=95
		液晶倍速	付加機能を有しないもの	E=74
			付加機能を１つ有するもの	E=86
			付加機能を２つ有するもの	E=98
			付加機能を３つ有するもの	E=110
	19V型以上 32V型未満	液晶ノーマル	付加機能を有しないもの	E=2.0×S+21
			付加機能を１つ有するもの	E=2.0×S+33
			付加機能を２つ有するもの	E=2.0×S+45
			付加機能を３つ有するもの	E=2.0×S+57
		液晶倍速	付加機能を有しないもの	E=2.0×S+36
			付加機能を１つ有するもの	E=2.0×S+48
			付加機能を２つ有するもの	E=2.0×S+60
			付加機能を３つ有するもの	E=2.0×S+72
		液晶４倍速又はプラズマ	付加機能を有しないもの	E=2.0×S+58
			付加機能を１つ有するもの	E=2.0×S+70
			付加機能を２つ有するもの	E=2.0×S+82
			付加機能を３つ有するもの	E=2.0×S+94
	32V型以上	液晶ノーマル	付加機能を有しないもの	E=6.6×S-126
			付加機能を１つ有するもの	E=6.6×S-114
			付加機能を２つ有するもの	E=6.6×S-102
			付加機能を３つ有するもの	E=6.6×S-90
		液晶倍速	付加機能を有しないもの	E=6.6×S-111
			付加機能を１つ有するもの	E=6.6×S-99
			付加機能を２つ有するもの	E=6.6×S-87
			付加機能を３つ有するもの	E=6.6×S-75
		液晶４倍速又はプラズマ	付加機能を有しないもの	E=6.6×S-89
			付加機能を１つ有するもの	E=6.6×S-77
			付加機能を２つ有するもの	E=6.6×S-65
			付加機能を３つ有するもの	E=6.6×S-53
その他のもの	19V型未満	液晶ノーマル	付加機能を有しないもの	E=44
			付加機能を１つ有するもの	E=56
			付加機能を２つ有するもの	E=68
			付加機能を３つ有するもの	E=80
		液晶倍速	付加機能を有しないもの	E=59
			付加機能を１つ有するもの	E=71
			付加機能を２つ有するもの	E=83
			付加機能を３つ有するもの	E=95
	19V型以上 32V型未満	液晶ノーマル	付加機能を有しないもの	E=2.0×S+6
			付加機能を１つ有するもの	E=2.0×S+18
			付加機能を２つ有するもの	E=2.0×S+30
			付加機能を３つ有するもの	E=2.0×S+42
		液晶倍速	付加機能を有しないもの	E=2.0×S+21
			付加機能を１つ有するもの	E=2.0×S+33
			付加機能を２つ有するもの	E=2.0×S+45
			付加機能を３つ有するもの	E=2.0×S+57

		液晶４倍速又はプラズマ	付加機能を有しないもの	E=2.0×S+43
			付加機能を１つ有するもの	E=2.0×S+55
			付加機能を２つ有するもの	E=2.0×S+67
			付加機能を３つ有するもの	E=2.0×S+79
	32V型以上	液晶ノーマル	付加機能を有しないもの	E=6.6×S-141
			付加機能を１つ有するもの	E=6.6×S-129
			付加機能を２つ有するもの	E=6.6×S-117
			付加機能を３つ有するもの	E=6.6×S-105
		液晶倍速	付加機能を有しないもの	E=6.6×S-126
			付加機能を１つ有するもの	E=6.6×S-114
			付加機能を２つ有するもの	E=6.6×S-102
			付加機能を３つ有するもの	E=6.6×S-90
		液晶４倍速又はプラズマ	付加機能を有しないもの	E=6.6×S-104
			付加機能を１つ有するもの	E=6.6×S-92
			付加機能を２つ有するもの	E=6.6×S-80
			付加機能を３つ有するもの	E=6.6×S-68

備考）１　「FHD」とは、垂直方向の画素数が 1,080 以上、かつ、水平方向の画素数が 1,920 以上のものをいう。

２　「受信機型サイズ」とは、駆動表示領域の対角寸法をセンチメートル単位で表した数値を 2.54 で除して小数点以下を四捨五入した数値をいう。

３　「動画表示」とは、次のものとする。

液晶ノーマル：液晶パネルを用い、1 秒間に 60 コマ以上 120 コマ未満の静止画を表示するもの

液晶倍速　　：液晶パネルを用い、1 秒間に 120 コマ以上 240 コマ未満の静止画を表示するもの

液晶４倍速　：液晶パネルを用い、1 秒間に 240 コマ以上の静止画を表示するもの

プラズマ　　：プラズマディスプレイパネルを用い表示するもの

４　「付加機能」とは、ダブルデジタルチューナー、DVD（録画機能を有するものに限る。）、磁気ディスク装置、ブルーレイディスクレコーダーをいう。

５　エネルギー消費効率の算定方法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 24 号（平成 22 年 2 月 18 日）の「２エネルギー消費効率の測定方法２－２」による。

７－３ 電気便座

品目	判断の基準等
電気便座	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「電気便座」に含まれないものとする。 ①　他の給湯設備から温水の供給を受けるもの ②　温水洗浄装置のみのもの ③　可搬式のもののうち、福祉の用に供するもの ④　専ら鉄道車両において用いるためのもの ○　エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率に100/159を乗じて小数点以下を切り捨てた数値を上回らないこと。（備考１、２） 【配慮事項】 ①　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考３）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）１　温水洗浄便座のうち瞬間式であって、節電方式としてタイマー方式及び非使用状態（夜間等）を判別する機能を備えているものについては、平成 26 年度の１年間は経過措置を設けることとし、この期間においては、表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率に 100/129 を乗じて小数点以下を切り捨てた数値を上回らないことで特定調達物品等とみなすこととする。なお、経過措置については、市場動向を勘案しつつ、適切に検討を実施することとする。

２　暖房便座及び温水洗浄便座のうち貯湯式のものについては、判断の基準を満たす製品が市場に十分供給されるまでの期間は、表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を上回らないことで特定調達物品等とみなすこととする。なお、当該期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。

３「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　電気便座に係る基準エネルギー消費効率

区　　分		基準エネルギー消費効率
洗 浄 機 能 の 有 無	貯湯タンクの有無	
暖房便座（洗浄機能無し）		141
温水洗浄便座（洗浄機能有り）	貯湯式（貯湯タンク有り）	183
	瞬間式（貯湯タンク無し）	135

備考）１　「暖房便座」とは、暖房用の便座のみを有するものをいう。

２　「温水洗浄便座」とは、暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだものいう。

３　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 288 号（平成 19 年 11 月 26 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

７－４ 電子レンジ

品目	判断の基準等
電子レンジ	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「電子レンジ」に含まれないものとする。 ①ガスオーブンを有するもの ②業務の用に供するために製造されたもの ③定格入力電圧が 200 ボルト専用のもの ④庫内高さが 135 ミリメートル未満のもの ⑤システムキッチンその他のものに組み込まれたもの ①　エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を上回らないこと。 ②　特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）の含有情報（備考１）がウエブサイトを始めラベル等で容易に確認できること。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考２）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達後の留意点 　化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

備考）１　特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める方法によること。

２　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　電子レンジに係る基準エネルギー消費効率

<table>
<tr><th colspan="3">区　　　分</th><th rowspan="2">基準エネルギー
消　費　効　率</th></tr>
<tr><th>機　　能</th><th>加熱方式</th><th>庫内容積</th></tr>
<tr><td>オーブン機能を有するもの以外（単機能レンジ）</td><td></td><td></td><td>60.1</td></tr>
<tr><td rowspan="5">オーブン機能を有するもの（オーブンレンジ）</td><td rowspan="2">ヒーターの露出があるもの（熱風循環加熱方式のものを除く。）</td><td>30L 未満のもの</td><td>73.4</td></tr>
<tr><td>30L 以上のもの</td><td>78.2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ヒーターの露出があるもの以外（熱風循環加熱方式のものを除く。）</td><td>30L 未満のもの</td><td>70.4</td></tr>
<tr><td>30L 以上のもの</td><td>79.6</td></tr>
<tr><td>熱風循環加熱方式のもの</td><td></td><td>73.5</td></tr>
</table>

備考）１　「庫内容積」とは、家庭用品品質表示法（昭和 37 年法律第 104 号）に基づく電気機械機具品質表示規程で定める加熱室の有効寸法より算出した数値をいう。

２　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 63 号（平成 18 年 3 月 29 日）の「２エネルギー消費効率の測定方法」による。

８．エアコンディショナー等〔目標：100%〕

８－１ エアコンディショナー

品目	判断の基準等
エアコンディショナー	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものについては、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「エアコンディショナー」に含まれないものとする。 ①　冷房能力が28kW（マルチタイプのものは50.4kW）を超えるもの ②ウィンド形・ウォール形及び冷房専用のもの ③水冷式のもの ④圧縮用電動機を有しない構造のもの ⑤電気以外のエネルギーを暖房の熱源とする構造のもの ⑥機械器具の性能維持若しくは飲食物の衛生管理のための空気調和を目的とする温度制御機能又は除じん性能を有する構造のもの ⑦専ら室外の空気を冷却して室内に送風する構造のもの ⑧スポットエアコンディショナー ⑨車両その他の輸送機関用に設計されたもの ⑩高気密・高断熱住宅用ダクト空調システム ⑪冷房のための熱を蓄える専用の蓄熱槽(暖房用を兼ねるものを含む。)を有する構造のもの ⑫専用の太陽電池モジュールで発生した電力によって圧縮機、送風機その他主要構成機器を駆動する構造のもの ⑬床暖房又は給湯の機能を有するもの ⑭熱回収式マルチエアコン ①　家庭用品品質表示法施行令別表第３号（七）のエアコンディショナーであって、直吹き形で壁掛け形のもの（マルチタイプのもの（備考１）のうち室内機の運転を個別制御するものを除く。）のうち冷房能力が4.0kW以下のものについては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値に114/100を乗じて小数点以下1桁未満の端数を切り捨てた数値を下回らないこと。 ②　上記①以外の家庭用のエアコンディショナーについては、エネルギー消費効率が別表２に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値に114/100を乗じて小数点以下1桁未満の端数を切り捨てた数値を下回らないこと。 ③　業務の用に供するエアコンディショナーについては、エネルギー消費効率が別表３に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式を用いて算定した基準エネルギー消費効率の数値に88/100を乗じて小数点以下１桁未満の端数を切り捨てたの数値を下回らないこと。 ④　冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 ⑤　特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）の含有情報（備考２）がウエブサイトを始めラベル等で容易に確認できること。(※) ※　判断基準⑤は、ユニット型エアコンディショナー（パッケージ用のものを除く。）に適用する。 【配慮事項】 ①　資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考３）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

	④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達後の留意点 　化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

備考）１　「マルチタイプのもの」とは、１の室外機に２以上の室内機を接続するものをいう。

２　判断の基準⑤の特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める方法によること。

３　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１　家庭用品品質表示法施行令別表第３号（七）のエアコンディショナーであって直吹き形で壁掛け形のもの（マルチタイプのもののうち室内機の運転を個別制御するものを除く。）のうち冷房能力が4.0kW以下のものに係る基準エネルギー消費効率

区　　分		基準エネルギー消費効率
冷房能力	室内機の寸法タイプ	
3.2kW 以下	寸法規定タイプ	5.8
	寸法フリータイプ	6.6
3.2kW 超 4.0kW 以下	寸法規定タイプ	4.9
	寸法フリータイプ	6.0

備考）１　「室内機の寸法タイプ」とは、室内機の横幅寸法 800 ミリメートル以下かつ高さ 295 ミリメートル以下の機種を寸法規定タイプとし、それ以外を寸法フリータイプとする。

２　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 213 号（平成 21 年 6 月 22 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。表２において同じ。

別表２　家庭用のエアコンディショナーに係る基準エネルギー消費効率

区　　分		基準エネルギー消費効率
ユニットの形態	冷房能力	
直吹き形で壁掛け形のもの	4.0kW 超 5.0kW 以下	5.5
	5.0kW 超 6.3kW 以下	5.0
	6.3kW 超 28.0kW 以下	4.5
直吹き形で壁掛け形以外のもの（マルチタイプのもののうち室内機の運転を個別制御するものを除く。）	3.2kW 以下	5.2
	3.2kW 超 4.0kW 以下	4.8
	4.0kW 超 28.0kW 以下	4.3
マルチタイプのものであって室内機の運転を個別制御するもの	4.0kW 以下	5.4
	4.0kW 超 7.1kW 以下	5.4
	7.1kW 超 28.0kW 以下	5.4

別表３　業務の用に供するエアコンディショナーに係る基準エネルギー消費効率

区　分			基準エネルギー消費効率又は算定式
形態及び機能	室内機の種類	冷房能力	
複数組合せ形のもの及び下記以外のもの	四方向カセット形	3.6kW 未満	E=6.0
		3.6kW 以上 10.0kW 未満	E=6.0-0.083×(A-3.6)
		10.0kW 以上 20.0kW 未満	E=6.0-0.12×(A-10)
		20.0kW 以上 28.0kW 以下	E=5.1-0.060×(A-20)
	四方向カセット形以外	3.6kW 未満	E=5.1
		3.6kW 以上 10.0kW 未満	E=5.1-0.083×(A-3.6)
		10.0kW 以上 20.0kW 未満	E=5.1-0.10×(A-10)
		20.0kW 以上 28.0kW 以下	E=4.3-0.050×(A-20)
マルチタイプのもので室内機の運転を個別制御するもの		10.0kW 未満	E=5.7
		10.0kW 以上 20.0kW 未満	E=5.7-0.11×(A-10)
		20.0kW 以上 40.0kW 未満	E=5.7-0.065×(A-20)
		40.0kW 以上 50.4kW 以下	E=4.8-0.040×(A-40)
室内機が床置きでダクト接続形のもの及びこれに類するもの	直吹き形	20.0kW 未満	E=4.9
		20.0kW 以上 28.0kW 以下	E=4.9
	ダクト形	20.0kW 未満	E=4.7
		20.0kW 以上 28.0kW 以下	E=4.7

備考）１　「ダクト接続形のもの」とは、吹き出し口にダクトを接続するものをいう。

２　E 及び A は次の数値を表すものとする。

E：基準エネルギー消費効率（単位：通年エネルギー消費効率）

A：冷房能力（単位：kW）

３　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 213 号（平成 21 年 6 月 22 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(3)」による。

８－２ ガスヒートポンプ式冷暖房機

品目	判断の基準等
ガスヒートポンプ式冷暖房機 （※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ガスヒートポンプ式冷暖房機」は、定格冷房能力が、7.1kW を超え 28kW 未満のものとする。	【判断の基準】 ①　成績係数が別表に示された区分ごとの数値以上であること。 ②　冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　ガスヒートポンプ式冷暖房機に係る成績係数

区分	成績係数の種類	成績係数
JIS 適合機種	期間成績係数（APF）	1.42
JIS 適合外機種	一次エネルギー換算成績係数（COP）	1.15

備考）１　期間成績係数（APF）の算出方法は、JIS B 8627-1 による。

２　一次エネルギー換算成績係数（COP）の算出方法については次式による。また、定格周波数が 50 ヘルツ・60 ヘルツ共用のものにあっては、それぞれの周波数で測定した数値により算定した数値のうち小さい方の値とする。

COP=(Cc/(Egc+Eec)+Ch/(Egh+Eeh))/2

COP：一次エネルギー換算成績係数

Cc　：冷房標準能力（単位：kW）

Egc：冷房ガス消費量（単位：kW）

Eec：冷房消費電力（単位：kW）を 1kWh につき 9,760kJ として 1 次エネルギーに換算した値（単位：kW）

Ch　：暖房標準能力（単位：kW）

Egh：暖房ガス消費量（単位：kW）

Eeh：暖房消費電力（単位：kW）を 1kWh につき 9,760kJ として 1 次エネルギーに換算した値（単位：kW）

３　冷房標準能力、冷房ガス消費量、冷房消費電力、暖房標準能力、暖房ガス消費量及び暖房消費電力については、JIS B 8627-2 又は B 8627-3 の規定する方法により測定する。

４　冷房消費電力、暖房消費電力については、室外機の実効消費電力とする。

８－３ ストーブ

品目	判断の基準等
ストーブ	【判断の基準】（※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ストーブ」は、ガス又は灯油を燃料とするものに限り、次のいずれかに該当するものは、これに含まれないものとする。 ①　開放式のもの ②　ガス（都市ガスのうち 13A のガスグループ（ガス事業法施行規則（昭和 45 年通商産業省令第 97 号）第 25 条第 3 項のガスグループをいう。以下同じ。）に属するもの及び液化石油ガスを除く。）を燃料とするもの ③　半密閉式ガスストーブ ④　最大の燃料消費量が 4.0 L/h を超える構造の半密閉式石油ストーブ ⑤　最大の燃料消費量が 2.75 L/h を超える構造の密閉式石油ストーブ ○次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　ガスストーブにあっては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を下回らないこと。 ②　石油ストーブにあっては、エネルギー消費効率が別表２に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値又は算定式を用いて算出された数値を下回らないこと。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１　ガスストーブに係る基準エネルギー消費効率

区　　　分	基準エネルギー消費効率
密閉式	82.0

備考）　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 55 号（平成 18 年 3 月 29 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法」による。以下別表２において同じ。

別表２　石油ストーブに係る基準エネルギー消費効率又はその算定式

区分		基準エネルギー消費効率又はその算定式
給排気方式	伝熱方式	
密閉式	自然対流式	83.5
	強制対流式	86.0
半密閉式	放射式	69.0
	放射式以外のものであって最大の燃料消費量が 1.5 L/h 以下のもの	67.0
	放射式以外のものであって最大の燃料消費量が 1.5 L/h を越えるもの	$E = -3.0 \times L + 71.5$

備考）　E及びLは、次の数値を表す。

E：基準エネルギー消費効率（単位：%）

L：最大燃料消費量（単位：L/h）

９．温水器等〔目標：100%〕

９－１　ヒートポンプ式電気給湯器

品目	判断の基準等
ヒートポンプ式電気給湯器	【判断の基準】 ①　家庭用ヒートポンプ式電気給湯器（※）にあっては、エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。 ※　暖房の用に供することができるものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象に含まれないものとする。 ※　平成26年度の1年間は経過措置を設けることとし、この期間においては、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成25年2月5日閣議決定）のヒートポンプ式電気給湯器に係る判断の基準を満たすことをもって特定調達物品等とみなすこととする。なお、経過措置については、市場動向を勘案しつつ、適切に検討を実施することとする。 ②業務用ヒートポンプ式電気給湯器にあっては、成績係数（備考１）が3.50以上であること。 ③冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 ④ハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと（※）。 ※　判断の基準④は、業務用ヒートポンプ式電気給湯器については適用しないものとする。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考２）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　１　業務用ヒートポンプ式電気給湯器の成績係数の算出方法は、次式による。

成績係数（COP）　＝　定格加熱能力／定格消費電力

定格加熱能力：ヒートポンプユニットが表に規定された定格加熱条件で運転した時に、循環する湯水に与えられる熱量。加熱ヒータにより同時に加熱を行うシステムの場合は、その熱量も加えたものとする。（単位：kW）

定格消費電力：ヒートポンプユニットが表に規定された定格加熱条件で運転した時に、消費する電力の合計。加熱ヒータにより同時に加熱を行うシステムの場合は、その消費電力も加えたものとする。（単位：kW）

表　定格加熱条件

項目	定格加熱条件（単位：℃）
外気温度（DB/WB）	16/12
給水温度	17
出湯温度	65

給水温度：ヒートポンプ式給湯器に供給される市水温度。（単位：℃）
出湯温度：ヒートポンプユニットの出口温度。（単位：℃）

２　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　家庭用ヒートポンプ式電気給湯器に係る基準エネルギー消費効率

想定世帯	貯湯容量	仕様	保温機能	貯湯缶数	基準エネルギー消費効率
標準（4人世帯）	240リットル未満	寒冷地仕様以外のもの	有	一缶	2.8
				多缶	2.4
			無	一缶	3.0
				多缶	2.6
		寒冷地仕様	有	一缶	2.3
				多缶	2.0
			無	一缶	2.6
				多缶	2.3
	240リットル以上320リットル未満	寒冷地仕様以外のもの	有	一缶	2.8
				多缶	2.8
			無	一缶	3.2
				多缶	2.8
		寒冷地仕様	有	一缶	2.3
				多缶	2.0
			無	一缶	2.7
				多缶	2.3
	320リットル以上550リットル未満	寒冷地仕様以外のもの	有	一缶	3.3
				多缶	2.8
			無	一缶	3.2
				多缶	2.8
		寒冷地仕様	有	一缶	2.7
				多缶	2.3
			無	一缶	2.7
				多缶	2.3
	550リットル以上	寒冷地仕様以外のもの	有	一缶	2.9
				多缶	2.5
			無	一缶	2.9
				多缶	2.5
		寒冷地仕様	有	一缶	2.4
				多缶	2.1
			無	一缶	2.5
				多缶	2.2
少人数（2人世帯）	―	寒冷地仕様以外のもの	有	―	2.4
			無		2.8
		寒冷地仕様	有		2.0
			無		2.4

備考）　１　「貯湯容量」とは、JIS C 9220 に規定する湯水を貯蔵できるタンクの容量をいう。

２　「寒冷地仕様」とは、JIS C 9220 に規定する冬の寒さが厳しい地域での使用を想定した仕様をいう。

３　「保温機能」とは、ふろの湯を循環加温する機能をいう。

９－２ ガス温水機器

品目	判断の基準等
ガス温水機器	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ガス温水機器」に含まれないものとする。 ①　貯蔵式湯沸器 ②　業務の用に供するために製造されたもの ③　ガス（都市ガスのうち 13A のガスグループに属するもの及び液化石油ガスを除く。）を燃料とするもの ④　浴室内に設置する構造のガスふろがまであって、不完全燃焼を防止する機能を有するもの ⑤　給排気口にダクトを接続する構造の密閉式ガスふろがま ○　エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を下回らないこと。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　ガス温水機器に係る基準エネルギー消費効率

区分				基準エネルギー消費効率
ガス温水機器の種別	通気方式	循環方式	給排気方式	
ガス瞬間湯沸器	自然通気式		開放式	83.5
			開放式以外のもの	78.0
	強制通気式		屋外式以外のもの	80.0
			屋外式	82.0
ガスふろがま（給湯付のもの以外）	自然通気式	自然循環式	半密閉式又は密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの）	75.5
			密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの以外）	71.0
			屋外式	76.4
	強制通気式	自然循環式		70.8
		強制循環式		77.0
ガスふろがま（給湯付のもの）	自然通気式	自然循環式	半密閉式又は密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの）	78.0
			密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの以外）	77.0
			屋外式	78.9
	強制通気式	自然循環式		76.1
		強制循環式	屋外式以外のもの	78.8
			屋外式	80.4
ガス暖房機器（給湯付のもの以外）				83.4
ガス暖房機器（給湯付のもの）				83.0

備考）　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 57 号（平成 18 年 3 月 29 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法」による。

９－３ 石油温水機器

品目	判断の基準等
石油温水機器	【判断の基準】（※） ※ 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「石油温水機器」に含まれないものとする。 ① ポット式バーナー付きふろがま ② 業務の用に供するために製造されたもの ③ 薪材を燃焼させる構造を有するもの ④ ゲージ圧力 0.1MPa を超える温水ボイラー ○ エネルギー消費効率が別表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を下回らないこと。 【配慮事項】 ① 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ② プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ③ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表　石油温水機器に係る基準エネルギー消費効率

区分			基準エネルギー消費効率
用途	加熱形態	給排気方式又は制御方式	
給湯用のもの	瞬間形		86.0
	貯湯式であって急速加熱形のもの		87.0
	貯湯式であって急速加熱形以外のもの		85.0
暖房用のもの	瞬間形	開放形	85.3
		半密閉式	79.4
		密閉式	82.1
	貯湯式であって急速加熱形のもの	オンーオフ制御	87.0
		オンーオフ制御以外のもの	82.0
	貯湯式であって急速加熱形以外のもの		84.0
浴用のもの	伝熱筒のあるもの		75.0
	伝熱筒のないもの		61.0

備考）１　「給湯用のもの」とは、主として給湯用に供するものをいい、暖房用又は浴用に供するための機能が付随するものを含む。

２　「暖房用のもの」とは、主として暖房用に供するものをいい、給湯用又は浴用に供するための機能が付随するものを含む。

３　「浴用のもの」とは、主として浴用に供するものをいい、給湯用又は暖房用に供するための機能が付随するものを含む。

４　「急速加熱形のもの」とは、加熱時間（JIS S3031 に規定する加熱速度の測定方法により測定した時間をいう。）が 200 秒以内のものをいう。

５　「伝熱筒」とは、貯湯部を貫通する煙道をいう。

６　「オンーオフ制御」とは、制御が点火又は消火に限り行われるものをいう。

７　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 58 号（平成 18 年 3 月 29 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法」による。

９－４ ガス調理機器

品目	判断の基準等
ガス調理機器	【判断の基準】（※） ※ 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ガス調理機器」に含まれないものとする。 ① 業務の用に供するために製造されたもの ② ガス（都市ガスのうち 13A のガスグループに属するもの及び液化石油ガスを除く。）を燃料とするもの ③ ガスグリル ④ ガスクッキングテーブル ⑤ ガス炊飯器 ⑥ カセットこんろ ○次のいずれかの要件を満たすこと。 ① こんろ部にあっては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を下回らないこと。 ② グリル部にあっては、エネルギー消費効率が別表２に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の算定式を用いて算定した数値を上回らないこと。 ③ オーブン部にあっては、エネルギー消費効率が別表３に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の算定式を用いて算定した数値を上回らないこと。 【配慮事項】 ① 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ② プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 ③ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考） 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

別表１ ガス調理機器のこんろ部に係る基準エネルギー消費効率

区分			こんろ部 基準エネルギー消費効率
ガス調理機器の種別	設置形態	バーナーの数	
ガスこんろ	卓上形		51.0
	組込形		48.5
ガスグリル付こんろ	卓上形	2 口以下	56.3
		3 口以上	52.4
	組込形	2 口以下	53.0
		3 口以上	55.6
	キャビネット形又は据置形		49.7
ガスレンジ			48.4

備考） 1 「ガスレンジ」とは、ガスオーブンとガスこんろを組み合わせたものをいう。
2 「卓上形」とは、台の上に置いて使用するものをいう。
3 「組込形」とは、壁又は台に組み込んで使用するものをいう。
4 「キャビネット形」とは、専用のキャビネットの上に取り付けて使用するものをいう。

５　「据置形」とは、台又は床面に据え置いて使用するものをいう。
６　こんろ部のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省平成 18 年３月告示第 56 号の「３エネルギー消費効率の測定方法(1)」による。

別表２　ガス調理機器のグリル部に係る基準エネルギー消費効率算定式

区　　分		グリル部 基準エネルギー消費効率の算定式
燃焼方式	調理方式	
片面焼き	水あり	E=25.1Vg+123
	水なし	E=25.1Vg+16.4
両面焼き	水あり	E=12.5Vg+172
	水なし	E=12.5Vg+101

備考）１　E 及び Vg は、次の数値を表すものとする。
E：グリル部基準エネルギー消費効率（単位：Wh）
Vg：庫内容積（単位：L）
２　「片面焼き」とは、食材の片側から加熱調理する方式のものをいう。
３　「両面焼き」とは、食材の両面から加熱調理する方式のものをいう。
４　「水あり」とは、グリル皿に水を張った状態で調理する方式のものをいう。
５　「水なし」とは、グリル皿に水を張らない状態で調理する方式のものをいう。
６　「庫内容積」とは、焼網面積にグリル皿底面から入口上部までの高さを乗じた数値を小数点以下 2 桁で四捨五入した数値をいう。
７　グリル部のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省平成 18 年３月告示第 56 号の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

別表３　ガス調理機器のオーブン部（ガスオーブンを含む）に係る基準エネルギー消費効率算定式

設置状態	オーブン部 基準エネルギー消費効率の算定式
卓上又は据置形	E=18.6Vo+306
組込形	E=18.6Vo+83.3

備考）１　E 及び Vo は、次の数値を表すものとする。
E：オーブン部基準エネルギー消費効率（単位：Wh）
Vo：庫内容積（単位：L）
２　「卓上形」とは、台の上に置いて使用するものをいう。
３　「組込形」とは、壁又は台に組み込んで使用するものをいう。
４　「据置形」とは、台又は床面に据え置いて使用するものをいう。
５　「庫内容積」とは、庫内底面積に庫内高さを乗じた数値を小数点以下 2 桁で四捨五入した数値をいう。
６　オーブン部のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省平成 18 年３月告示第 56 号の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

１０．照明〔目標：95%〕

１０－１照明器具

品目	判断の基準等
蛍光灯照明器具	【判断の基準】（※） ※　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「蛍光灯照明器具」に含まれないものとする。 ①　防爆型のもの ②　耐熱型のもの ③　防じん構造のもの ④　耐食型のもの ⑤　車両その他の輸送機関用に設計されたもの ⑥　40形未満の蛍光ランプを使用するものであって、壁掛け形又は施設用つり下げ形若しくはじか付け形のもの ⑦　鉱工業用機機械用に設計されたもの ⑧　家具用に設計されたもの ⑨　さし込み口金及び蛍光ランプ用安定期画構造上一体となったもの ⑩　蛍光ランプを保護するためのグローブが透明なもの ①　次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．使用用途が施設用又は卓上スタンド用にあっては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を下回らないこと。（※） イ．使用用途が家庭用にあっては、エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率に127/100を乗じて小数点以下１桁未満の端数を切り上げた数値を下回らないこと。 ②　特定の化学物質（備考1）が含有率基準値（備考２）を超えないこと。また、当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。 ※　G23口金に対応する安定器内蔵コンパクト形蛍光ランプを用いた卓上スタンドについては、蛍光灯照明器具に係る判断基準②を満たすことで特定調達物品等とみなすこととする。 【配慮事項】 ①　初期照度補正制御、人感センサ制御、あかるさセンサ制御等の省エネルギー効果の高い機能があること。 ②　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達後の留意事項 化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。
LED照明器具 （※） ※　照明用白色LEDを用いた、つり下げ形、じか付け形、埋込み形、壁付け形	【判断の基準】 ①　固有エネルギー消費効率（※１）が別表２に示された基準を満たすこと。 ②　演色性は平均演色評価数Ra（※２）が70以上であること。 ③　LEDモジュール寿命（※３）は40,000時間以上であること。 ④　特定の化学物質（備考１）が含有率基準値（備考２）を超えないこと。また当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。

及び卓上スタンドとして使用する器具。ただし、従来の蛍光ランプで使用されている口金と同一形状の口金を有するLEDランプを装着できる照明器具のうち、口金を経てLEDランプへ給電する構造を持つ照明器具については、当面の間、対象外とする。	※１　器具から出る全光束を定格消費電力で割った値とする（定格消費電力は、器具外部に独立型電源装置を設置する必要がある場合はその電源装置の定格消費電力とする。）。なお、調光・調色機能付器具の固有エネルギー消費効率については、最大消費電力時における全光束から算出された値とする。 ※２　JIS C 7801（一般照明用光源の測光方法）及びJIS C 8152-2（照明用白色発光ダイオード（LED）の測光方法－第2部：LEDモジュール及びLEDライトエンジン）に規定する光源色及び演色評価数測定に準ずるものとする。 ※３　光源の初期の光束が70%まで減衰するまでの時間とする。また、その測定方法は、JIS C 8152-3（照明用白色発光ダイオード（LED）の測光方法－第3部：光束維持率の測定方法）に準ずるものとする。 【配慮事項】 ①　初期照度補正制御、人感センサ制御、あかるさセンサ制御等の省エネルギー効果の高い機能があること。 ②　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③　使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達時、調達後の留意事項 ①　調達にあたっては、現段階においてJIS規格が検討中であることを踏まえ、安全管理・品質管理が十分なされたものを、比較検討の上、選択するよう留意すること。 ②　化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質３の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。
LEDを光源とした内照式表示灯（※） ※　内蔵するLED光源によって文字等を照らす表示板、案内板等とし、放熱等光源の保護に対応しているものとする。	【判断の基準】 ①　定格寿命（※）は30,000時間以上であること。 ②　特定の化学物質（備考１）が含有率基準値（備考２）を超えないこと。また当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。 ※　光源の初期の光束が50%まで減衰するまでの時間とする。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ③　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考３）が可能な限り使用されていること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ※　調達後の留意事項 化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

備考）１　鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ポリブロモビフェニル並びにポリブロモジフェニルエーテルをいう。

２　特定の化学物質の含有率基準値は、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書Ａの表A.1（特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値とする。また、同基準値を超える含有が許容される項目については、上記JISの附属書Ｂに準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについてはJIS C 0950:2008に準ずるものとする。

３　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

４　LED 照明器具の全光測定方法については、JIS C 8105-5:2011「照明器具第５部：配光測定方法」に準ずるものとする

別表１　蛍光灯器具に係る基準エネルギー消費効率

区　　分			基準エネルギー消費効率
使用用途	蛍光ランプの形状	蛍光ランプの大きさ	
施設用	直管形のもの又はコンパクト形のもののうち２本管形のもの	蛍光ランプの大きさの区分が 86 以上の蛍光ランプを使用するもの	100.8
		蛍光ランプの大きさの区分が 86 未満の蛍光ランプを使用するもの	100.5
	コンパクト形のもののうち２本管形以外の		61.6
家庭用	環形のもの又は直管形のもの	使用する蛍光ランプの大きさの区分の総和が 70 以上のもの（蛍光ランプの大きさの区分が 20 の直管形蛍光ランプを使用するものを除く）	91.6
		使用する蛍光ランプの大きさの区分の総和が 70 未満のもの又は蛍光ランプの大きさ区分の総和が 70 以上のものであって蛍光ランプの大きさが 20 の直管形蛍光ランプを使用するもの	78.1
卓上スタンド用	直管形のもの又はコンパクト形のもの		70.8

備考）　１　「蛍光ランプの大きさの区分」とは、直管形蛍光ランプのうち、高周波点灯専用形蛍光ランプにあっては JIS C 7617-2 の 2.3.1 に規定する定格ランプ電力をいい、それ以外のものにあっては JIS C 7617-2 の 2.3.1 に規定する大きさの区分をいい、コンパクト形蛍光ランプ又は環形高周波点灯専用形蛍光ランプにあっては JIS C 7618-2 の 2.3.1 に規定する定格ランプ電力をいい、環形高周波点灯専用形蛍光ランプ以外の環形蛍光ランプにあっては JIS C 7618-2 の 2.3.1 に規定する定格ランプ電力又は大きさの区分をいう。また、これらの規格に規定のない蛍光ランプにあっては定格ランプ電力の数値とする。ただし、環形高周波点灯専用形蛍光ランプのうち高出力点灯するものにあっては、高出力点灯時のランプ電力の数値とする。

２　エネルギー消費効率の算定法は、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 54 号（平成 22 年 3 月 19 日）の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

別表２　LED 照明器具に係る固有エネルギー消費効率の基準

光源色	固有エネルギー消費効率
昼光色	70lm/W以上
昼白色	
白色	60lm/W以上
温白色	
電球色	

備考）１　「光源色」とは、JISZ9112 に規定する蛍光ランプの光源色の区分に準ずるものとする。

２　昼光色、昼白色、白色、温白色及び電球色以外の光を発するものは、本項の「LED 照明器具」に含まれなものとする。

１０－２ ランプ

品目	判断の基準等
蛍光ランプ （直管型：大きさの区分 40 形蛍光ランプ）	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①高周波点灯専用形（Hf）である場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率は、ランプ効率で 100lm/W 以上であること。 イ．演色性は平均演色評価数 Ra が 80 以上であること。 ウ．管径は 25.5（±1.2）mm 以下であること。 エ．水銀封入量は製品平均 5mg 以下であること。 オ．定格寿命は 10,000 時間以上であること。 ②ラピッドスタート形又はスタータ形である場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率は、ランプ効率で 85lm/W 以上であること。 イ．演色性は平均演色評価数 Ra が 80（※）以上であること。 ウ．管径は 32.5（±1.5）mm 以下であること。 エ．水銀封入量は製品平均 5mg 以下であること。 オ．定格寿命は 10,000 時間以上であること。 ※　JIS C 7801（一般照明用光源の測光方法）に規定する光源色及び演色評価数測定に準ずる。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達後の留意事項 非常用照明器具用のランプを調達する場合、器具の適合条件を十分確認すること。

電球形状のランプ（※） ※　電球用のソケットにそのまま使用可能なランプとする。ただし、人感センサ、非常用照明（直流電源回路）等は除く。	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　電球形 LED ランプ（※１）である場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとのランプ効率の基準を満たすこと。ただし、ビーム開きが 90 度未満の反射形タイプの場合は、エネルギー消費効率がランプ効率で 45lm/W 以上であること。 イ．演色性は平均演色評価数 Ra（※２）が 70 以上であること。 ウ．定格寿命（※３）は 30,000 時間以上であること。 ※１　一般照明として使用する白色 LED 使用の電球形状のランプとする。 ※２　JIS C 7801（一般照明用光源の測光方法）に規定する光源色及び演色評価数測定に準ずる。 ※３　光源の初期の光束が 70%まで減衰するまでの時間とする。また、その測定方法は、JIS C 8152-3（照明用白色発光ダイオード（LED）の測光方法－第 3 部：光束維持率の測定方法）に準ずるものとする。 ②　電球形蛍光ランプである場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率が別表２に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の数値を下回らないこと。 イ．水銀封入量は製品平均 4mg 以下であること。 ウ．定格寿命（※）は 6,000 時間以上であること。 ※　ランプが点灯しなくなるまでの総点灯時間又は全光束が初期値の 60%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短いものとする。また、その測定方法は、JIS C 7620-2（一般照明用電球形蛍光ランプ－第 2 部：性能仕様）の定格寿命に準ずるものとする。 ③　上記①、②以外の電球形状のランプである場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率がランプ効率で50lm/W以上であること。 イ．定格寿命は6,000時間以上であること。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達後の留意事項 １　非常用照明器具用のランプを調達する場合、器具の適合条件を十分確認すること。 ２　電球形蛍光ランプをLEDランプに交換する場合は、当該ランプの使用条件、光源色やランプ効率、製品寿命等について、本項の判断を比較検討の上、適切なランプを選択すること。

別表１　LED ランプに係るランプ効率の基準

全光束	光源色	ランプ効率
400lm以上	昼光色	75lm/W 以上
	昼白色	
	白色	60lm/W 以上
	温白色	
	電球色	
400lm未満	昼光色	65lm/W 以上
	昼白色	
	白色	55lm/W 以上
	温白色	
	電球色	

備考）１　「光源色」は、JISZ9112 に規定する蛍光ランプの光源色の区分に準ずるものとする。

２　昼光色、昼白色、白色、温白色及び電球色以外の光を発するものは、本項の「電球形 LED ランプ」に含まれないものとする。

３　調光・調色対応ランプについては、別表１の全光束別・光源色別の区分のランプ効率の基準から 5lm/W を差し引いた値とする。なお、当該ランプのランプ効率については、最大消費電力時における全光束から算出された値とする。

別表２　電球形蛍光ランプに係る基準エネルギー消費効率

区　分			基準エネルギー消費効率
蛍光ランプの大きさの区分	蛍光ランプの光源色	蛍光ランプの形状	
10	電球色		60.6
	昼白色		58.1
	昼光色		55.0
15	電球色		67.5
	昼白色		65.0
	昼光色		60.8
25	電球色	蛍光ランプが露出しているもの	72.4
		蛍光ランプが露出していないもの	69.1
	昼白色	蛍光ランプが露出しているもの	69.5
		蛍光ランプが露出していないもの	66.4
	昼光色	蛍光ランプが露出しているもの	65.2
		蛍光ランプが露出していないもの	62.3

備考）１　次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「電球形蛍光ランプ」には含まれないものとする。

①蛍光ランプに反射鏡を有する構造のもの
②光束を調節する機能を有するもの
③昼光色、昼白色、白色、温白色及び電球色以外の光を発するもの
④鶏舎用に設計されたもの
⑤蛍光ランプが分離できるもの
⑥蛍光ランプを保護するためのグローブが透明なもの

２　「蛍光ランプの大きさの区分」とは、JIS C 7620-2 に規定する大きさの区分をいう。

３　エネルギー消費効率の算定法は、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 54 号（平成 22 年 3 月 19 日）の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

１１．自動車等〔目標：100%〕〔エコマーク商品（エンジン油のみ）〕

１１－１ 自動車

品目	判断の基準等
自動車（※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「自動車」は、道路運送車両法施行規則（昭和26年8月16日運輸省令第74号）第2条の普通自動車、小型自動車及び軽自動車（二輪自動車を除く。）とする。	【判断の基準】 ○　新しい技術の活用等により従来の自動車と比較して著しく環境負荷の低減を実現した自動車であって、次に掲げる自動車であること。 ①　電気自動車 ②　天然ガス自動車 ③　ハイブリッド自動車（備考１） ④　プラグインハイブリッド自動車 ⑤　燃料電池自動車 ⑥　水素自動車 ⑦　クリーンディーゼル自動車（備考１）（乗車定員10人以下の乗用の用に供する自動車（以下「乗用車」という。）に限る。以下同じ。） ⑧　乗用車・小型バス ア．ガソリン自動車 乗用車にあっては、別表１に示された区分の排出ガス基準に適合し、別表２に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車。乗車定員11人以上かつ車両総重量（備考２）3.5t以下の乗用の用に供する自動車（以下「小型バス」という。）にあっては、別表１に示された区分の排出ガス基準に適合し、別表３に示された区分の燃費基準値を満たす自動車 イ．ディーゼル自動車 小型バスにあっては、別表３に示された区分の燃費基準値を満たす自動車 ⑨　小型貨物車 ア．ガソリン自動車 車両総重量3.5t以下の貨物自動車（以下「小型貨物車」という。）にあっては、別表１に示された区分の排出ガス基準に適合し、別表４に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 イ．ディーゼル自動車 小型貨物車にあっては、別表５に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 ⑩　重量車 ア．乗車定員11人以上かつ車両総重量3.5t超の乗用自動車にあっては、別表６に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 ア．車両総重量3.5t超の貨物自動車（けん引自動車を除く。以下「トラック等」という。）にあっては、別表７に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 イ．車両総重量3.5t超の貨物自動車（けん引自動車に限る。以下「トラクタ」という。）にあっては、別表８に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 ⑪　LPガス自動車 ア．乗用車にあっては、別表１に示された区分の排出ガス基準に適合し、別表９に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 イ．小型貨物車（車両総重量2.5t以下のものに限る。）にあっては、別表１に示された区分の排出ガス基準に適合し、別表10に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車

	【配慮事項】 ① 鉛の使用量（バッテリーに使用されているものを除く。）が可能な限り削減されていること。 ② 資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。特に、希少金属類（備考３）の減量化や再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ③ 再生材が可能な限り使用されていること。 ④ アイドリングストップ自動車として設計・製造されていること。 ⑤ エコドライブ支援機能（備考４）を搭載していること。

備考） １ ハイブリッド自動車及びクリーンディーゼル自動車については、当該自動車の燃費種及び車種に対応する表の区分ごとの燃費基準値を満たさない場合は、本項の判断の基準に適合しないものとする。

２ 車両総重量とは、道路運送車両法第 40 条第３号に規定する車両総重量をいう。以下同じ。

３ 希少金属類とは、昭和 59 年８月の通商産業省鉱業審議会レアメタル総合対策特別小委員会において特定された 31 鉱種（希土類は 17 元素を１鉱種として考慮）の金属をいう。

４ エコドライブ支援機能とは、最適なアクセル操作、シフトチェンジ等の運転者への支援機能エコドライブ実施状況の表示、分析・診断等の機能、カーナビゲーションシステムと連動した省エネルギー経路の選択機能等をいう。

５ 一般公用車（通常の行政事務の用に供する乗用自動車（乗車定員 10 人以下のものに限る。）であって、普通自動車又は小型自動車であるものをいう。以下同じ。）にあっては、バイオエタノール混合ガソリン（E3、E10 及び ETBE）の供給体制が整備されている地域から、その積極的な利用に努めること。

別表１ ガソリン乗用車又はLPガス自動車に係る排出ガス基準

区　　分	一酸化炭素	非メタン炭化水素	窒素酸化物
乗用車	1.15g/km以下	0.013g/km以下	0.013g/km以下
小型バス（1.7t以下）・軽量貨物車	1.15g/km以下	0.025g/km以下	0.025g/km以下
小型バス（1.7t超）・中量貨物車	2.55g/km以下	0.025g/km以下	0.035g/km以下
軽貨物車	4.02g/km以下	0.025g/km以下	0.025g/km以下

備考） １ 粒子状物質については、排出がないとみなされる程度であること。

２ 「軽量貨物車」とは、車両総重量 1.7t 以下の貨物自動車をいう、以下同じ。

３ 「中量貨物車」とは、車両総重量 1.7t 超 3.5t 以下の貨物自動車をいう、以下同じ。

４ 「軽貨物車」とは、貨物自動車のうち軽自動車であるものをいう。以下同じ。

別表２ ガソリン乗用車又はディーゼル乗用車に係るJC08モード燃費基準

区　　分	燃費基準値	
	ガソリン	ディーゼル
車両重量が　601kg未満	22.5km/L以上	24.8km/L以上
車両重量が　601kg以上　741kg未満	21.8km/L以上	24.0km/L以上
車両重量が　741kg以上　856kg未満	21.0km/L以上	23.1km/L以上
車両重量が　856kg以上　971kg未満	20.8km/L以上	22.9km/L以上
車両重量が　971kg以上1,081kg未満	20.5km/L以上	22.6km/L以上

車両重量が1,081kg以上1,196kg未満	18.7km/L以上	20.6km/L以上
車両重量が1,196kg以上1,311kg未満	17.2km/L以上	18.9km/L以上
車両重量が1,311kg以上1,421kg未満	15.8km/L以上	17.4km/L以上
車両重量が1,421kg以上1,531kg未満	14.4km/L以上	15.8km/L以上
車両重量が1,531kg以上1,651kg未満	13.2km/L以上	14.5km/L以上
車両重量が1,651kg以上1,761kg未満	12.2km/L以上	13.4km/L以上
車両重量が1,761kg以上1,871kg未満	11.1km/L以上	12.2km/L以上
車両重量が1,871kg以上1,991kg未満	10.2km/L以上	11.2km/L以上
車両重量が1,991kg以上2,101kg未満	9.4km/L以上	10.3km/L以上
車両重量が2,101kg以上2,271kg未満	8.7km/L以上	9.6km/L以上
車両重量が2,271kg以上	7.4km/L以上	8.1km/L以上

備考）　「車両重量」とは、道路運送車両法の保安基準（昭和26年運輸省令第67号）第１条第６号に規定する空車状態における車両の重量をいう、以下同じ。

別表３　小型バス（車両総重量3.5t以下）に係るJC08モード燃費基準

区　分	燃費基準値
ガソリンを燃料とする小型バス	8.5km/L以上
軽油を燃料とする小型バス	9.7km/L以上

別表４　ガソリン小型貨物車に係るJC08モード燃費基準

区　分				燃費基準値
自動車の種別	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造	
軽貨物車	手　動　式	741kg未満	構造A	23.2km/L以上
		741kg以上		20.3km/L以上
	手動式以外のもの	741kg未満		20.9km/L以上
		741kg以上　856kg未満		19.6km/L以上
		856kg以上		18.9km/L以上
	手　動　式	741kg未満	構造B	18.2km/L以上
		741kg以上　856kg未満		18.0km/L以上
		856kg以上　971kg未満		17.2km/L以上
		971kg以上		16.4km/L以上
	手動式以外のもの	741kg未満		16.4km/L以上
		741kg以上　856kg未満		16.0km/L以上
		856kg以上　971kg未満		15.4km/L以上
		971kg以上		14.7km/L以上
軽量貨物車	手　動　式	1,081kg未満		18.5km/L以上
		1,081kg以上		17.1km/L以上
	手動式以外のもの	1,081kg未満		17.4km/L以上
		1,081kg以上1,196kg未満		15.8km/L以上
		1,196kg以上		14.7km/L以上
中量貨物車	手　動　式		構造A	14.2km/L以上

	手動式以外のもの	1,311kg未満	構造A	13.3km/L以上
		1,311kg以上		12.7km/L以上
	手　動　式	1,311kg未満	構造B1	11.9km/L以上
			構造B2	11.2km/L以上
		1,311kg以上1,421kg未満	構造B1	10.6km/L以上
			構造B2	10.2km/L以上
		1,421kg以上1,531kg未満	構造B1	10.3km/L以上
			構造B2	9.9km/L以上
		1,531kg以上1,651kg未満	構造B1	10.0km/L以上
			構造B2	9.7km/L以上
		1,651kg以上1,761kg未満	構造B1	9.8km/L以上
			構造B2	9.3km/L以上
		1,761kg以上	構造B1	9.7km/L以上
			構造B2	8.9km/L以上
	手動式以外のもの	1,311kg未満	構造B1	10.9km/L以上
			構造B2	10.5km/L以上
		1,311kg以上1,421kg未満	構造B1	9.8km/L以上
			構造B2	9.7km/L以上
		1,421kg以上1,531kg未満	構造B1	9.6km/L以上
			構造B2	8.9km/L以上
		1,531kg以上1,651kg未満	構造B1	9.4km/L以上
			構造B2	8.6km/L以上
		1,651kg以上	構造B2	7.9km/L以上
		1,651kg以上1,761kg未満	構造B1	9.1km/L以上
		1,761kg以上1,871kg未満		8.8km/L以上
		1,871kg以上		8.5km/L以上

備考）１　「構造A」とは、次に掲げる要件のいずれにも該当する構造をいう。以下同じ。

イ　最大積載量を車両総重量で除した値が0.3以下となるものであること。

ロ　乗車装置及び物品積載装置が同一の車室内に設けられており、当該車室と車体外とを固定された屋根、窓ガラス等の隔壁により仕切られるものであること。

ハ　運転者室の前方に原動機を有するものであること。

２　「構造B」とは、構造A以外の構造をいう。以下同じ。

３　「構造B1」とは、構造Bのうち備考１ロに掲げる要件に該当する構造をいう。以下同じ。

４　「構造B2」とは、構造Bのうち構造B1以外の構造をいう。以下同じ。

別表５　ディーゼル小型貨物車に係るJC08モード燃費基準

区　　分				燃費基準値
自動車の種別	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造	
軽貨物車	手　動　式	741kg未満	構造A	25.5km/L以上
		741kg以上		22.3km/L以上
	手動式以外のもの	741kg未満		23.0km/L以上
		741kg以上　856kg未満		21.6km/L以上
		856kg以上		20.8km/L以上

	手　動　式	741kg未満	構造B	20.0km/L以上
		741kg以上　856kg未満		19.8km/L以上
		856kg以上　971kg未満		18.9km/L以上
		971kg以上		18.0km/L以上
	手動式以外のもの	741kg未満		18.0km/L以上
		741kg以上　856kg未満		17.6km/L以上
		856kg以上　971kg未満		16.9km/L以上
		971kg以上		16.2km/L以上
軽量貨物車	手　動　式	1,081kg未満		20.4km/L以上
		1,081kg以上		18.8km/L以上
	手動式以外のもの	1,081kg未満		19.1km/L以上
		1,081kg以上1,196kg未満		17.4km/L以上
		1,196kg以上		16.2km/L以上
中量貨物車	手　動　式	1,421kg未満	構造A又は構造B1	14.5km/L以上
			構造B2	14.3km/L以上
		1,421kg以上1,531kg未満	構造A又は構造B1	14.1km/L以上
			構造B2	12.9km/L以上
		1,531kg以上1,651kg未満	構造A又は構造B1	13.8km/L以上
			構造B2	12.6km/L以上
		1,651kg以上1,761kg未満	構造A又は構造B1	13.6km/L以上
			構造B2	12.4km/L以上
		1,761kg以上1,871kg未満	構造A又は構造B1	13.3km/L以上
			構造B2	12.0km/L以上
		1,871kg以上1,991kg未満	構造A又は構造B1	12.8km/L以上
			構造B2	11.3km/L以上
		1,991kg以上2,101kg未満	構造A又は構造B1	12.3km/L以上
			構造B2	11.2km/L以上
		2,101kg以上	構造A又は構造B1	11.7km/L以上
			構造B2	11.1km/L以上
	手動式以外のもの	1,421kg未満	構造A又は構造B1	13.1km/L以上
			構造B2	12.5km/L以上
		1,421kg以上1,531kg未満	構造A又は構造B1	12.8km/L以上
			構造B2	11.8km/L以上
		1,531kg以上1,651kg未満	構造A又は構造B1	11.5km/L以上
			構造B2	10.9km/L以上
		1,651kg以上1,761kg未満	構造A又は構造B1	11.3km/L以上
			構造B2	10.6km/L以上
		1,761kg以上1,871kg未満	構造A又は構造B1	11.0km/L以上
			構造B2	9.7km/L以上
		1,871kg以上1,991kg未満	構造A又は構造B1	10.8km/L以上
			構造B2	9.5km/L以上
		1,991kg以上2,101kg未満	構造A又は構造B1	10.3km/L以上
			構造B2	9.0km/L以上
		2,101kg以上	構造A又は構造B1	9.4km/L以上
			構造B2	8.8km/L以上

別表６　路線バス、一般バス（車両総重量3.5t超）に係る重量車モード燃費基準

区　　分	燃費基準値	
	路線バス	一般バス
車両総重量が3.5t超 6t以下	6.97km/L以上	9.04km/L以上
車両総重量が　6t超 8t以下		6.52km/L以上
車両総重量が　8t超10t以下	6.30km/L以上	6.37km/L以上
車両総重量が 10t超12t以下	5.77km/L以上	5.70km/L以上
車両総重量が 12t超14t以下	5.14km/L以上	5.21km/L以上
車両総重量が 14t超16t以下	4.23km/L以上	4.06km/L以上
車両総重量が 16t超		3.57km/L以上

備考）　１　「路線バス」とは、乗車定員 11 人以上かつ車両総重量 3.5t 超の乗用自動車であって、高速自動車国道等に係る路線以外の路線を定めて定期に運行する旅客自動車運送事業用自動車をいう。

２　「一般バス」とは、乗車定員 11 人以上かる車両総重量 3.5t 超の乗用自動車であって、路線バス以外の自動車をいう。

別表７　トラック等（車両総重量3.5t超）に係る重量車モード燃費基準

区　　分	最大積載量	燃費基準値
車両総重量が3.5t超7.5t以下	最大積載量が1.5t以下	10.83km/L以上
	最大積載量が1.5t超2t以下	10.35km/L以上
	最大積載量が　2t超3t以下	9.51km/L以上
	最大積載量が　3t超	8.12km/L以上
車両総重量が7.5t超　8t以下		7.24km/L以上
車両総重量が　8t超 10t以下		6.52km/L以上
車両総重量が 10t超 12t以下		6.00km/L以上
車両総重量が 12t超 14t以下		5.69km/L以上
車両総重量が 14t超 16t以下		4.97km/L以上
車両総重量が 16t超 20t以下		4.15km/L以上
車両総重量が 20t超		4.04km/L以上

別表８　トラクタ（車両総重量3.5t超のけん引自動車）に係る重量車モード燃費基準

区　　分	燃費基準値
車両総重量が20t以下のトラクタ	3.09km/L以上
車両総重量が20t超のトラクタ	2.01km/L以上

別表９　LPガス乗用車に係る10・15モード燃費基準

区　　分	燃費基準値
車両重量が　703kg未満	15.9km/L以上
車両重量が　703kg以上　828kg未満	14.1km/L以上

車両重量が　828kg以上1,016kg未満	13.5km/L以上
車両重量が1,016kg以上1,266kg未満	12.0km/L以上
車両重量が1,266kg以上1,516kg未満	9.8km/L以上
車両重量が1,516kg以上1,766kg未満	7.9km/L以上
車両重量が1,766kg以上2,016kg未満	6.7km/L以上
車両重量が2,016kg以上2,266kg未満	5.9km/L以上
車両重量が2,266kg以上	4.8km/L以上

別表10　LPガス小型貨物車に係る10・15モード燃費基準

区　　分				燃費基準値
自動車の種別	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造	
軽貨物車	手　動　式	703kg未満	構造A	15.8km/L以上
			構造B	13.3km/L以上
		703kg以上　828kg未満	構造A	14.1km/L以上
			構造B	13.1km/L以上
		828kg以上		12.1km/L以上
	手動式以外のもの	703kg未満	構造A	14.8km/L以上
			構造B	12.7km/L以上
		703kg以上　828kg未満	構造A	12.9km/L以上
			構造B	12.1km/L以上
		828kg以上		11.7km/L以上
軽量貨物車	手　動　式	1,016kg未満		13.9km/L以上
		1,016kg以上		12.3km/L以上
	手動式以外のもの	1,016kg未満		11.7km/L以上
		1,016kg以上		10.8km/L以上
中量貨物車（車両総重量が2.5t以下のものに限る）	手　動　式	1,266kg未満	構造A	11.3km/L以上
			構造B	9.6km/L以上
		1,266kg以上1,516kg未満		8.4km/L以上
		1,516kg以上		7.3km/L以上
	手動式以外のもの	1,266kg未満	構造A	9.8km/L以上
			構造B	8.8km/L以上
		1,266kg以上		8.1km/L以上

１１－２　ＩＴＳ対応車載器

品目	判断の基準等
ＥＴＣ対応車載器	【判断の基準】 ○　ノンストップ自動料金支払いシステム（ETC）に対応し、自動車に取り付け、有料道路の料金所に設置されたアンテナとの間で無線通信により車両や通行料金等に関する情報のやり取りを行う装置であること。
カーナビゲーションシステム	【判断の基準】 ○　走行中の自動車の運転者に対して、次に示す情報を、車載の画面に表示あるいは音声により案内して、知らせる機能が搭載されていること。 ①走行中の自動車の現在位置・進行方向 ②周辺の道路交通状況に関する現在情報

１１－３ タイヤ

(1) 品目及び判断の基準等

品目	判断の基準等
乗用車用タイヤ（※） ※ 市販用のタイヤ（スタッドレスタイヤを除く。）であって、自動車の購入時に装着されているタイヤを規定するものではない。	【判断の基準】 ① 転がり抵抗係数（※）が9.0以下であること。（備考１） ② スパイクタイヤでないこと。（備考２） ※ 「転がり抵抗係数」の試験方法は、JIS D 4234による。 【配慮事項】 ① 製品の長寿命化に配慮されていること。 ② 走行時の静粛性の確保に配慮されていること。 ③ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ④ 包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考） １ 判断の基準①については、EU 規則「Wet Grip グレーディング試験法（案）」により測定されたウェットグリップ性能が 110 以上であるタイヤとする。

２ 判断の基準②は、スパイクタイヤ粉じんの発生を防止し、もって国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するという「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」（平成２年法律第 55 号）の趣旨を踏まえたものである。

１１－４ エンジン油〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
２サイクルエンジン油	【判断の基準】 ①　生分解度（備考１）が28日以内で60%以上であること。 ②　魚類による急性毒性試験（備考２）の96時間LC_{50}値が100mg/l以上であること。 【配慮事項】 ①　製品の容器の ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ③　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）１　生分解度の試験方法は、次のいずれかの方法とする。ただし、これらの試験方法については、10-d window を適用しない。

※OECD（経済協力開発機構）化学品テストガイドライン

・301B（CO_2 発生試験）

・301C（修正 MITI（Ⅰ）試験）

・301F（Manometric Respirometry 試験）

※ASTM（アメリカ材料試験協会）

・D5864（潤滑油及び潤滑油成分の水環境中の好気的生分解度を決定する標準試験法）

・D6731（密閉 respirometer 中の潤滑油、又は潤滑油成分の水環境中の好気的生分解度を決定する標準試験法）

２　魚類の急性毒性試験方法は、次のいずれかの方法とする。

※JIS（日本工業規格）

・K 0102（工場排水試験方法）

・K 0420-71 シリーズ（10、20、30）

（水質-淡水魚［ゼブラフィッシュ（真骨類，コイ科）］に対する化学物質の急性毒性の測定-第１部：止水法、第２部：半止水法、第３部：流水法）

※OECD（経済協力開発機構）

・203（魚類急性毒性試験）

なお、難水溶性の製品は、ASTM D6081（水環境中における潤滑油の毒性試験のための標準実施法：サンプル準備及び結果解釈）の方法などを参考に調製された WAF（水適応性画分）や WSF（水溶解性画分）を試料として使ってもよい。この場合、96 時間 LL_{50} 値が 100mg/l 以上であること。

１２．消火器〔目標：設定せず〕〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
消火器（※）	【判断の基準】 ①　消火薬剤に、再生材料が重量比で40%以上使用されていること。 ※　本項の判断基準（グリーン購入）の対象とする「消火器」は、粉末（ABC）消火器（「消火器の技術上の規格を定める省令（昭和39年9月17日自治省令第27号）」による粉末消火器であって、A火災、B火災及び電気火災の全てに適用するものをいい、エアゾール式簡易消火具、船舶用消火器、航空用消火器は含まない。）とし、点検の際の消火薬剤の詰め替えも含むものとする。 ②　製品の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあり（備考１）、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ②　プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考２）が可能な限り使用されていること。 ③　使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）１　「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収システム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に廃消火器を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

２　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

１３．制服・作業服〔目標：95%〕〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
制服 作業服	【判断の基準】 ①　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次いずれかの要件を満たすこと。 ア．再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、裏生地を除く繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、裏生地を除く繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、裏生地を除くポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 イ．再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．植物を原料とする生分解性（備考４）の合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考５）が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 イ．植物を原料とする非生分解性の合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものが、繊維部分全体重量比で25%以上使用されていること ウ．植物を原料とする非生分解性の合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものが、繊維部分全体重量比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル又は植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考５）以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考６）又は反毛繊維（備考７）が使用されていること。 ③　製品の梱包又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達後の留意事項 クリーニング等を行う際には、次の事項に十分留意すること。 ア．クリーニングに係る判断の基準（クリーニング参照）を満たす事業者を選択すること。 イ．JIS L 0217（繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法）に基づく表示を十分確認すること。

帽子	【判断の基準】 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 ②　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用若しくはリサイクルされるためのシステムがあること。（備考３） 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　再生 PET 樹脂（備考１）から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考６）又は反毛繊維（備考７）が使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達後の留意事項 クリーニング等を行う際には、次の事項に十分留意すること。 ア．クリーニングに係る判断の基準（クリーニング参照）を満たす事業者を選択すること。 イ．JIS L 0217（繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法）に基づく表示を十分確認すること。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量からボタン、ファスナ、ホック、縫糸等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））、植物を原料とする合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものを使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維若しくは植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものの重量」に含めてよい。

３　「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

４　「生分解性」とは、生分解性試験（OECD 301C、JIS K 6950、JIS K 6951、JIS K 6953、JIS K 6955 等。試験期間は各試験法が定める期間）において 60%以上の生分解度を示す性能をいう。また、「非生分解性」とは生分解性でない性能をいう。

５　「環境負荷低減効果が確認された合成繊維」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

６　「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

７　「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

１４．インテリア・寝装寝具〔目標：可能な限り優先的に調達する〕

１４－１　カーテン等〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
カーテン 布製ブラインド	【判断の基準】 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 ②　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用若しくはリサイクルされるためのシステムがあること。（備考３） ③　植物を原料とする非生分解性（備考４）の合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考５）が、繊維部分全体重量比で25%以上使用されていること。 ④　植物を原料とする非生分解性の合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものが、繊維部分全体重量比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 【配慮事項】 ①　臭素系防炎剤の使用が可能な限り削減されていること。 ②　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ③　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考６）又は反毛繊維（備考７）が使用されていること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達後の留意事項 クリーニング等を行う際には、クリーニングに係る判断の基準（クリーニング参照）を満たす事業者を選択するよう十分留意すること。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量からフック、ランナー、ブラケット、縫糸等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））、植物を原料とする合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものを使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものの重量」に含めてよい。

３　「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

４　「生分解性」とは、生分解性試験（OECD 301C、JIS K 6950、JIS K 6951、JIS K 6953、JIS K 6955 等。試験期間は各試験法が定める期間）において 60%以上の生分解度を示す性能をいう。また、「非生分解性」とは生分解性でない性能をいう。

５　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

６　「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

７　「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

１４－２ カーペット〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
タフテッドカーペット タイルカーペット 織じゅうたん	【判断の基準】 ○　未利用繊維（備考１）、リサイクル繊維（備考２）、再生プラスチック（備考３）及びその他の再生材料（備考４）の合計重量が製品全体重量比（備考５）で25%以上使用されていること。 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考６） ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。
ニードルパンチカーペット	【判断の基準】 ○次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　未利用繊維（備考１）、リサイクル繊維（備考２）、再生プラスチック（備考３）及びその他の再生材料（備考４）の合計重量が製品全体重量比（備考５）で25%以上使用されていること。 ②　植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．植物を原料とする生分解性（備考７）の合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考８）が製品全体重量比（備考５）で25%以上使用されていること。 イ．植物を原料とする非生分解性の合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものが、製品全体重量比で25%以上使用されていること。 ウ．植物を原料とする非生分解性の合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものが、製品全体重量比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考６） ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）１　「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

２　「リサイクル繊維」とは、反毛繊維等使用された後に廃棄された製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生する端材若しくは不良品を再生利用した繊維をいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

３　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

４　「再生材料」とは、使用された後に廃棄された製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生する端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

５　「製品全体重量」とは、繊維部分重量に樹脂部分及び無機質等を加えた製品全体の重量をいう。

６　「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア. 製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ. 回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ. 回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ. 回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

7 「生分解性」とは、生分解性試験（OECD 301C、JIS K 6950、JIS K 6951、JIS K 6953、JIS K 6955 等。試験期間は各試験法が定める期間）において 60%以上の生分解度を示す性能をいう。また、「非生分解性」とは生分解性でない性能をいう。

8 「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

１４－３ 毛布等〔エコマーク商品〕

<table>
<tr><th>品目</th><th>判断の基準等</th></tr>
<tr><td>毛布</td><td>【判断の基準】
○ 使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。
① 再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。
② 再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３）

【配慮事項】
① 製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。
② 再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考４）又は反毛繊維（備考５）が使用されていること。
③ 製品の放送又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。
※ 調達後の留意事項
クリーニング等を行う際には、クリーニングに係る判断の基準（クリーニング参照）を満たす事業者を選択するよう十分留意すること。</td></tr>
<tr><td>ふとん</td><td>【判断の基準】
○ 次のいずれかの要件を満たすこと。
① ふとん側地又は詰物に使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。
ア．再生 PET 樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、ふとん側地又は詰物の繊維部分全体重量（備考２）比で 25%以上使用されていること。ただし、ふとん側地又は詰物の繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が 50%未満の場合は、再生 PET 樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、ふとん側地又は詰物の繊維部分全体重量（備考２）比で 10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で 50%以上使用されていること。
イ．再生 PET 樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、ふとん側地又は詰物の繊維部分全体重量（備考２）比で 10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３）
② 使用済ふとんの詰物（※）を適正に洗浄、殺菌等の処理を行い、再使用した詰物が詰物の全体重量比で 80%以上使用されていること。
※ 「詰物」とは、綿、羊毛、羽毛、合成繊維等のふとんに充てんされているものをいう。</td></tr>
</table>

	【配慮事項】 ① 製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ② 再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考４）又は反毛繊維（備考５）が使用されていること。 ③ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※ 調達後の留意事項 クリーニング等を行う際には、クリーニングに係る判断の基準（クリーニング参照）を満たす事業者を選択するよう十分留意すること。

備考）１ 「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２ 「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量からボタン、ファスナ、ホック、縫糸等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））を使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維の重量」に含めてよい。

３ 「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

４ 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

５ 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

１４－４ ベッド〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
ベッドフレーム	【判断の基準】（※１、２） ※１　医療用､介護用及び高度医療に用いるもの等特殊な用途のものについては、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ベッドフレーム」に含まれないものとする。 ※２　ベッドフレームに係る判断の基準は、金属以外の主要材料としてプラスチック、木質又は紙を使用している場合について定めたものであり、金属が主要材料であって、プラスチック、木質又は紙を使用していないものは、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする品目に含まれないものとする。 ○　金属を除く主要材料が、プラスチックの場合は①、木質の場合は②、紙の場合は③の要件を満たすこと。また、主要材料以外の材料に木質が含まれる場合は②ア、紙が含まれる場合は③イの要件をそれぞれ満たすこと。 ①　プラスチックの場合（主要材料以外の材料に木質が含まれる場合は②ア、紙が含まれる場合は③イの要件をそれぞれ満たすこと。） 再生プラスチック（備考１）がプラスチック重量の10%以上使用されていること。 ②　木質の場合は、次の要件を満たすこと。（主要材料以外の材料に紙が含まれる場合は③イの要件を満たすこと。） ア．間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源であること、又は、原料の原木は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） イ．材料からのホルムアルデヒドの放散速度が、0.02mg/㎡ｈ以下又はこれと同等のもの（備考２）であること。 ③　紙の場合は、次の要件を満たすこと。（主要材料以外の材料に木質が含まれる場合は②アの要件を満たすこと。） ア．紙の原料は古紙パルプ配合率 50%以上であること。 イ．紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、バージンパルプの原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） 【配慮事項】 ①　修理及び部品交換が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等部品の再使用若しくは材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 ②　材料に木質が含まれる場合にあっては、原料として使用される原木（間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。）は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。（巻末「参考」を参照） ③　材料に紙が含まれる場合でバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料の原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑤　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。
マットレス	【判断の基準】（※） ※　高度医療に用いるもの（手術台、ICUベッド等）については、本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「マットレス」に含まれないものとする。 ①　詰物に使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（備考３）

	から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考４）比で25%以上使用されていること。 イ．植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考５）が、繊維部分全体重量比で25%以上使用されていること。 ②　フェルト（備考６）に使用される繊維は全て未利用繊維（備考７）又は反毛繊維（備考８）であること。 ③　材料からの遊離ホルムアルデヒドの放出量は75ppm以下であること。 ④　ウレタンフォームの発泡剤にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと、及びハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと。 【配慮事項】 ①　修理が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）1　「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

2　放散速度が0.02mg/㎡h以下と同等のものとは、次によるものとする。

ア．対応した日本工業規格又は日本農林規格があり、当該規格にホルムアルデヒドの放散量の基準が規定されている木質材料については、F☆☆☆の基準を満たしたもの。JIS S 1102に適合する住宅用普通ベッドは、本基準を満たす。

イ．上記 ア．以外の木質材料については、JIS A1460 の規定する方法等により測定した数値が次の数値以下であるもの。

平均値	最大値
0.5mg/L	0.7mg/L

3　「再生PET樹脂」とは、PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

4　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量からボタン、ファスナ、ホック、縫糸等の付属品の重量を除いたものをいう。
　なお、再生プラスチック、植物を原料とする合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものを使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生PET 樹脂から得られるポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものの重量」に含めてよい。

5　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

6　「フェルト」とは、綿状にした繊維材料をニードルパンチ加工によりシート状に成形したものをいう（ただし、熱可塑性素材又は接着剤による結合方法を併用したものを除く。）。

7　「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

8　「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

9　ベッドフレーム及びマットレスを一体としてベッドを調達する場合については、それぞれの部分が上記の基準を満たすこと。

１５．作業手袋〔目標：95%〕〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
作業手袋	【判断の基準】 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。 ②　ポストコンシューマ材料（※）からなる繊維が、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。 ※　製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品をいう。 【配慮事項】 ①　未利用繊維（備考２）又は反毛繊維（備考３）が可能な限り使用されていること（すべり止め塗布加工部分を除く。）。 ②　漂白剤を使用していないこと。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

３　「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

１６．その他繊維製品〔目標：可能な限り優先的に調達する〕

１６－１　テント・シート類〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
集会用テント	【判断の基準】 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 ②　再生 PET 樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で 10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。
ブルーシート	【判断の基準】 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエチレン繊維を使用した製品については、再生ポリエチレン（備考４）繊維が繊維部分全体重量（備考２）比で 50%以上使用されていること。 【配慮事項】 ○　製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量からポール、ファスナ、金属部品等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））を使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維の重量」に含めてよい。

３　「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供さ

れていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

4　「再生ポリエチレン」とは、使用された後に廃棄されたポリエチレン製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するポリエチレン端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

１６－２ 防球ネット〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
防球ネット	【判断の基準】 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維、ポリエチレン繊維、又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、次の要件を満たすこと。 ①　ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 イ．再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　ポリエチレン繊維を使用した製品については、再生ポリエチレン（備考４）繊維が繊維部分全体重量（備考２）比で50%以上使用されていること。 ③　植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考５）が繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量から金属部品等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））、植物を原料とする合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものを使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維若しくは植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものの重量」に含めてよい。

３　「回収及び再使用若しくはリサイクルされるためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用若しくはリサイクルのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ. 回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ. 回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

４　「再生ポリエチレン」とは、使用された後に廃棄されたポリエチレン製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するポリエチレン端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

５　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

１６－３ 旗・のぼり・幕類〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
旗 のぼり 幕（※） ※本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「幕」とは、横断幕又は懸垂幕をいう。	【判断の基準】 ①　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 イ．再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考４）が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。 【配慮事項】 ①　臭素系防炎剤の使用が可能な限り削減されていること。 ②　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量から棹、金属部品等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））、植物を原料とする合成繊維又はプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたものを使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維若しくは植物を原料とする合成繊維であって環境負荷低減効果が確認されたものの重量」に含めてよい。

３　「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

４　「環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

１６－４ モップ〔エコマーク商品〕

品目	判断の基準等
モップ	【判断の基準】 ○次のいずれかの要件を満たすこと。 ① 未利用繊維（備考１）、リサイクル繊維（備考２）及びその他の再生材料の合計重量が繊維部分全体重量（備考３）比で25%以上使用されていること。 ② 未利用繊維（備考１）、リサイクル繊維（備考２）及びその他の再生材料の合計重量が繊維部分全体重量（備考３）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用若しくはリサイクルされるためのシステムがあること。（備考４） 【配慮事項】 ① 製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考４） ② 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考） １ 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

２ 「リサイクル繊維」とは、反毛繊維等使用された後に廃棄された製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生する端材若しくは不良品を再生利用した繊維をいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

３ 「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量から柄、取っ手、金属部品等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（※）を使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「未利用繊維、リサイクル繊維及びその他の再生材料の合計重量」に含めてよい。

※ 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

４ 「回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのいずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用又は再生利用のためのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

１７．設備〔目標：可能な限り優先的に調達する〕〔エコマーク商品（節水機器のみ）〕

品目	判断の基準等
太陽光発電システム（公共・産業用） （※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「太陽光発電システム」は、商用電源の代替として、10kW 以上の太陽電池モジュールを使用した太陽光発電による電源供給ができる公共・産業用のシステムをいう。	【判断の基準】 ①　太陽電池モジュールのセル実効変換効率（備考１）が表に示された区分ごとの基準変換効率を下回らないこと。 ②　太陽電池モジュール及び周辺機器について、別表１に示された項目について、情報が開示され容易に確認できること。 ③　発電電力量等が確認できるものであること。 ④　太陽電池モジュールの出力については、公称最大出力の80%以上を最低10年間維持できるように設計・製造されていること。 ⑤　パワーコンディショナについては、定格負荷効率及び2分の1負荷時の部分負荷効率（備考２）について、出荷時の効率の90%以上を5年以上の使用期間にわたり維持できるように設計・製造されていること。 ⑥　太陽電池モジュールについては、エネルギーペイバックタイムが3年以内であること。 【配慮事項】 ①　修理及び部品交換が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等部品の再使用または材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 ②　来庁者の多い施設等に設置するものにあっては、可能な限り発電電力量等を表示するなど、来庁者に対して効果の説明が可能となるよう考慮したシステムであること。 ③　特定の化学物質を含有する二次電池が使用される場合には、二次電池の回収及びリサイクルシステムがあること。 ④　太陽電池モジュールの外枠・フレーム・架台等にアルミニウム合金を使用する製品では、アルミニウム二次地金（再生地金）を原材料の一部として使用している合金を用いること。 ⑤　鉛はんだを使用していないこと。 ※　調達時、調達後の留意事項 ア．発電量又は集熱量の適正な把握・管理のため、物品の調達時に確認した別表１の設置報告項目の情報を、当該設備を廃棄するまで管理・保管すること。 イ．調達にあたっては、発電又は集熱にかかる機器の設置条件・方法を十分勘案し、設置に当たっては架台の部分が過剰に大きくなることを避けること。 ウ．太陽光発電システムの導入にあたっては、太陽電池の特性を十分勘案した上で設置条件・方法を検討すること。なお、薄膜系太陽電池にあっては、設置事業者側に適切な設計体制が整っていること等、環境負荷低減効果を十分確認すること。 オ．調達にあたっては、設置事業者に設置要領の詳細の提出を求め、その内容を確認するとともに、当該設備の維持・管理に必要となる情報（製造事業者が有する情報を含む。）　を、設置事業者を通じ把握すること。
太陽熱利用システム（公共・産業用） （※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象と	【判断の基準】 ①　集熱媒体平均温度から気温を差し引いた値が10Kである時、集熱器の集熱効率（備考３）が40%以上であること。 ②　集熱器及び周辺機器について、別表２に示された項目が、ウエブサイト等で容易に確認できること。

する「太陽熱利用システム」は、給湯又は冷暖房用の熱エネルギーとして、太陽エネルギーを利用した公共・産業用のシステムをいう。	【配慮事項】 ① 修理及び部品交換が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等部品の再使用または材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 ② 集熱器の稼働に係るエネルギーが最小限となるような設計がなされていること。 ③ 外枠・フレーム・架台等にアルミニウム合金を使用する製品では、アルミニウム二次地金（再生地金）を原材料の一部として使用している合金を用いること。 ④ 鉛はんだを使用していないこと。 ※ 調達時、調達後の留意事項 ア．発電量又は集熱量の適正な把握・管理のため、物品の調達時に確認した別表１又は２の設置報告項目の情報を、当該設備を廃棄するまで管理・保管すること。 イ．調達にあたっては、発電又は集熱にかかる機器の設置条件・方法を十分勘案し、設置に当たっては架台の部分が過剰に大きくなることを避けること。 ウ．太陽光発電システムの導入にあたっては、太陽電池の特性を十分勘案した上で設置条件・方法を検討すること。なお、薄膜系太陽電池にあっては、設置事業者側に適切な設計体制が整っていること等、環境負荷低減効果を十分確認すること。 エ．太陽熱利用システムの導入にあたっては、現在の使用熱エネルギー量を十分考慮した設計を行うこと。 オ．調達にあたっては、設置事業者に設置要領の詳細の提出を求め、その内容を確認するとともに、当該設備の維持・管理に必要となる情報（製造事業者が有する情報を含む。） を、設置事業者を通じ把握すること。

備考）１ 「太陽電池モジュールのセル実効変換効率」とは、JIS C 8960 において定められた実効変換効率を基に、モジュール化後のセル実効変換効率をいい、次式により算出する。

セル実効変換効率＝モジュールの公称最大出力／（太陽電池セルの合計面積×放射照度）

太陽電池セルの合計面積＝1 セルの全面積×1 モジュールのセル数

放射照度＝1000W/㎡

1 セルの全面積には、セル内の非発電部を含む。ただし、シリコン薄膜系、化合物系のセル全面積には集積部を含まない。

２ 「定格負荷効率」「部分負荷効率」は JIS C 8961 に準拠して算出するものとする。

３ 「集熱効率」は JIS A 4112 に準拠して算出するものとする。

４ 太陽電池モジュールの適格性確認試験及び形式認証については JIS C 8990 又は JIS C 8991 に準拠するものとする。

表 太陽電池モジュールのセル実効変換効率に係る基準

区 分	基準変換効率
シリコン単結晶系太陽電池	16.0%
シリコン多結晶系太陽電池	15.0%
シリコン薄膜系太陽電池	8.5%
化合物系太陽電池	12.0%

別表１

太陽光発電装置機器に係る情報開示項目

区分	項目	確認事項
太陽電池モジュール	発電電力量の推定方法の提示（基準状態）	JIS C 8904-2 で規定された基準状態で測定した年間の推定発電電力量
		算定条件（用いた日射量データ、太陽電池及びパワーコンディショナの損失等）
	基準状態での発電電力量が得られない条件及び要因	影の影響、日射条件（モジュールへの影のかかり方や日射条件と発電量の下がり方の対応について、具体的に記載）
		温度の影響（モジュールの温度と発電量の下がり方の対応について具体的に記載）
		気候条件、地理条件（気候条件や地理条件と発電量の対応について具体的に記載）
		その他（配線、受光面の汚れによる損失等、具体的に記載）
周辺機器	パワーコンディショナ	形式、定格容量、出力電気方式、周波数、系統連結方式等
	接続箱	形式　等
	連系保護装置	可能となる設置方法
	二次電池	使用の有無、（有の場合）回収・リサイクル方法
保守点検・修理の要件	保守点検	範囲、内容
	修理	範囲、内容
モジュール及び周辺機器	廃棄	廃棄方法、廃棄時の注意事項　等
	保証体制	保証履行期限　等

別表２

太陽熱利用装置機器に係る情報開示項目

区分	項目	確認事項
集熱器	集熱量の推定方法の提示	年間の推定集熱量
		算定条件（用いた日射量データ、集熱器及び蓄熱槽の損失等）
	瞬時瞬間効率 40%が得られない条件及び要因	影の影響、日射条件（集熱器への影のかかり方や日射条件と集熱効率の下がり方の対応について、具体的に記載）
		温度の影響（集熱器の温度と集熱効率の下がり方の対応について具体的に記載）
		気候条件、地理条件（気候条件や地理条件と集熱効率の対応について具体的に記載）
		その他（配管や配線、受光面の汚れによる損失等、具体的に記載）
集熱器及び周辺機器	廃棄	廃棄方法、廃棄時の注意事項　等
	保守点検	保守点検の条件（点検の頻度等）　等
	保証体制	保証条件（修理・交換の対応範囲、内容）、保証履行期限　等

燃料電池	【判断の基準】 ○　商用電源の代替として、燃料中の水素及び空気中の酸素を結合させ、電気エネルギー又は熱エネルギーを取り出すものであること。 【配慮事項】 ○　分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。
生ゴミ処理機	【判断の基準】 ○　バイオ式又は乾燥式等の処理方法により生ゴミの減容及び減量等を行う機器であること。 【配慮事項】 ①　分解が容易である等材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 ②　使用時のエネルギー節減のための設計上の工夫がなされていること。 ③　処理後の生成物は、肥料化、飼料化又はエネルギー化等により再生利用されるものであること。
節水機器	【判断の基準】 ＜共通事項＞ ○　電気を使用しないこと。 ＜個別事項＞ ①　節水コマ（※１、２）にあっては、次の要件を満たすこと。 ア．ハンドルを 120°に開いた場合に、普通コマを組み込んだ場合に比べ 20%を超え 70%以下の吐水流量（※３）であること。 イ．ハンドルを全開にした場合に、普通コマを組み込んだ場合に比べ 70%以上の吐水流量であること。 ②　定流量弁（※４、５）にあっては、水圧0.1MPa以上、0.7MPa以下の各水圧において、ハンドル開度全開の場合、適正吐水流量は5～8リットル/分であること。 ③　泡沫キャップ（※６）にあっては、次の要件を満たすこと。 ア．水圧 0.1MPa 以上、0.7MPa 以下の各水圧において、ハンドル（レバー）開度全開の場合、適正吐水流量が、泡沫キャップなしの同型水栓の 80%以下であること。 イ．水圧 0.1MPa、ハンドル（レバー）全開において 5 リットル/分以上の吐水流量であること。 ※１　「節水コマ」とは、給水栓において、節水を目的として製作したコマをいう。なお、普通コマを組み込んだ給水栓に比べ、節水コマを組み込んだ水栓は、ハンドル開度が同じ場合、吐水量が大幅に減ずる。固定式を含む。 ※２　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「節水コマ」は、呼び径 13mm の水用単水栓に使用されるものであって、弁座パッキン固定用ナットなどを特殊な形状にするなどして、該当品に取り替えるだけで節水が図れるコマとする。 ※３　節水コマの吐水流量の試験方法は、JIS B 2061（給水栓）の吐水流量試験に準ずるものとする。また、JIS B 2061 で規定される「節水コマ機能を有した給水栓」に適合する節水機器は、判断の基準＜個別事項＞①を満たす。

	※４　「定流量弁」とは、弁の入口側又は出口側の圧力変化にかかわらず、常に流量を一定に保持する調整弁をいう。なお、一般に流量設定が可変のものは流量調整弁、流量設定が固定式のものを定流量弁という。 ※５　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「定流量弁」は、手洗い、洗顔又は食器洗浄に用いるものであって、次の要件を満たすものとする。 ア．ある吐水量より多く吐水されないよう、該当品に取り替えるだけで節水が図れる弁であること。 イ．設置箇所以降で分岐を行わないこと。分岐の後に定流量弁を取り付けること。また、定流量弁１個は、水栓１個に対応すること。 ウ．水量的に用途に応じた設置ができるよう、用途ごとの設置条件が説明書に明記されていること。 ※６　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「泡沫キャップ」は、水流にエアーを混入することにより、節水が図れるキャップとする。 【配慮事項】 ①　取替用のコマにあっては、既存の水栓のコマとの取替が容易に行えること。 ②　使用用途における従前どおりの使用感であること。 ③　吐水口装着型にあっては、単一個装置で多様な吐水口に対応できること。
日射調整フィルム（※） ※　建築物の窓ガラスに貼付するフィルムであって、室内の冷房効果を高めるために日射遮蔽の機能を持ったフィルム）	【判断の基準】 ①　次のア又はイのいずれかの要件を満たすこと。（備考１） ア．遮蔽係数は 0.7 未満、かつ、可視光線透過率は 10%以上であること。 イ．遮蔽係数は 0.8 未満、かつ、可視光線透過率は 70%以上であること。 ②　熱貫流率 5.9W/(㎡･K)未満であること。（備考１） ③　日射調整性能について、適切な耐候性が確認（備考２）されていること。 ④　貼付前と貼付後を比較して環境負荷低減効果が確認されていること。（※） ※　輻射熱を考慮した熱負荷計算システムにおけるシミュレーションで、冷房負荷低減効果が確認されていることをいう。 ⑤　上記①から④について、ウエブサイト等により容易に確認できること、又は第三者により客観的な立場から審査されていること。 ⑥　フィルムの貼付について、適切な施工に関する情報開示がなされていること。 ※　調達時の留意事項 １　ガラスの熱割れ等を考慮し、「建築フィルム１・２級技能士」の技術資格を有する若しくはこれと同等と認められる技能を有する者による施工について検討を行うこと。 ２　電波遮蔽性能を有するものを貼付する場合は、電波遮蔽による影響について考慮すること。 ３　著しい光の反射が懸念される場所において施工する場合には、周辺の建物等への影響について確認を行うこと。 ４　室内の冷房効果を高めることが主たる目的である場合は判断の基準①アを満たすフィルムを、照明効果及び採光性を考慮する場合は判断の基準①イを満たすフィルムを検討すること。

備考）１　遮蔽係数、可視光線透過率、熱貫流率の計測方法は、JIS A 5759 による。

２　日射調整性能の「耐候性」の確認とは、JIS A 5759 に規定された耐候性試験において 1,000 時間の試験を実施し、遮蔽係数の変化が判断の基準①ア及びイに示されたものから±0.10 の範囲であること。

１８ 災害備蓄用品〔目標：可能な限り優先的に調達する〕

１８－１ 災害備蓄用品（飲料水）

品目	判断の基準等
ペットボトル飲料水 （※） ※ 本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ペットボトル飲料水」は、災害用に長期保管する目的で調達するものとする。	【判断の基準】（※） ※ 個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ① 賞味期限が5年以上であること。 ② 製品及び梱包用外箱に名称、原材料名（備考１）、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。 【配慮事項】 ① 回収・再生利用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。 ② 容器（ボトル）については、可能な限り軽量化・薄肉化が図られていること。 ③ 使用するボトル、ラベル・印刷、キャップ等（備考２）については、使用後の再処理、再利用適性に優れた容器とするための環境配慮設計がなされていること。 ※ 調達時の留意事項 １ ペットボトル飲料水の調達にあたり、流通備蓄や災害発生時に自動販売機内の商品を無償提供できる「フリーベンド」機能を持った災害対策用自動販売機の利用を勘案すること。 ２ 災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。 ３ 納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

備考） １ 原材料名については、梱包用外箱には適用しない。

２ 使用するボトル、ラベル・印刷、キャップ等の環境配慮設計については、PET ボトルリサイクル推進協議会作成の「指定 PET ボトルの自主設計ガイドライン」を参考とすること。

１８－２ 災害備蓄用品（食料）

品目	判断の基準等
缶詰（※） アルファ化米（※） 保存パン（※） 乾パン（※） ※ 本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「缶詰」「アルファ化米」及び「乾パン」は、災害備蓄用品として調達するものに限る。	【判断の基準】（※） ※ 個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ① 賞味期限が5年以上であること。（※１、※２） ※１ 「缶詰」の判断の基準①については、基準を満たす製品が市場に十分供給されるまでの期間は、賞味期限3年以上であることをもって特定調達物品等とみなすこととする。なお、当該期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。 ※２ 「アルファ化米」及び「乾パン」の賞味期限に係る判断の基準については、市場動向を勘案しつつ今後見直しを実施することとする。 ② 製品及び梱包用外箱に、名称、原材料名（備考１）、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。 【配慮事項】 ○ 回収・再生利用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。 ※ 調達時の留意事項 １ 災害備蓄用品を調達するにあたって、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。 ２ 納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。
レトルト食品等（※１、※２） ※１ 気密性及を有する容器に調製した食品を充填し、熱溶融により密封され、常温で長期保存が可能となる処理を行った製品 ※２ 本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「レトルト食品等」は、災害備蓄用品として調達するものに限る。	【判断の基準】（※） ※ 個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ① 次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．賞味期限が5年以上であること。 イ．賞味期限が3年以上であって、容器、付属の食器及び発熱材等について回収し再利用される仕組みがあること。 ② 製品及び梱包用外箱に、名称、原材料名（備考１）、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。 【配慮事項】 ○ 回収・再生利用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。 ※ 調達時の留意事項 １ 災害備蓄用品を調達するにあたって、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。 ２ 納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。
栄養調整食品（※１、２） フリーズドライ食品（※２）	【判断の基準】（※） ※ 個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ① 賞味期限が3年以上であること。 ② 製品及び梱包用外箱に、名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。

※１　通常の食品形態であって、ビタミン、ミネラル等の栄養成分を強化した食品 ※２　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「栄養調整食品」「フリーズドライ食品」は、災害備蓄用品として調達するものに限る。	【配慮事項】 ○　回収・再使用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。 ※　調達時の留意事項 １　災害備蓄用品を調達するにあたって、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。 ２　納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

備考）　１　原材料名については、梱包用外箱には適用しない。

１８―３ 災害備蓄用品（生活用品・資材等）

〔エコマーク商品（毛布・作業用手袋・テント・ブルーシート）〕

品目	判断の基準等
毛布	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。ただし、繊維部分全体重量（備考２）に占めるポリエステル繊維重量が50%未満の場合は、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上、かつ、ポリエステル繊維重量比で50%以上使用されていること。 ②　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用若しくはリサイクルされるためのシステムがあること。（備考３） 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。 ②　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考４）又は反毛繊維（備考５）が使用されていること。 ③　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達時の留意事項 　災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。
作業手袋	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ○　次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。 ②　ポストコンシューマ材料（備考６）からなる繊維が、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。 【配慮事項】 ①　未利用繊維（備考４）又は反毛繊維（備考５）が可能な限り使用されていること（すべり止め塗布加工部分を除く。）。 ②　漂白剤を使用していないこと。 ※　調達時の留意事項 　災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。

テント	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、次のいずれかの要件を満たすこと。 ①　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で25%以上使用されていること。 ②　再生PET樹脂（備考１）から得られるポリエステル繊維が、繊維部分全体重量（備考２）比で10%以上使用されていること、かつ、製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） 【配慮事項】 ①　製品使用後に回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。（備考３） ②　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達時の留意事項 　災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。
ブルーシート	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ○　使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエチレン繊維を使用した製品については、再生ポリエチレン（備考７）繊維が繊維部分全体重量（備考２）比で50%以上使用されていること。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達時の留意事項 　災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。

備考）１　「再生 PET 樹脂」とは、PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるものをいう。

２　「繊維部分全体重量」とは、製品全体重量からボタン、ファスナ、ホック、縫糸やポール、金属部品等の付属品の重量を除いたものをいう。

なお、再生プラスチック（使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。））を使用した付属品の重量は、「繊維部分全体重量」及び「再生 PET 樹脂から得られるポリエステル繊維の重量」に含めてよい。

３　「回収及び再使用若しくはリサイクルされるためのシステムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。

「回収のシステム」については、次のア及びイを満たすこと。

ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みの製品を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（製造事業者、販売事業者における回収ルート、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。

イ．回収が適切に行われるよう、製品本体、製品の包装、カタログ又はウエブサイトのい

ずれかでユーザに対し回収に関する具体的情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

「再使用若しくはリサイクルのシステム」については、次のウ及びエを満たすこと。

ウ．回収された製品を再使用、マテリアルリサイクル又はケミカルリサイクルすること。

エ．回収された製品のうち再使用又はリサイクルできない部分は、エネルギー回収すること。

4　「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンター等）を再生した繊維をいう。

5　「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

6　「ポストコンシューマ材料」とは、製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品をいう。

7　「再生ポリエチレン」とは、使用された後に廃棄されたポリエチレン製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するポリエチレン端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

品目	判断の基準等
一次電池 （※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「一次電池」は、我が国における形状の通称「単１形」「単２形」「単３形」又は「単４形」とする。	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ①　一次電池にあっては、別表に示された負荷抵抗の区分ごとの最小平均持続時間（※）を下回らないこと。 ②　使用推奨期限が5年以上の製品仕様であること。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達時の留意事項 １　災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。 ２ 納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

備考）　「最小平均持続時間」は、JIS C 8515 に規定する放電試験条件に準拠して測定するものとする。

別表　一次電池に係る最小平均持続時間

形状の通称（寸法:高さ・直径）	負荷抵抗（Ω）	最小平均持続時間	
		初　度	12か月貯蔵後及び使用推奨期間内
単１形（61.5mm・34.2mm）	2.2	810分	725分
	10	81時間	72時間
	2.2	15時間	13時間
	1.5	450分	405分
	600mA(放電電流)	11時間	9.5時間
単２形（50.0mm・26.2mm）	3.9	770分	690分
	20	77時間	69時間
	3.9	12時間	10時間
	400mA(放電電流)	8.0時間	7.0時間
単３形（50.5mm・14.5mm）	43	60時間	54時間
	3.9	4.0時間	3.6時間
	10	11.5時間	10.0時間
	1000mA(放電電流)	200回	180回
	24	31時間	27時間
	250mA(放電電流)	4.5時間	4.0時間
単４形（44.5mm・10.5mm）	5.1	130分	115分
	24	14.5時間	13.0時間
	10	5.0時間	4.5時間
	75	44時間	39時間
	600mA(放電電流)	140回	125回

品目	判断の基準等
非常用携帯燃料	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ①　品質保証期限が5年以上であること。 ②　名称、原材料名、内容量、品質保証期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。 【配慮事項】 ○　製品の包装又は梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達時の留意事項 １　災害備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。 ２　納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

品目	判断の基準等
携帯発電機 （※） ※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「携帯発電機」は、発電機の定格出力が3kVA 以下の発動発電機とする。	【判断の基準】（※） ※　個別の業務において使用する目的で購入した物品を災害用に利活用する場合は、災害備蓄用品の対象から除外することとする。 ①　次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．ガソリンエンジンを搭載する発電機（天然ガス又はLPガスを燃料として使用するものを含む。）にあっては、排出ガスが表１に示された排気量の区分ごとの基準値以下であること。 イ．ディーゼルエンジンを搭載する発電機にあっては、排出ガスが表２に示された基準値以下であること。 ②　騒音レベルが98デシベル以下であること。（※） ※　騒音レベルの測定方法は「建設機械の騒音及び振動の測定値の測定方法（平成9年建設省告示第1537号）」による。 ③　連続運転可能時間が3時間以上であること。ただし、カセットボンベ型のものにあっては1時間以上であること。 【配慮事項】 ①　燃料消費効率が可能な限り高いものであること。 ②　使用時の負荷に応じてエンジン回転数を自動的に制御する機能を有していること。 ③　製品の小型化及び軽量化が図られていること。 ④　製品の長寿命化、部品の再使用又は原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 ⑤　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ※　調達時の留意事項 発電する電気の周波数に留意すること。

表１　ガソリンエンジン搭載発電機に係る排出ガス基準値

排気量の区分	排出ガス基準値（g/kWh）	
	HC+NOx	CO
66cc 未満	50	610
66cc 以上 100cc 未満	40	
100cc 以上 225cc 未満	16.1	
225cc 以上	12.1	

備考）排出ガスの測定方法は JIS B 8008-4 の G2 モードによる。

表２　ディーゼルエンジン搭載発電機に係る排出ガス基準値

排出ガス基準値（g/kWh）		
NMHC+NOx	CO	PM
7.5	8	0.4

備考）排出ガスの測定方法は JIS B 8008-4 の D2 モードによる。

１９．公共工事〔目標：可能な限り優先的に調達する〕

品目	判断の基準等
公共工事	【判断の基準】 ○　契約図書において、一定の環境負荷低減効果が認められる別表１～別表４に示す資材（材料、機材）、建設機械、工法又は目的物の使用が義務付けられていること。 【配慮事項】 ○　資材（材料、機材）の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 注）義務付けに当たっては、工事全体での環境負荷低減を考慮する中で実施することが望ましい。

別表１【資材】

品目分類	品目名	判断の基準等
盛土材等	建設汚泥から再生した処理土	【判断の基準】 ①　建設汚泥から再生された処理土であること。 ②　重金属等有害物質の含有及び溶出については、土壌汚染対策法（平成14年5月29日法律第53号）及び土壌の汚染に係る環境基準（平成3年8月23日環境庁告示第46号）を満たすこと。
	土工用水砕スラグ	【判断の基準】 ○　天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用できる高炉水砕スラグが使用された土工用材料であること。 【配慮事項】 ○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。
	銅スラグを用いたケーソン中詰め材	【判断の基準】 ○　ケーソン中詰め材として、天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用することができる銅スラグであること。
	フェロニッケルスラグを用いたケーソン中詰め材	【判断の基準】 ○　ケーソン中詰め材として、天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用することができるフェロニッケルスラグであること。
地盤改良材	地盤改良用製鋼スラグ 〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　サンドコンパクションパイル工法において、天然砂（海砂、山砂）の全部を代替して使用することができる製鋼スラグであること。 【配慮事項】 ○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。

コンクリート用スラグ骨材	高炉スラグ骨材（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用できる高炉スラグが使用された骨材であること。 【配慮事項】 ○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。 ※　JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材－第１部：高炉スラグ骨材）に適合する資材は、本基準を満たす。
	フェロニッケルスラグ骨材（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用できるフェロニッケルスラグが使用された骨材であること。 ※　JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材－第２部：フェロニッケルスラグ骨材）に適合する資材は、本基準を満たす。
	銅スラグ骨材（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用できる銅スラグ骨材が使用された骨材であること。 ※　JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材－第３部：銅スラグ骨材）に適合する資材は、本基準を満たす。
	電気炉酸化スラグ骨材（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用できる電気炉酸化スラグ骨材が使用された骨材であること。 【配慮事項】 ○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。 ※　JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材－第４部：電気炉酸化スラグ骨材）に適合する資材は、本基準を満たす。
アスファルト混合物	再生加熱アスファルト混合物〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　アスファルト・コンクリート塊から製造した骨材が含まれること。
	鉄鋼スラグ混入アスファルト混合物〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　加熱アスファルト混合物の骨材として、道路用鉄鋼スラグ（※）が使用されていること。 ※　JIS A 5015（道路用鉄鋼スラグ）に適合する資材は、本基準を満たす。 【配慮事項】 ○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。
	中温化アスファルト混合物（※）	【判断の基準】 ○　加熱アスファルト混合物において、調整剤を添加することにより必要な品質を確保しつつ製造時の加熱温度を 30℃程度低減させて製造されるアスファルト混合物であること。 ※　「中温化アスファルト混合物」については、アスファルト舗装の表層・基層材料として、その使用を推進する。ただし、当面の間、新規骨材を用いることとする。また、ポーラスアスファルトには使用しない。

路盤材	鉄鋼スラグ混入路盤材〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　路盤材として、道路用鉄鋼スラグ（※）が使用されていること。 ※　JIS A 5015（道路用鉄鋼スラグ）に適合する資材は、本基準を満たす。 【配慮事項】 ○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。
	再生骨材等〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　コンクリート塊又はアスファルト・コンクリート塊から製造した骨材が含まれること。
小径丸太材	間伐材〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　間伐材であって、有害な腐れ又は割れ等の欠陥がないこと。
混合セメント	高炉セメント（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　高炉セメントであって、原料に30%を超える分量の高炉スラグが使用されていること。 ※　「高炉セメント」については、JIS R 5211 で規定される B 種及び C 種に適合する資材は、本基準を満たす。
	フライアッシュセメント（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　フライアッシュセメントであって、原料に10%を超える分量のフライアッシュが使用されていること。 ※　「フライアッシュセメント」については、JIS R 5213で規定されるB種及びC種に適合する資材は、本基準を満たす。
セメント	エコセメント（※）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　都市ごみ焼却灰等を主原料とするセメントであって、製品1トンにつきこれらの廃棄物が乾燥ベースで500kg以上使用されていること。 ※　「エコセメント」は、高強度を必要としないコンクリート構造物又はコンクリート製品において使用するものとする。 「エコセメント」については、JIS R 5214 に適合する資材は、本基準を満たす。
コンクリート及びコンクリート製品	透水性コンクリート（※1，2）〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　透水係数 1×10^{-2}cm/sec以上であること。 ※1　「透水性コンクリート」は、雨水を浸透させる必要がある場合に、高強度を必要としない部分において使用するものとする。 ※2　JIS A 5371（プレキャスト無筋コンクリート製品 附属書 B 舗装・境界ブロック類 推奨仕様 B-1 平板）で規定される透水性平板に適合する資材は、本基準を満たす。

<table>
<tr><td rowspan="1">鉄鋼スラグ水和固化体</td><td>鉄鋼スラグブロック</td><td>【判断の基準】
○　骨材のうち表に示された製鋼スラグを重量比で 50%以上使用していること。かつ、結合材に高炉スラグ微粉末を使用していること。

表
<table><tr><th>種　　類</th></tr><tr><td>転炉スラグ（銑鉄予備処理スラグを含む）</td></tr><tr><td>電気炉酸化スラグ</td></tr></table>
【配慮事項】
○　鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。</td></tr>
<tr><td>吹付けコンクリート</td><td>フライアッシュを用いた吹付けコンクリート</td><td>【判断の基準】
○　吹付けコンクリートであって、1m^{3}当たり100kg以上のフライアッシュが混和材として使用されていること。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">塗料</td><td>下塗用塗料（重防食）</td><td>【判断の基準】
○　鉛又はクロムを含む顔料が配合されていないこと。</td></tr>
<tr><td>低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料</td><td>【判断の基準】
○　水性型の路面標示用塗料であって、揮発性有機溶剤（VOC）の含有率（塗料総質量に対する揮発性溶剤の質量の割合）が5%以下であること。</td></tr>
<tr><td>高日射反射率塗料（※1）</td><td>【判断の基準】
①　近赤外波長域日射反射率（※２）が表に示す数値以上であること。
②　近赤外波長域の日射反射率保持率（※２）の平均が80%以上であること。（※３）
※１　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする高日射反射率塗料は、日射反射率の高い顔料を含有する塗料であり、建物の屋上・屋根等において、金属面等に塗装を施す工事に使用されるものとする。
「高日射反射率塗料」については、JIS K 5675 に適合する資材は、本基準を満たす。
※２　近赤外波長域日射反射率、明度L*値、日射反射率保持率の測定及び算出方法は、JISK5675による。
※３　<u>判断の基準②については、日射反射率保持率の算出において屋外暴露耐候性試験開始後24ヶ月経過後の測定が必要なことから、平成26年度までは経過措置を設けることとし、この期間においては、当該規定を満たさない場合にあっても特定調達物品等とみなすこととする。</u>

表　近赤外波長域日射反射率
<table><tr><th>明度Ｌ*値（※２）</th><th>近赤外波長域日射反射率(%)</th></tr><tr><td>40.0 以下</td><td>40.0</td></tr><tr><td>40.0 を超え 80.0 未満</td><td>明度 L*値の値</td></tr><tr><td>80.0 以上</td><td>80.0</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>防水</td><td>高日射反射率防水（※１）</td><td>【判断の基準】
○　近赤外域における日射反射率（※２）が50.0%以上であること。
※１　本項の判断の基準の対象とする高日射反射率防水は、日射反射率の高い顔料が防水層の素材に含有されているもの又は日射反射率の高い顔料を有した塗料を防水層の仕上げとして施すものであり、建築の屋上・屋根等において使用されるものとする。
※２　日射反射率の求め方は、JIS K 5602に準じる。</td></tr>
<tr><td>舗装材</td><td>再生材料を用いた舗装用ブロック（焼成）〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
①　原料に再生材料（表の左欄に掲げるものを原料として、同表の右欄に掲げる前処理方法に従って処理されたもの等）を用い、焼成されたものであること。
②　再生材料が原材料の重量比で20%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。
③　土壌の汚染に係る環境基準（平成3年8月23日環境庁告示第46号）の規定に従い、製品又は使用している再生材料の焼成品を2mm以下に粉砕したものにおいて、重金属等有害物質の溶出について問題のないこと。

【配慮事項】
○　土壌汚染対策法（平成14年5月29日法律第53号）に関する規定に従い、製品又は使用している再生材料の焼成品を2mm以下に粉砕したものにおいて、重金属等有害物質の含有について問題のないこと。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>表
<table>
<tr><th>再生材料の原料となるものの分類区分</th><th>前処理方法</th></tr>
<tr><td>採石及び窯業廃土</td><td rowspan="13">前処理方法によらず対象</td></tr>
<tr><td>無機珪砂（キラ）</td></tr>
<tr><td>鉄鋼スラグ</td></tr>
<tr><td>非鉄スラグ</td></tr>
<tr><td>鋳物砂</td></tr>
<tr><td>陶磁器屑</td></tr>
<tr><td>石炭灰</td></tr>
<tr><td>建材廃材</td></tr>
<tr><td>廃ガラス（無色及び茶色の廃ガラスびんを除く）</td></tr>
<tr><td>製紙スラッジ</td></tr>
<tr><td>アルミスラッジ</td></tr>
<tr><td>磨き砂汚泥</td></tr>
<tr><td>石材屑</td></tr>
<tr><td>都市ごみ焼却灰</td><td>溶融スラグ化</td></tr>
<tr><td>下水道汚泥</td><td>焼却灰化又は溶融スラグ化</td></tr>
<tr><td>上水道汚泥</td><td rowspan="2">前処理方法によらず対象</td></tr>
<tr><td>湖沼等の汚泥</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td>再生材料を用いた舗装用ブロック類（プレキャスト無筋コンクリート製品）〔エコマーク商品〕</td>
<td>【判断の基準】
①　原料に再生材料（表の左欄に掲げるものを原料として、同表の右欄に掲げる前処理方法に従って処理されたもの）が用いられたものであること。
②　再生材料が原材料の重量比で20%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。なお、透水性確保のために、粗骨材の混入率を上げる必要がある場合は、再生材料が原材料の重量比15%以上使用されていること。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。
③　再生材料における重金属等有害物質の含有及び溶出について問題がないこと。（※）
※　JIS A 5031（一般廃棄物，下水汚泥又はそれらの焼却灰を溶融固化したコンクリート用溶融スラグ骨材）に定める基準による。
表
<table>
<tr><td>再生材料の原料となるものの分類区分</td><td>前処理方法</td></tr>
<tr><td>都市ごみ焼却灰</td><td rowspan="2">溶融スラグ化</td></tr>
<tr><td>下水道汚泥</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>園芸資材</td>
<td>バークたい肥〔エコマーク商品〕</td>
<td>【判断の基準】
○　以下の基準を満たし、木質部より剥離された樹皮を原材料として乾燥重量比50%以上を使用し、かつ、発酵補助材を除くその他の原材料には畜ふん、動植物性残さ又は木質系廃棄物等の有機性資源を使用していること。

・有機物の含有率（乾物）　70%以上
・炭素窒素比〔C/N比〕　35以下
・陽イオン交換容量〔CEC〕（乾物）　70meq/100g以上
・pH　5.5～7.5
・水分　55～65%
・幼植物試験の結果　生育阻害その他異常が認められない
・窒素全量〔N〕（現物）　0.5%以上
・りん酸全量〔P_2O_5〕（現物）　0.2%以上
・加里全量〔K_2O〕（現物）　0.1%以上</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料（※）（下水汚泥コンポスト）
※　土壌改良資材として使用される場合も含む。</td>
<td>【判断の基準】
○　以下の基準を満たし、下水汚泥を主原材料として重量比（脱水汚泥ベース）25%以上使用し、かつ、無機質の土壌改良材を除くその他の原材料には畜ふん、動植物性残さ又は木質系廃棄物等の有機性資源を使用していること。
※　肥料取締法第3条及び第25条ただし書の規定に基づく普通肥料の公定規格（昭和61年2月22日 農林水産省告示第284号）に適合するもの。
・有機物の含有率（乾物）　35%以上
・炭素窒素比〔C/N比〕　20以下
・pH　8.5以下
・水分　50%以下
・窒素全量〔N〕（現物）　0.8%以上
・りん酸全量〔P205〕（現物）　1.0%以上
・アルカリ分（現物）　15%以下（ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りでない。）</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td>道路照明</td><td>環境配慮型道路照明〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
○　高圧ナトリウムランプ又はセラミックメタルハライドランプを用いた道路照明施設であって、水銀ランプを用いた照明施設と比較して電力消費量が45%以上削減されているものであること。

【配慮事項】
○　設置箇所に求められている光色や演色性にも配慮しつつ、適切な光源を選択すること。</td></tr>
<tr><td>中央分離帯ブロック</td><td>再生プラスチック製中央分離帯ブロック（※2）〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
○　再生プラスチック（※１）が原材料の重量比で70%以上使用されていること。
※１　使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。
※２　JIS A 9401（再生プラスチック製中央分離帯ブロック）に適合する資材は、本基準を満たす。

【配慮事項】
○　撤去後に回収して再生利用するシステムがあること。</td></tr>
<tr><td>タイル</td><td>陶磁器質タイル〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
①　原料に再生材料（表の左欄に掲げるものを原料として、同表の右欄に掲げる前処理方法に従って処理されたもの等）が用いられているものであること。
②　再生材料が原材料の重量比で20%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。
③　土壌の汚染に係る環境基準（平成3年8月23日環境庁告示第46号）の規定に従い、製品又は使用している再生材料の焼成品を2mm以下に粉砕したものにおいて、重金属等有害物質の溶出について問題のないこと。

【配慮事項】
○　土壌汚染対策法（平成14年5月29日法律第53号）に関する規定に従い、製品又は使用している再生材料の焼成品を2mm以下に粉砕したものにおいて、重金属等有害物質の含有について問題のないこと。

表
<table><tr><th>再生材料の原料となるものの分類区分</th><th>前処理方法</th></tr><tr><td>採石及び窯業廃土</td><td rowspan="8">前処理方法によらず対象</td></tr><tr><td>無機珪砂（キラ）</td></tr><tr><td>鉄鋼スラグ</td></tr><tr><td>非鉄スラグ</td></tr><tr><td>鋳物砂</td></tr><tr><td>陶磁器屑</td></tr><tr><td>石炭灰</td></tr><tr><td>廃プラスチック</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td>建材廃材</td><td rowspan="7"></td></tr>
<tr><td>廃ゴム</td></tr>
<tr><td>廃ガラス（無色及び茶色の廃ガラスびんを除く）</td></tr>
<tr><td>製紙スラッジ</td></tr>
<tr><td>アルミスラッジ</td></tr>
<tr><td>磨き砂汚泥</td></tr>
<tr><td>石材屑</td></tr>
<tr><td>都市ごみ焼却灰</td><td>溶融スラグ化</td></tr>
<tr><td>下水道汚泥</td><td>焼却灰化又は溶融スラグ化</td></tr>
<tr><td>上水道汚泥</td><td rowspan="2">前処理方法によらず対象</td></tr>
<tr><td>湖沼等の汚泥</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>建具</td><td>断熱サッシ・ドア</td><td>【判断の基準】
○　建築物の窓等を通しての熱の損失を防止する建具であって、次のいずれかに該当すること。
・複層ガラスを用いたサッシであること。
・二重サッシであること。
・断熱材の使用その他これに類する有効な断熱の措置が講じられたドアであること。

【配慮事項】
○　サッシの枠及び障子に断熱材の使用その他これに類する有効な断熱の措置が講じられていること又は断熱性の高い素材を使用したものであること。</td></tr>
<tr><td>製材等</td><td>製材〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
①　間伐材、林地残材又は小径木であること。
②　①以外の場合は、原料の原木は、伐採に当たって、原木の生産された国又は地域における森林に関する法令に照らして手続が適切になされたものであること。

【配慮事項】
○　原料の原木は、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。ただし、間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である原木は除く。</td></tr>
</table>

	集成材 合板 単板積層材 〔３品目エコマーク商品〕	【判断の基準】（※１、※２） ①　間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であり、かつ、それ以外の原料の原木は、適正な手続きにより伐採されたものであること。（配慮事項･･･持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。）（巻末「参考」を参照） ②　①以外の場合は、間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材及び小径木以外の木材にあっては、原料の原木は、適正な手続きにより伐採されたものであること。（配慮事項･･･持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。）（巻末「参考」を参照） ③　居室の内装材にあっては、ホルムアルデヒドの放散量（※３）が平均値で0.3mg/L以下かつ最大値で0.4mg/L以下であること。 ※１　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「製材」「集成材」「合板」及び「単板積層材」（以下「製材等」という。）は、建築の木工事において使用されるものとする。 ※２　「製材等」の判断の基準の②は、機能的又は需給上の制約がある場合とする。 ※３　ホルムアルデヒドの放散量の測定方法は、日本農林規格による。
フローリング	フローリング〔エコマーク商品〕	【判断の基準】（※１、※２） ①　間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木等を使用していること、かつ、それ以外の原料の原木は、適正な手続きにより伐採されたものであること。（配慮事項･･･持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。）（巻末「参考」を参照） ②　①以外の場合は、原料の原木は、適正な手続きにより伐採されたものであること。（配慮事項･･･持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。）（巻末「参考」を参照） ③　居室の内装材にあっては、ホルムアルデヒドの放散量（※３）が平均値で0.3mg/L以下かつ最大値で0.4mg/L以下であること。 ※１　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象は、建築の木工事において使用されるものとする。 ※２　判断の基準の②は、機能的又は需給上の制約がある場合とする。 ※３　ホルムアルデヒドの放散量の測定方法は、日本農林規格による。
再生木質ボード	パーティクルボード（※１） 繊維板（※１） 木質系セメント板 〔エコマーク商品（木質系セメント板を除く）〕	【判断の基準】 ①　合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材・かん木・小径木（間伐材を含む。）等の再生資源である木質材料又は植物繊維の重量比配合割合が50%以上であること。（この場合、再生資材全体に占める体積比配合率が20%以下の接着剤、混和剤等（パーティクルボードにおけるフェノール系接着剤、木質系セメント板におけるセメント等で主要な原材料相互間を接着する目的で使用されるもの）を計上せずに、重量比配合率を計算することができるものとする。） ②　合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材・かん木及び小径木（間伐材を含む）等の再生資源以外の木質材料にあっては、原料の原木は、適正な手続きにより伐採されたものであること。（配慮事項･･･持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。）（巻末「参考」を参照） ③　居室の内装材にあっては、ホルムアルデヒド（※２）の放散量が平均値で0.3mg/L以下かつ最大値で0.4mg/L以下であること。 ※１「パーティクルボード」及び「繊維板」については、判断の基準③に

		ついて、JIS A 5908及びA 5905で規定されるF☆☆☆☆等級に適合する資材は、本基準を満たす。 ※２　ホルムアルデヒドの放散量の測定方法は、JIS A 1460による。
ビニル系床材	ビニル系床材〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　再生ビニル樹脂系材料（※）の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されていること。 ※　JISA5705（ビニル系床材）に規定されるビニル系床材の種類で記号KSに該当するものについては、本項の判断の基準の対象とする「ビニル系床材」に含まれないものとする。 【配慮事項】 ○　工事施工時に発生する端材の回収、再生利用システムについて配慮されていること。
断熱材	断熱材〔エコマーク商品〕	【判断の基準】 ○　建築物の外壁等を通しての熱の損失を防止するものであって、次の要件を満たすものとする。 ①　オゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 ②　ハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと。 ③　再生資源を使用している又は使用後に再生資源として使用できること。 【配慮事項】 ○　発泡プラスチック断熱材については、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること。
照明機器	照明制御システム	【判断の基準】 ○　連続調光可能なHf蛍光灯器具、LED照明器具及びそれらの器具を制御する照明制御装置からなるもので、初期照度補正制御及び外光（昼光）利用制御の機能を有していること。

変圧器

変圧器

【判断の基準】（※）

※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「変圧器」は、定格一次電圧が 600V を超え、7000V 以下のものであって、かつ、交流の電路に使用されるものに限り、次のいずれかに該当するものは、これに含まれないものとする。

① 絶縁材料としてガスを使用するもの
② H 種絶縁材料を使用するもの
③ スコット結線変圧器
④ 3 以上の巻線を有するもの
⑤ 柱上変圧器
⑥ 単相変圧器であって定格容量が 5kVA 以下のもの又は 500kVA を超えるもの
⑦ 三相変圧器であって定格容量が 10kVA 以下のもの又は 2000kVA を超えるもの
⑧ 樹脂製の絶縁材料を使用する三相変圧器であって三相交流を単相交流及び三相交流に変成するためのもの
⑨ 定格二次電圧が 100V 未満のもの又は 600V を超えるもの
⑩ 風冷式又は水冷式のもの

○　エネルギー消費効率が表に示された区分ごとの算定式を用いて算出した数値を上回らないこと。

【配慮事項】

○　運用時の負荷率の実態に配慮されたものであること。

表　変圧器に係る基準エネルギー消費効率の算定式

区分				基準エネルギー消費効率の算定式
変圧器の種別	相 数	定格周波数	定 格 容 量	
油入変圧器	単 相	50Ｈｚ		$E=11.2S^{0.732}$
		60Ｈｚ		$E=11.1S^{0.725}$
	三 相	50Ｈｚ	500kVA 以下	$E=16.6S^{0.696}$
			500kVA 超	$E=11.1S^{0.809}$
		60Ｈｚ	500kVA 以下	$E=17.3S^{0.678}$
			500kVA 超	$E=11.7S^{0.790}$
モールド変圧器	単 相	50Ｈｚ		$E=16.9S^{0674}$
		60Ｈｚ		$E=15.2S^{0.691}$
	三 相	50Ｈｚ	500kVA 以下	$E=23.9S^{0.659}$
			500kVA 超	$E=22.7S^{0.718}$
		60Ｈｚ	500kVA 以下	$E=22.3S^{0.674}$
			500kVA 超	$E=19.4S^{0.737}$

備考）

1　「油入変圧器」とは、絶縁材料として絶縁油を使用するものをいう。

2　「モールド変圧器」とは、樹脂製の絶縁材料を使用するものをいう。

3　E 及び S は、次の数値を表すものとする。

　E：基準エネルギー消費効率（単位：W）

　S：定格容量（単位：kVA）

4　表の規定は、JIS C 4304 及び C 4306 並びに日本電機工業会規格 1500 及び

		1501 に規定する標準仕様状態で使用しないものについて準用する。この場合において、表の右欄に掲げる基準エネルギー消費効率の算定式は、それぞれ当該算定式の右辺に 1.10（モールド変圧器にあっては 1.05）を乗じた式として取り扱うものとする。 ５　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第71号（平成24年3月30日）の「３エネルギー消費効率の測定方法」による。
空調用機器	吸収冷温水機	【判断の基準】（※１） ○　冷房の成績係数（※２）が表に示された区分の数値以上であること。 ※１　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「吸収冷温水機」は、冷凍能力が 25kW 以上のものとする。 ※２　吸収冷温水機の成績係数の算出方法は、JIS B 8622 による。 表　冷房の成績係数 <table><tr><th>区　　分</th><th>成績係数</th></tr><tr><td>冷凍能力が 186kW 未満</td><td>1.15</td></tr><tr><td>冷凍能力が 186kW 以上</td><td>1.20</td></tr></table>

空調用機器

氷蓄熱式空調機器（※）

※　氷蓄熱ユニット又は氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーをいう。

【判断の基準】（※１）

①　氷蓄熱槽を有していること。

②　冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。

③　冷房の成績係数（※２）が表３に示された区分の数値以上であること。

※１　「氷蓄熱式空調機器」の判断の基準は、氷蓄熱ユニットについては非蓄熱形相当冷却能力（※３）が、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーについては定格蓄熱利用冷房能力（※４）がそれぞれ 28kW 以上のものに適用する。

※２　成績係数の算出方法は、以下の算定式により、昼間熱源機運転時間は 10 時間とする。

①氷蓄熱ユニット

成績係数＝

$$\frac{\text{定格日量冷却能力（※5）(kW・h)}}{\text{定格蓄熱消費電力量（※6）(kW・h)}＋\text{昼間熱源機冷却消費電力量（※7）(kW・h)}}$$

②氷蓄熱式パッケージエアコンディショナー

成績係数＝日量蓄熱利用冷房効率（※８）

※３　「非蓄熱形相当冷却能力」とは、冷房時の時間当たり平均負荷率（時間当たりのピーク負荷の負荷率を 100%とした時の平均負荷の割合）を 85%として、この時のピーク負荷熱量をいう。

※４　「定格蓄熱利用冷房能力」とは、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーが表１に規定された一定の定格冷房温度条件で、主として蓄熱を利用して室内から除去する熱量をいう。

表１　温度条件　　単位：℃

		室内側入口空気条件		室外側空気条件	
		乾球温度	湿球温度	乾球温度	湿球温度
冷房	定格冷房	27	19	35	―
	定格冷房蓄熱	―	―	25	―

※５　「定格日量冷却能力」とは、蓄熱槽内に蓄熱した熱量のうちの正味有効蓄熱容量と、昼間熱源機冷却の運転によって冷却される熱量を合計して、冷水出口温度 7℃で、二次側に供給できる日積算総熱量をいう。

※６　「定格蓄熱消費電力量」とは、表２に規定された蓄熱温度条件で定格蓄熱容量までに消費する電力（ブラインポンプ等の一次側補機の消費電力を含む。）を積算したものをいう。

表２　温度条件　　単位：℃

		室外側空気条件	
		乾球温度	湿球温度
冷却	定格冷却	35	―
	定格冷却蓄熱	25	―

※7　「昼間熱源機冷却消費電力量」とは、表２に規定された定格冷却温度条件で、熱源機と蓄熱槽が直列に接続されて運転された時に消費する電力を積算したものをいう。

※8　「日量蓄熱利用冷房効率」とは、日量蓄熱利用冷房能力（※9）を日量蓄熱利用冷房消費電力量（※10）で除した値をいう。

※9　「日量蓄熱利用冷房能力」とは、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーが別表１に規定された一定の定格冷房蓄熱温度条件で、最大10時間蓄熱運転した後、別表１に規定された一定の定格冷房温度条件で、蓄熱利用冷房時間、蓄熱利用冷房運転する間に室内から除去する熱量を積算したものをいう。

※10　「日量蓄熱利用冷房消費電力量」とは、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーが表１に規定された一定の定格冷房蓄熱温度条件で、最大 10 時間蓄熱運転した間に消費する電力、及び表１に規定された一定の定格冷房温度条件で、蓄熱利用冷房時間、蓄熱利用冷房運転する間に消費する室外機の電力を積算したものをいう。

表３　冷房の成績係数

区　　分	成績係数
氷蓄熱ユニット	2.2
氷蓄熱式パッケージエアコンディショナー	3.0

空調用機器

ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機

【判断の基準】（※）

①　冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。

②　成績係数が表１又は表２に示された区分の数値以上であること。

※　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機」は、定格冷房能力が 28kW 以上のものとする。

表１　JIS 適合機種

区　　　　分	期間成績係数（APF）
冷房能力が 28kW 以上 35kW 未満	1.67 以上
冷房能力が 35kW 以上	1.86 以上

備考）１　期間成績係数（APF）の算出方法は、JIS B 8627-1 による。

表２　JIS 適合外機種

区　　　　分	一次エネルギー換算成績係数（COP）
冷房能力が 28kW 以上 67 kW 未満	1.33 以上
冷房能力が 67kW 以上	1.23 以上

備考）１　一次エネルギー換算成績係数の算出方法については、次式による。また、定格周波数が 50 ヘルツ・60 ヘルツ共用のものにあっては、それぞれの周波数で測定した数値により算定した数値のうち小さい方の値とする。

COP=(Cc/(Egc+Eec)+Ch/(Egh+Eeh))/2

COP：一次エネルギー換算成績係数

Cc　：冷房標準能力（単位：kW）

		Egc：冷房ガス消費量（単位：kW） Eec：冷房消費電力（単位：kW）を 1 kWh につき 9,760 kJ として 1 次エネルギーに換算した値（単位：kW） Ch ：暖房標準能力（単位：kW） Egh：暖房ガス消費量（単位：kW） Eeh：暖房消費電力（単位：kW）を 1 kWh につき 9,760 kJ として 1 次エネルギーに換算した値（単位：kW） ２　冷房標準能力、冷房ガス消費量、暖房標準能力及び暖房ガス消費量については、JIS B8627-2 又は B8627-3 の規定する方法に準拠して測定する。 ３　冷房消費電力、暖房消費電力については、室外機の実効消費電力とする。
	送風機	【判断の基準】 ○　高効率モーターが使用されていること。 ※１　高効率モーターは、JIS C 4212　高効率低圧三相かご形誘導電動機とする。 ※２　適用範囲は、定格電圧 200V の三相誘導電動機を用いる空調用及び換気用遠心送風機とする。ただし、電動機直動式及び排煙機は除く。
	ポンプ	【判断の基準】 ○　高効率モーターが使用されていること。 ※１　高効率モーターは、JIS C 4212　高効率低圧三相かご形誘導電動機とする。 ※２　適用範囲は、定格電圧 200V の三相誘導電動機を用いる空調用ポンプのうち、軸継手により電動機とポンプ本体を直結した遠心ポンプとする。
配管材	排水・通気用再生硬質ポリ塩化ビニル管〔エコマーク商品〕	【判断の基準】（※１） ○　排水用又は通気用の硬質のポリ塩化ビニル管であって、使用済みの硬質のポリ塩化ビニル管（※２）を原料として、その使用割合が製品全体における重量比で表に示された区分の数値以上であること。 ※１　判断の基準は、敷地内の排水設備で、屋内の排水管・通気管及び屋外の排水管に硬質のポリ塩化ビニル管を用いる場合の無圧配管においてのみ適用する。 ※２　「使用済みの硬質のポリ塩化ビニル管」は、JIS Q 14021 の 7.8.1.1a)2)「ポストコンシューマ材料」の定義による硬質のポリ塩化ビニル管または継手類とする。 【配慮事項】 ○　製品使用後に回収され、再生利用されるための仕組みが整っていること。 表　重量比 管の区分 | 重量比 三層管 | 30% 単層管 | 80% 1　三層管は、JIS K 9797 及び JIS K 9798 とする。 2　単層管は、使用済みの硬質のポリ塩化ビニル管を原料としたものであってかつJIS K 6741の規格を満たした排水・通気用の管（使用済みの硬質のポリ塩化ビニル管を原料としたものであることが容易に判別でき、かつ書面にて確認できるもの）、及びAS58とする。

<table>
<tr><td rowspan="3">衛生器具</td><td>自動水栓〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
○　電気的制御により、水栓の吐水口に手を近づけた際に非接触にて自動で吐水し、手を遠ざけた際に自動で止水するものであること。</td></tr>
<tr><td>自動洗浄装置及びその組み込み小便器〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】
○　洗浄水量が4L/回以下であり、また、使用状況により、洗浄水量が制御されること。</td></tr>
<tr><td>洋風便器〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】（※）
○　洗浄水量が8.5L/回以下であること。
※　自動水栓の判断の基準は、公共用トイレの洗面用または手洗用の水栓を対象とし、止水の際、手を遠ざけた後速やかに止水できるものであること。</td></tr>
<tr><td>コンクリート用型枠</td><td>再生材料を使用した型枠〔エコマーク商品〕</td><td>【判断の基準】（※１、※２）
○　再生材料を使用した型枠については、再生材料（表に掲げるものを原料としたもの）が原材料の重量比で50%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されており、使用後の再リサイクルが行われていること。

表
<table><tr><th>再生材料の原料となるものの分類区分</th></tr><tr><td>廃プラスチック</td></tr><tr><td>古紙パルプ</td></tr></table>※１　プレキャスト型枠等構造体の一部として利用する型枠及び化粧型枠は本品目の対象外とする。
※２　再生材料として再生プラスチックを用いる場合、「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

【配慮事項】
○　再生材料を使用した型枠については、通常品と同等の施工性及び経済性（材料費、転用回数、回収費、再生処理費等を考慮）が確保されたものであること。</td></tr>
</table>

別表２【建設機械】

品目分類	判断の基準等
排出ガス対策型建設機械	【判断の基準】

【判断の基準】

○　表１及び表２に掲げる建設機械について、搭載されているディーゼルエンジンから排出される各排出ガス成分及び黒煙の量が、それぞれ下表の第２次基準値又はこれより優れるものであること。

表１　トンネル工事用建設機械

機　　種	摘　　　　要
バックホウ	ディーゼルエンジン出力30kW以上560kW以下、大型ブレーカを装着したものを含む
ホイールローダ・クローラローダ	ディーゼルエンジン出力30kW以上560kW以下
ダンプトラック	ディーゼルエンジン出力30kW以上560kW以下、ただし、有効な自動車検査証の交付を受けているものを除く
トラックミキサ	ディーゼルエンジン出力30kW以上560kW以下、ただし、有効な自動車検査証の交付を受けているものを除く

表２　一般工事用建設機械

機　　種	摘　　　　要
バックホウ	ディーゼルエンジン出力8kW以上560kW以下
ホイールローダ	ディーゼルエンジン出力8kW以上560kW以下
ブルドーザ	ディーゼルエンジン出力8kW以上560kW以下

第２次基準値

対象物質（単位）／出力区分	HC (g/kW･h)	NOx (g/kW･h)	CO (g/kW･h)	PM (g/kW･h)	黒煙 (%)
8kW以上19kW未満	1.5	9	5	0.8	40
19kW以上37kW未満	1.5	8	5	0.8	40
37kW以上75kW未満	1.3	7	5	0.4	40
75kW以上130kW未満	1	6	5	0.3	40
130 kW以上560kW以下	1	6	3.5	0.2	40

１．測定方法は、別途定める「排出ガス対策型建設機械指定要領」（平成3年10月8日付建設省経機発第249号）による。
２．トンネル工事用建設機械は黒煙の基準値が表示基準値の１／５以下とする。

○　表３及び表４に掲げる建設機械について、搭載されているディーゼルエンジンから排出される各排出ガス成分及び黒煙の量が、それぞれ下表の第１次基準値又はこれより優れるものであること。

表３　トンネル工事用建設機械

機　　種	摘　　　　要
ドリルジャンボ	ディーゼルエンジン出力30kW以上260kW以下 （40.8PS以上353PS以下）
コンクリート吹付機	ディーゼルエンジン出力30kW以上260kW以下 （40.8PS以上353PS以下）

表４　一般工事用建設機械

機　　種	摘　　　　要
発動発電機	ディーゼルエンジン出力7.5kW以上260kW以下（10.2PS以上353PS以下）、可搬式（溶接兼用機を含む）
空気圧縮機	ディーゼルエンジン出力7.5kW以上260kW以下（10.2PS以上353PS以下)、可搬式
油圧ユニット	ディーゼルエンジン出力7.5kW以上260kW以下（10.2PS以上353PS以下）、基礎工事用機械で独立したもの
ローラ	ディーゼルエンジン出力7.5kW以上260kW以下（10.2PS以上353PS以下)、ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ
ホイールクレーン	ディーゼルエンジン出力7.5kW以上260kW以下（10.2PS以上353PS以下)、ラフテレーンクレーン

第１次基準値

対象物質（単位）／出力区分	HC (g/kW･h)	Nox (g/kW･h)	CO (g/kW･h)	黒煙 (%)
7.5kW以上15kW未満	2.4	12.4	5.7	50
15kW以上30kW未満	1.9	10.5	5.7	50
30kW以上272kW以下	1.3	9.2	5	50

１．測定方法は、別途定める「排出ガス対策型建設機械指定要領」（平成3年10月8日付建設省経機発第249号）による。
２．トンネル工事用建設機械は黒煙の基準値が表示基準値の１／５以下とする。

備考）特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成 17 年法律第 51 号）において、規制対象となる建設機械を使用する際は、同法の技術基準に適合したものを使用すること。

低騒音型建設機械

【判断の基準】

○　建設機械の騒音の測定値が表５に掲げる値以下のものであること。

表５

機種	機関出力（kW）	騒音基準値（dB）
ブルドーザー	P　＜55	102
	55≦　P　＜103	105
	103≦　P	105
バックホウ	P　＜55	99
	55≦　P　＜103	104
	103≦　P　＜206	106
	206≦　P	106
ドラグライン クラムシェル	P　＜55	100
	55≦　P　＜103	104
	103≦　P　＜206	107
	206≦　P	107

トラクターショベル	P ＜55	102
	55≦ P ＜103	104
	103≦ P	107
クローラークレーン トラッククレーン ホイールクレーン	P ＜55	100
	55≦ P ＜103	103
	103≦ P ＜206	107
	206≦ P	107
バイブロハンマー		107
油圧式杭抜機 油圧式鋼管圧入・引抜機 油圧式杭圧入引抜機	P ＜55	98
	55≦ P ＜103	102
	103≦ P	104
アースオーガー	P ＜55	100
	55≦ P ＜103	104
	103≦ P	107
オールケーシング掘削機	P ＜55	100
	55≦ P ＜103	104
	103≦ P ＜206	105
	206≦ P	107
アースドリル	P ＜55	100
	55≦ P ＜103	104
	103≦ P	107
さく岩機（コンクリートブレーカー）		106
ロードローラー タイヤローラー 振動ローラー	P ＜55	101
	55≦ P	104
コンクリートポンプ（車）	P ＜55	100
	55≦ P ＜103	103
	103≦ P	107
コンクリート圧砕機	P ＜55	99
	55≦ P ＜103	103
	103≦ P ＜206	106
	206≦ P	107
アスファルトフィニッシャー	P ＜55	101
	55≦ P ＜103	105
	103≦ P	107
コンクリートカッター		106
空気圧縮機	P ＜55	101
	55≦ P	105
発動発電機	P ＜55	98
	55≦ P	102

別表３【工法】

品目分類	品目名	判断の基準等
建設発生土有効利用工法	低品質土有効利用工法	【判断の基準】 ○　施工現場で発生する粘性土等の低品質土を、当該現場内において利用することにより、建設発生土の場外搬出量を削減することができる工法であること。
建設汚泥再生処理工法	建設汚泥再生処理工法	【判断の基準】 ①　施工現場で発生する建設汚泥を、再生利用を目的として現場内で盛土材や流動化処理土へ再生する工法であること。 ②　重金属等有害物質の含有及び溶出については、土壌汚染対策法（平成14年5月29日法律第53号）及び土壌の汚染に係る環境基準（平成3年8月23日環境庁告示第46号）を満たすこと。
コンクリート塊再生処理工法	コンクリート塊再生処理工法	【判断の基準】 ○　施工現場で発生するコンクリート塊を、現場内再生利用を目的としてコンクリート又は骨材に再生処理する工法であること。
舗装（表層）	路上表層再生工法	【判断の基準】 ○　既設アスファルト舗装の表層を粉砕し、必要に応じて新規アスファルト混合物や添加材料を加え、混合して締め固め、現位置又は当該現場付近で表層を再生する工法であること。 ※　アスファルト混合物の層の厚さが 10cm 以下の道路において使用するものとする。
舗装（路盤）	路上再生路盤工法	【判断の基準】 ○　既設舗装の路盤材とアスファルト・コンクリート層を粉砕して混合し、安定処理を施し、現位置で路盤を再生する工法であること。 ※　アスファルト混合物の層の厚さが 10cm 以下の道路において使用するものとする。
法面緑化工法	伐採材又は建設発生土を活用した法面緑化工法	【判断の基準】 ○　施工現場における伐採材や建設発生土を、当該施工現場において有効利用する工法であること。 　ただし、伐採材及び建設発生土を合算した使用量は、現地で添加する水を除いた生育基盤材料の容積比で70%以上を占めること。
山留め工法	泥土低減型ソイルセメント柱列壁工法	【判断の基準】 ○　セメント系固化剤の一部として泥土を再利用又はセメント系固化剤の注入量を削減することにより、施工に伴い発生する泥土が低減できる工法であること。 ※　本項の判断の基準の対象とする「泥土低減型ソイルセメント柱列壁工法」は、仮設工事において使用するものとする。

別表４【目的物】

品目分類	品目名	判断の基準等
舗装	排水性舗装	【判断の基準】 ○　雨水を道路の路面下に浸透させて排水溝に流出させ、かつ、道路交通騒音の発生を減少させることができる舗装であること。 ※　道路交通騒音を減少させる必要がある場合に使用するものとする。
舗装	透水性舗装	【判断の基準】 ○　雨水を道路の路床に浸透させることができる舗装であること。 ※　雨水を道路の路床に浸透させる必要のある歩行者道等の自動車交通がない道路の部分において使用するものとする。
屋上緑化	屋上緑化 ※　建物の屋上等において設置するものとする。	【判断の基準】 ①　植物の健全な生育及び生育基盤を有するものであること。 ②　ヒートアイランド現象の緩和等都市環境改善効果を有するものであること。 【配慮事項】 ①　屋上緑化に適した植物を使用するものであること。 ②　灌水への雨水利用に配慮するとともに、植物の生育基盤の保水及び排水機能が適切に確保された構造であること。

２０．役務〔目標：95%（印刷のみ）、可能な限り優先的に調達する（印刷以外）〕

２０－１ 省エネルギー診断

品目	判断の基準等
省エネルギー診断	【判断の基準】 ○　省エネルギー診断の具体的項目に応じて、別表１に掲げる技術資格を有する者若しくはこれと同等と認められる技能を有する者又はこれらの者を使用する法人が、他の者の空気調和設備、照明設備、熱源設備、受変電設備、制御設備及び給排水衛生設備等の稼働状況並びにエネルギー使用量について調査・分析を行い、それらの結果に基づき、更なるエネルギーの使用の合理化が図られるべく、設備・機器の導入、改修及び運用改善について別表２の内容を含む提案が行われるものであること。

別表１

一級建築士
一級建築施工管理技士
一級電気工事施工管理技士
一級管工事施工管理技士
技術士（建設、電気・電子、機械、衛生工学、環境）
エネルギー管理士（熱、電気）
建築設備士

別表２

過去３年間程度のエネルギー消費実績及び光熱水費実績、設備の保有と稼働状況
設備・機器ごとのエネルギー消費量の実績又は推計及び推計根拠
エネルギー消費量に関するベースラインの推定と推定根拠
設備・機器の導入、改修、運用改善に伴う省エネルギー量の推計及び推計根拠
設備・機器の導入、改修、運用改善に伴う必要投資額及びその投資額に関する推定根拠

２０－２ 印刷

品目	判断の基準等
印刷（※１）	【判断の基準】 ＜共通事項＞ ① 印刷・情報用紙に係る判断の基準（「紙類」参照）を満たす用紙が使用されていること。ただし、冊子形状のものについては表紙を除くものとする。なお、紙の原料にバージンパルプが使用する場合にあっては、バージンパルプの原料である原木（間伐材及び再生資源以外）は、適正な方法により伐採されたものであること。（巻末「参考」を参照） ② 別表１に示されたＢ、Ｃ及びＤランクの紙へのリサイクルにおいて阻害要因となる材料が使用されていないこと。ただし、印刷物の用途・目的から使用する場合は、使用部位、廃棄又はリサイクル方法を記載すること。（※２） ③ 印刷物へリサイクル適性を表示すること。（※２、３） ④ 印刷の各工程において、別表２に示された環境配慮のための措置が講じられていること。（※４） ＜個別事項＞ ①オフセット印刷（備考１） ア．物由来の油を含有したインキ（備考２）であって、かつ、芳香族成分（備考３）が1%未満の溶剤のみを用いるインキが使用されていること。 イ．インキの化学安定性（※５）が確認されていること。 ②デジタル印刷（備考４） ア．電子写真方式（乾式トナーに限る。）にあっては、トナーカートリッジの化学安定性に係る判断の基準（「トナーカートリッジ」参照。）を満たすトナーが使用されていること。 イ．電子写真方式（湿式トナーに限る。）又はインクジェット方式にあっては、トナー又はインクの化学安定性（※５）が確認されていること。 ※１ 本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「印刷」は、紙製の報告書類、ポスター、チラシ、パンフレット等の印刷物を印刷する役務とし、文具類等他の品目として調達する場合を除く。ただし、他の品目として調達する場合にあっても、可能な限り本項の判断の基準を満たすよう努めること。 ※２ 印刷物リサイクル適性の表示等については、古紙再生促進センター作成、日本印刷産業連合会運用の「リサイクル対応型印刷物製作ガイドライン」を参考とすること。ただし、使用する材料に古紙リサイクル適正ランクが定められていない場合には、適用しないものとする。 ※３ 「リサイクル適性の表示」は、次の表現とすること。ただし、長期間にわたり保存・保管する等リサイクルを前提としない印刷物については、適用しないものとする。なお、古紙リサイクル適正ランク及び表示方法については、「リサイクル対応型印刷物政策ガイドライン」の検討結果を踏まえ、適切に見直しを行うものとする。 ア．Ａランクの材料のみ使用する場合は「印刷用の紙にリサイクルできます」 イ．ＡまたはＢランクの材料のみ使用（ア．の場合を除く）する場合は「板紙にリサイクルできます」 ウ．ＣまたはＤランクの材料を使用する場合は「リサイクルに適さない資材を使用しています」 ※４ 判断の基準＜共通事項＞④及び配慮事項②③④⑤については、日本印刷産業連合会作成の「日印産連『オフセット印刷サービスグリーン基準』

及び『グリーンプリンティング（GP）認定制度』ガイドライン」を参考とすること。

※５　判断の基準＜個別事項＞①イの「化学安定性」とは、次のア及びウを満たすことをいう。また、判断の基準＜個別事項＞②イの「化学安定性」とは、次のア又はイのいずれかを満たし、かつ、ウを満たすことをいう。

ア.印刷インキ工業連合会の「印刷インキに関する自主規制（NL 規制）」（平成 23 年９月１日改訂）に適合していること。

イ. 特定の化学物質（鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ポリブロモビフェニル並びにポリブロモジフェニルエーテル）が含有率基準値を超えないこと。特定の化学物質の含有率基準値については、JIS C0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書 A の表 A.1（特定の化学物質及び化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値を市、基準値を超える含有が許容される項目については、上記 JIS の附属書 B に準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについては JIS C 0950:2008 に準ずるものとする。

ウ. 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律の対象物質を特定していること（MSDS（化学物質等安全データシート）を備えていること。）。

【配慮事項】

①　印刷物の用途及び目的を踏まえ、可能な限り軽量化されていること。

②　デジタル化の推進等（DTP、CTP、DDCP方式の採用等）により廃棄物の発生が可能な限り抑制されていること。（備考４）

③　揮発性有機化合物（VOC）の発生抑制に配慮されていること。（備考４）

⑥ インキ缶やインク、トナー等の容器、観光ドラム等の資材・部品等が再用又はリサイクルされていること。（備考４）

⑤　印刷物の表紙の表面加工等への有害物質の発生原因となる物質の使用が可能な限り抑制されていること。（備考４）

⑥　紙の原料にバージンパルプが使用される場合にあっては、その原料の原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。ただし、間伐材により製造されたバージンパルプ及び合板・製材工場から発生する端材、林地残材・小径木等の再生資源により製造されたバージンパルプには適用しない。

⑦　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

※　調達時の留意事項

１　調達にあたっては、別表３の資材確認票を参考とし、使用される資材等について確認すること。なお、印刷物の長期使用、強度補強等のため光沢ラミネート等を行うことが望ましい場合もあることを勘案し、使用目的等にあった資材を適切に選択すること。

２　調達にあたっては、必要に応じ別表４のチェックリストを参考都市、印刷の各工程における基準について確認すること。

３　調達にあたっては、印刷物の必要な部数・量を適正に見積り、過大な発注とならないよう努めること。

備考）１　「オフセット印刷」とは、印刷版の印刷インキを転写体に転移し、さたにこれを紙などに再転移する印刷方式をいう。

２　「植物由来の油を含有したインキ」とは、植物由来の油含有量の比率が、インキの種類ごとに下表のとおり定める要件を満たすものをいう。

インキの種類	植物由来の油含有量比率
新聞オフ輪インキ	30%以上
ノンヒートオフ輪インキ	30%以上
枚葉インキ （ただし、金、銀、パール、白インキ）	20%以上 （10%以上）
ビジネスフォームインキ	20%以上
ヒートセットオフ輪インキ	7%以上
各種 UV インキ	7%以上

３　「芳香族成分」とは、JIS K2536 に規定されている石油製品の成分試験法をインキ溶剤に準用して検出される芳香族炭化水素化合物をいう。

４　「デジタル印刷」とは、無版印刷であって電子写真方式またはインクジェット方式による印刷方式をいう。

別表１　古紙リサイクル適性ランクリスト

	【Ａランク】	【Ｂランク】	【Ｃランク】	【Ｄランク】
	紙、板紙へのリサイクルにおいて阻害にならない	紙へのリサイクルには阻害となるが、板紙へのリサイクルには阻害とならない	紙、板紙へのリサイクルにおいて阻害になる	微量の混入でも除去することが出来ないため、紙、板紙へのリサイクルが不可能になる
①紙	【普通紙】 アート紙／コート紙／上質紙／中質紙／更紙	－	－	－
	【加工紙】 抄色紙（A）*／ファンシーペーパー（A）*／樹脂含浸紙（水溶性のもの）	【加工紙】 抄色紙（B）*／ファンシーペーパー（B）*／ポリエチレン等樹脂コーティング紙／ポリエチレン等樹脂ラミネート紙／グラシンペーパー／インディアペーパー	【加工紙】 抄色紙（C）*／ファンシーペーパー（C）*／樹脂含浸紙（水溶性のものを除く）／硫酸紙／ターポリン紙／ロウ紙／セロハン／合成紙／カーボン紙／ノーカーボン紙／感熱紙／圧着紙	【加工紙】 捺染紙／昇華転写紙／感熱性発泡紙／芳香紙
②インキ類	【通常インキ】 凸版インキ／平版インキ（オフセットインキ）／溶剤型グラビアインキ／溶剤型フレキソインキ／スクリーンインキ	【通常インキ】 水性グラビアインキ／水性フレキソインキ	－	－

	【特殊インキ】 リサイクル対応型UVインキ☆／オフセット用金・銀インキ／パールインキ／OCRインキ（油性）	【特殊インキ】 ＵＶインキ／グラビア用金・銀インキ／OCR ＵＶインキ／ＥＢインキ／蛍光インキ	【特殊インキ】 感熱インキ／減感インキ／磁性インキ	【特殊インキ】 昇華性インキ／発泡インキ／芳香インキ
	【特殊加工】 ＯＰニス	―	―	―
③加工資材	【製本加工】 製本用針金／ホッチキス等／難細裂化EVA系ホットメルト☆／PUR系ホットメルト☆／水溶性のり	【製本加工】 製本用糸／ＥＶＡ系ホットメルト	【製本加工】 クロス貼り（布クロス、紙クロス）	―
	【表面加工】 光沢コート(ニス引き、プレスコート)	【表面加工】 光沢ラミネート（ＰＰ貼り）／ＵＶコート、ＵＶラミコート／箔押し	―	―
	【その他加工】 リサイクル対応型シール（全離解可能粘着紙）☆	【その他加工】 シール（リサイクル対応型を除く）	【その他加工】 立体印刷物（レンチキュラーレンズ使用）	―
④その他	―	【異物】 粘着テープ（リサイクル対応型）	【異物】 石／ガラス／金物（製本用ホッチキス、針金等除く）／土砂／木片／プラスチック類／布類／建材（石こうボード等）／不織布／粘着テープ（リサイクル対応型を除く）	【異物】 芳香付録品（芳香剤、香水、口紅等）

備考）１　☆印の資材（難細裂化EVA系ホットメルト、PUR系ホットメルト、リサイクル対応型UVインキ、リサイクル対応型シール）は、日本印刷産業連合会の「リサイクル対応型印刷資材データベース」に掲載されていることを確認すること。

２　＊印の資材（抄色紙、ファンシーペーパー）は、環境省の「グリーン購入法.net」に掲載されている各製品のリサイクル適性を確認すること。

別表２　オフセット印刷又はデジタル印刷に関連する印刷の各工程における環境配慮項目及び基準

工程		項　　目	基　　準
製版		デジタル化	工程のデジタル化（DTP化）率が50%以上であること。
		廃液及び製版フィルムからの銀回収	製版フィルムを使用する工程において、廃液及び製版フィルムから銀の回収を行っていること。
刷版		印刷版の再使用又はリサイクル	印刷版（アルミ基材のもの）の再使用又はリサイクルを行っていること。
印刷	オフセット	VOCの発生抑制	廃ウェス容器や洗浄剤容器に蓋をする等の VOC の発生抑制策を講じていること。
			輪転印刷工程の熱風乾燥印刷の場合にあっては、VOC処理装置を設置し、適切に運転管理していること。
		製紙原料へのリサイクル	損紙等（印刷工程から発生する損紙、残紙）の製紙原料へのリサイクル率が80%以上であること。
	デジタス	印刷機の環境負荷低減	省電力機能の活用、未使用時の電源切断など、省エネルギー活動を行っていること。
		製紙原料等へのリサイクル	損紙等（印刷工程から発生する損紙、残紙）の製紙原料等へのリサイクル率が80%以上であること。
表面加工		VOCの発生抑制	アルコール類を濃度30%未満で使用していること。
		製紙原料等へのリサイクル	損紙等（光沢加工工程から発生する損紙、残紙、残フィルム）の製紙原料等へのリサイクル率が80%以上であること。
製本加工		騒音・振動抑制	窓、ドアの開放を禁止する等の騒音・振動の抑制策を講じていること。
		製紙原料へのリサイクル	損紙等（製本工程から発生する損紙）の製紙原料へのリサイクル率が70%以上であること。

備考）　１　本基準は、印刷役務の元請、下請を問わず、印刷役務の主たる工程を行う者に適用するものとし、オフセット印刷又はデジタル印刷に関連する印刷役務の一部の工程を行う者には適用しない。

２　製版工程においては、「デジタル化」又は「廃液及び製版フィルムからの銀回収」のいずれかを満たせばよいこととする。

３　製版工程の「銀の回収」とは、銀回収システムを導入している又は銀回収システムを有するリサイクル事業者、廃棄物回収業者に引き渡すことをいう。なお、廃液及び製版フィルムからの銀の回収は、技術的に不可能な場合を除き、実施しなければならない。

４　刷版工程の印刷版の再使用又はリサイクル（品質の低下を伴わず、同じ製品に再生するリサイクルを含む）は、技術的に不可能な場合を除き、実施しなければならない。

５　オフセット印刷工程における「VOCの発生抑制」、デジタル印刷工程における「印刷機の環境負荷低減」及び製本加工工程における「騒音・振動抑制」については、当該対策を実施するための手順書等を作成・運用している場合に適合しているものとみなす。

６　デジタル印刷工程、表面加工工程の「製紙原料等へのリサイクル」には、製紙原料へのリサイクル以外のリサイクル（RPFへの加工やエネルギー回収等）を含む。

別表３　資材確認票の様式（例）

作成年月日：　　　年　　月　　日

御中

件名：

資　材　確　認　票

〇〇印刷株式会社

印刷資材		使用有無	リサイクル適性ランク	資材の種類	製造元・銘柄名	備考
用紙	本文	〇	A	上質紙	〇〇製紙／〇〇	
	表紙	〇	A	コート紙	〇〇製紙／〇〇	
	見返し	〇	A	上質紙	〇〇製紙／〇〇	
	カバー	―	―			
インキ類		〇	A	平版インキ	〇〇インキ／〇〇	
加工	製本加工	〇	A	PUR系ホットメルト	〇〇化学／〇〇	
	表面加工	〇	A	OPニス	〇〇化学／〇〇	
	その他加工	―	―			
その他						

↓

使用資材	リサイクル適性	判別
Ａランクの資材のみ使用	印刷用の紙にリサイクルできます	〇
ＡまたはＢランクの資材のみ使用	板紙にリサイクルできます	
ＣまたはＤランクの資材を使用	リサイクルに適さない資材を使用しています	

備考）１　資材確認票に記入する印刷資材は、最新の「リサイクル対応型印刷物製作ガイドライン」に掲載された古紙リサイクル適性ランクリストを参照すること。

２　古紙リサイクル適正ランクが定められていない用紙、インキ類等の資材を使用する場合は、「リサイクル適正ランク」の欄に「ランク外」と記載すること。

３　内容に関する問合せに当たって必要となる項目や押印等の要否については、様式の変更等を行うことができる。

別表４　オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト様式（例）

作成年月日：　　　年　　月　　日

御中

オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト

〇〇印刷株式会社

<table>
<tr><th colspan="2">工程</th><th>実　現</th><th>基　準（要求内容）</th></tr>
<tr><td colspan="2">製版</td><td>はい／いいえ</td><td>①次のＡ又はＢのいずれかを満たしている。
Ａ　工程のデジタル化（DTP 化）率が 50%以上である。
Ｂ　製版フィルムを使用する工程において、廃液及び製版フィルムから銀の回収を行っている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">刷版</td><td>はい／いいえ</td><td>②印刷版（アルミ基材のもの）の再使用又はリサイクルを行っている。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">印刷</td><td rowspan="3">オフセット</td><td>はい／いいえ</td><td>③廃ウェス容器や洗浄剤容器に蓋をする等の VOC の発生抑制策を講じている。</td></tr>
<tr><td>はい／いいえ</td><td>④輪転印刷工程の熱風乾燥印刷の場合にあっては、VOC 処理装置を設置し、適切に運転管理している。</td></tr>
<tr><td>はい／いいえ</td><td>⑤損紙等（印刷工程から発生する損紙、残紙）の製紙原料へのリサイクル率が 80%以上である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">デジタル</td><td>はい／いいえ</td><td>⑥省電力機能の活用、未使用時の電源切断など、省エネルギー活動を行っている。</td></tr>
<tr><td>はい／いいえ</td><td>⑦損紙等（印刷工程から発生する損紙、残紙）の製紙原料等へのリサイクル率が 80%以上である。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">表面加工</td><td>はい／いいえ</td><td>⑧アルコール類を濃度 30%未満で使用している。</td></tr>
<tr><td>はい／いいえ</td><td>⑨損紙等（光沢加工工程から発生する損紙、残紙、残フィルム）の製紙原料等へのリサイクル率が 80%以上である。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">製本加工</td><td>はい／いいえ</td><td>⑩窓、ドアの開放を禁止する等の騒音・振動の抑制策を講じている。</td></tr>
<tr><td>はい／いいえ</td><td>⑪損紙等（製本工程から発生する損紙）の製紙原料へのリサイクル率が70%以上である。</td></tr>
</table>

備考）　内容に関する問合せに当たって必要となる項目や押印等の要否については、様式の変更等を行うことができる。

２０－３ 食堂

品目	判断の基準等
食堂	【判断の基準】 ○　庁舎又は敷地内において委託契約等により営業している食堂にあっては、次の要件を満たすこと。 ①　生ゴミを減容及び減量する等再生利用に係る適正な処理が行われるものであること。 ②　繰り返し利用できる食器が使われていること。 ※　会議等において提供される飲物等を庁舎又は敷地内において委託契約等により営業している食堂・喫茶店等の飲食店から調達する場合は、本項の判断の基準を準用する。 【配慮事項】 ①　生ゴミ処理機等による処理後の生成物は肥料化、飼料化又はエネルギー化等により再生利用されるものであること。 ②　生分解性の生ゴミ処理袋又は水切りネットを用いる場合は、生ゴミと一緒にコンポスト処理されること。 ③　食堂で使用する食材は、地域の農林水産物の利用（※）の促進に資するものであること。 ④　修繕することにより再使用可能な食器、又は再生材料が使用された食器が使われていること。 ⑤　再使用のために容器包装の返却・回収が行われていること。 ※　「地域の農林水産物の利用」とは、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（平成22年法律第67号）第25条の趣旨を踏まえ、国内の地域で生産された農林水産物をその生産された地域内において消費すること及び地域において供給が不足している農林水産物がある場合に他の地域で生産された当該農林水産物を消費することをいう。

２０－４ 自動車専用タイヤ更生

品目	判断の基準等
自動車専用タイヤ更生 （※）	【判断の基準】 ○ 次のいずれかの要件を満たすこと。 ① 第一寿命を磨耗終了した自動車専用タイヤの台タイヤ（ケーシング）に、踏面部のゴムを張り替えて機能を復元し、更生タイヤとして第二寿命における使用を可能にするものであること。 ② 再生することなく再溝切り（リグルーブ）が可能であること。 ※ 本項の判断の基準（グリーン購入）の「自動車専用タイヤ更生」において対象とするタイヤは、「小型トラック用タイヤ」「トラック及びバス用タイヤ」「産業車両用タイヤ」及び「建設車両用タイヤ」とする。 ※ JIS K 6329（更生タイヤ）に適合する更生タイヤは、判断の基準①を満たす。 【配慮事項】 ① ラジアル構造の推奨等製品の長寿命化に配慮されていること。 ② 走行時の静粛性の確保に配慮されていること。 ③ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

２０－５ 自動車整備

品目	判断の基準等
自動車整備 ※「自動車」とは、普通自動車、小型自動車及び軽自動車(ただし、二輪車は除く。)をいう。	【判断の基準】 ① 自動車リサイクル部品（リユース部品（使用済自動車から取外され、品質確認及び清掃等を行い商品化された自動車部品をいう。）又はリビルド部品（使用済自動車から取り外され、磨耗又は劣化した構成部品を交換、再組み立て、品質確認及び清掃等を行い商品化された自動車部品をいう。）をいう。）が使用されていること。（※１、※２） ② エンジン洗浄（※３）を実施する場合にあっては、以下の要件を満たすこと。（※４） ア. 大気汚染物質（炭化水素及び一酸化炭素）がエンジン洗浄実施前後において、20%以上削減されること。 なお、エンジン洗浄を実施すべき自動車の状態については、大気汚染物質の発散防止のために通常必要となる整備の実施後において、炭化水素測定器及び一酸化炭素測定器による炭化水素及び一酸化炭素の測定結果が、別表の区分ごとの値を超える場合とする。（※５） イ. エンジン洗浄の実施直後及び法定12ヶ月点検において判断の基準の効果を確認し、通常必要となる整備が適切に実施されており、かつエンジン洗浄実施前の測定値から20%以上削減されていなかった場合、無償で再度エンジン洗浄を実施する等の補償を行う体制が確保されていること。（※６） ※１ 本項の判断の基準①は、定期点検整備のほか、故障、事故等による自動車修理等を行うために、自動車整備事業者等に発注する役務であって、部品交換を伴うもの（消耗品の交換を除く。）を対象とする。 ※２ 部品の種類により、商品のないもの又は適時での入手が困難な場合においては、新品部品のみによる整備についても本項の集計の対象とする。 ※３ 本項の判断の基準②の対象とする「エンジン洗浄」は、炭化水素測定器及び一酸化炭素測定器による測定を伴う定期点検整備等を行うため自動車整備事業者等に発注する役務であって、表の基準を超える場合に実施する自動車のエンジン燃焼室の洗浄により内部に蓄積されたカーボン・スラッジ等を取り除くものをいう。 ※４ 本項の判断の基準②については、ガソリンを燃料とする普通自動車、小型自動車及び軽自動車（2 サイクル・エンジンを有するこれらのものを除く）を対象とする。 ※５ 本項の判断の基準②アのエンジン洗浄を実施すべき排出ガスの基準は、大気汚染防止法に基づく自動車排出ガスの量の許容限度（昭和 49 年 1 月 21 日環境庁告示第 1 号）による。 ※６ エンジン洗浄を実施していない自動車整備事業者や自動車販売事業者からの当該作業の依頼については、対応を図る体制が確保されていること。 【配慮事項】 ① エンジン洗浄の環境負荷低減効果に係る情報の収集・蓄積が図られていること。また、エンジン洗浄に関する環境負荷低減効果や費用等に係る詳細な情報提供を積極的に行うとともに、当該情報が開示されていること。 ② ロングライフクーラントの再利用に努めていること。 ③ 自動車整備に当たって、使用するエネルギーや溶剤等の資源の適正使用に努め、環境負荷低減に配慮されていること。 ④ 製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

別表 エンジン洗浄を実施すべき排出ガスの基準

自動車の種類	一酸化炭素（CO）	炭化水素（HC）
普通自動車、小型自動車	1%	300ppm
軽自動車	2%	500ppm

２０－６ 庁舎管理等

品目	判断の基準等
庁舎管理	【判断の基準】 ① 庁舎管理において使用する物品がグリーン購入対象品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。 ② 当該施設において実施すべき、次のアからエに関する措置等を選定するとともに、当該措置等に関連する設備・機器等の運転条件、計測頻度、保守・点検頻度、方法等の管理基準に基づき、実施状況を施設管理者に毎月報告すること。（※１、※２、※３） ア．温湿度の適切な設定及び管理がなされていること。 イ．照明効率を維持するための措置が講じられていること。 ウ．空気調和設備、熱源設備のエネルギー効率を維持するための措置が講じられていること。 エ．受変電設備、制御設備及び給排水衛生設備等について、適切な管理及び措置が講じられていること。 ③ 常駐管理（※４）にあっては、エネルギーの使用量、水の使用量及び廃棄物の排出量について施設管理者に毎月報告し、前月比又は前年同月比で著しく増加した場合は、施設管理者に次の提案が行われるものであること。また、使用量及び排出量が著しく減少した場合は、その要因についても検証すること。（※１、※３） ア．エネルギー使用量が増加した場合は、その要因分析及びその分析結果を踏まえた適切な省エネルギー対策（施設利用者（※５）と連携して行う省エネルギー対策を含む。）。 イ．水の使用量が増加した場合は、その要因分析及びその分析結果を踏まえた適切な節水対策（施設利用者と連携して行う節水対策を含む。）。 ウ．廃棄物の排出量が増加した場合は、その要因分析及びその分析結果を踏まえた適切な廃棄物排出抑制対策、省資源対策（施設利用者と連携して行う廃棄物排出抑制対策、省資源対策を含む。）。 ④ 常駐管理以外にあっては、エネルギーの使用量、水の使用量及び廃棄物の排出量が前月比又は前年同月比で著しく増加した場合は、施設管理者と協力してその要因分析を行ない、削減対策について提案が行われるものであること。また、使用量及び排出量が著しく減少した場合は、その要因についても検証すること。（※１、※３） ※１ 庁舎管理に係る判断の基準②、③及び④については、契約の対象となる業務の範囲に当該基準に関連する内容が含まれる場合に適用するものとする。 ※２ 庁舎管理に係る判断の基準②の施設において実施すべき措置等は、当該施設の管理形態、建物の規模、設備・機器等の利用状況を勘案し、施設管理者と協議の上、別表を参考として選定するものとする。 ※３ 庁舎管理に係る判断の基準②、③及び④については、施設の改修、大規模な設備・機器の更新・導入等の措置・対策は含まれないものとする。 ※４ 「常駐管理」とは定められた時刻において、業務実施者が常駐し、常時施設の運転・監視及び日常点検・保守等の業務にあたる管理形態をいう。 ※５ 「施設利用者」とは、入居者又は来庁者をいう。 【配慮事項】 ① エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に基づく「工場又は事業場におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準（経済産業省告示第65号（平成18年3月29日）」を踏まえ、建築物衛生法に基づく、建築物環境衛生管理基準等に配慮の上、庁舎におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。

	②　施設のエネルギー管理、使用実態に関する分析・評価に当たっては、各種管理・評価ツールの活用に努めていること。 ③　庁舎管理に空気調和設備のメンテナンスを含む場合にあっては、冷媒として用いられるフロン類の漏洩の防止及び充填等作業に伴う大気放出の抑制に努めていること。 ④　庁舎管理において使用する物品の調達に当たっては、特定調達品目に該当しない場合であっても、資源採取から廃棄に至るライフサイクル全体についての環境負荷の低減に考慮するよう努めていること。
植栽管理 （※１）	【判断の基準】 ①　植栽管理において使用する物品がグリーン購入対象品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。 ②　病害虫予防として、適切な剪定や刈込みを行って通風をよくし、日照等を確保するとともに、適切な防除手段を用いて、害虫や雑草の密度を低いレベルに維持する総合的病害虫・雑草管理を行う体制が確保されていること。（※２）（備考） ③　農薬の使用の回数及び量の削減に努めているとともに、農薬取締法に基づいて登録された適正な農薬を、ラベルに記載されている使用方法（使用回数、使用量、使用濃度等）及び使用上の注意事項を守って、適正かつ効果的に使用されるものであること。（備考） ※１　本項の判断の基準の対象とする「植栽管理」とは、庁舎周辺等の植栽地及び屋上緑化等の管理とする。 ※２　植栽管理に係る判断の基準②の「総合的病害虫・雑草管理を行う体制」とは、発生状況等の調査、被害の早期発見、剪定や捕殺などの物理的防除も含めた防除方法の選択等、経済性を考慮しつつ健康と環境への負荷の軽減を総合的に講じる体制をいう。 【配慮事項】 ①　灌水の雨水利用に配慮されていること。 ②　剪定・除草において発生した、小枝・落葉等の処分について、堆肥化等の環境負荷低減が図られていること。 ③　施肥に当たっては、植栽管理において発生した落葉等からできた堆肥（土壌改良材）が使用されていること。 ④　植替え等が生じた場合、既存の植栽を考慮し、病害虫の発生しにくい樹種の選定等について、施設管理者への提案が行われること。 ⑤　植栽管理に当たり、使用する機材・器具等については、可能な限り環境負荷低減策が講じられていること。 ⑥　植栽管理に当たり、可能な限り、再使用又は再生利用可能であって、土の代替となる植込み材の使用に努めていること。

備考）　植栽管理に係る判断の基準②及び③については、農薬の使用に係る施設管理者や周辺地域への情報提供、農薬の飛散防止、適正使用の記録の保持等、「住宅地等における農薬使用について（平成 25 年 4 月 26 日付 25 消安第 175 号環水大土発第 1304261 号農林水産省消費・安全局長、環境省水・大気環境局長連名通知）」に準拠したものであること。

清掃	【判断の基準】 ① 清掃において使用する物品がグリーン購入対象品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。 ② 洗面所の手洗い洗剤として石けん液又は石けんを使用する場合には、資源有効利用の観点から、廃油又は動植物油脂を原料とした石けん液又は石けんが使用されていること。 ③ ごみの収集は、資源ごみ（紙類、缶、びん、ペットボトル等）、生ごみ、可燃ごみ、不燃ごみを分別し、適切に回収が実施されていること。 ④ 資源ごみのうち、紙類については、古紙のリサイクルに配慮した分別・回収が実施されていること。また、分別が不徹底であった場合や排出量が前月比又は前年同月比で著しく増加した場合は、施設管理者と協力して改善案の提示がなされること。（備考１） ⑤ 清掃に使用する床維持剤（ワックス）、洗浄剤等の揮発性有機化合物の含有量が指針値以下であること。（備考２） ⑥ 環境負荷低減に資する技術を有する適正な事業者であり、より環境負荷低減が図られる清掃方法等について、具体的提案が行われていること。（備考３） 【配慮事項】 ① 清掃に用いる床維持剤、洗浄剤等は、使用量削減又は適正量の使用に配慮されていること。 ② 補充品等は、過度な補充を行わないこと。 ③ 洗剤を使用する場合は、清掃用途に応じ適切な水素イオン濃度（pH）のものが使用されていること。（備考４） ④ 清掃に使用する床維持剤、洗浄剤等については、可能な限り指定化学物質を含まないものが使用されていること。（備考５） ⑤ 清掃に当たって使用する電気、ガス等のエネルギーや水等の資源の削減に努めていること。 ⑥ 建物の状況に応じた清掃の適切な頻度を提案するよう努めていること。 ⑦ 清掃において使用する物品の調達に当たっては、特定調達品目に該当しない場合であっても、資源採取から廃棄に至るライフサイクル全体についての環境負荷の低減に考慮するよう努めること。

備考）１　清掃における判断の基準④の紙類の排出にあたって、調達を行う各機関は、庁舎等における紙類の使用･廃棄の実態を勘案しつつ、別表１及び２を参考とし、清掃事業者等と協議の上古紙排出に当たっての分類を定め、古紙再生の阻害要因となる材料の混入を排除して、分別を徹底すること。印刷物について、印刷役務の判断の基準を満たしたリサイクル対応型印刷物は、紙向けの製紙原料として使用されるよう、適切に分別すること。

２　清掃における判断の基準⑤の揮発性有機化合物の指針値については、厚生労働省の定める室内濃度指針値に基づくものとする。

３　清掃における判断の基準⑥の環境負荷低減が図られる清掃方法等とは、汚染度別の清掃方法の採用、室内環境の汚染前に除去する予防的清掃方法の採用、清掃用機材の性能維持による確実な汚染除去の実施等をいう。

４　清掃の配慮事項③については、家庭用品品質表示法に基づく水素イオン濃度（pH）の区分を参考とすること。なお、床維持剤及び床用洗浄剤については、原液で pH5～pH9 が望ましい。

５　清掃の配慮事項④の「指定化学物質」とは、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律の対象となる物質をいう。

機密文書処理	【判断の基準】 ①　当該施設において排出される紙の種類や量を考慮し、施設の状況に応じた分別方法及び処理方法の提案がなされ、製紙原料として適切な回収が実施されること。 ②　機密文書の処理にあたっては、排出･一時保管、回収、運搬、処理の各段階において、機密漏洩に対する適切な対策を講じたうえで、製紙原料としての利用が可能となるよう次の事項を満たすこと。 ア．古紙再生の阻害となるものを除去する設備や体制が整っていること。 イ．直接溶解処理にあたっては、異物除去システムが導入された設備　　において処理されること。 ウ．破砕処理にあたっては、可能な限り紙の繊維が保持される処理が行われること。 ③　適正処理が行われたことを示す機密処理完了証明書を発注者に提示できること。（※） ※　判断の基準③の「機密処理完了証明書」とは、回収された機密文書が機密抹消処理後に製紙原料として使用されたことを証明する書類をいう。なお、この証明書は溶解、破砕などの処理を事業者に委託した場合に提示されるものであり、調達を行う各機関内でシュレッダー処理を行ったシュレッダー屑についてはこの限りではない。 【配慮事項】 ①　機密文書の発生量を定期的に集計し、発注者への報告がなされること。 ②　紙（印刷・情報用紙及び衛生用紙）として再生可能な処理が行われること。 ③　運搬にあたっては、積載方法、搬送方法、搬送ルートの効率化が図られていること。 ④　可能な限り低燃費・低公害車による運搬が行われること。 ※留意事項 １　廃棄書類の排出にあたって機密の度合や必要性を考慮し、可能な限り機密文書として排出する量の削減に努めること。 ２　次の事項に十分留意すること。 ア．判断の基準②の破砕処理の発注にあたっては、裁断紙片の大きさについて確認を行うこと（古紙の再生においては、裁断した紙片が望まれる機密性の範囲において、より大きい方が望ましい。事業者による裁断紙片サイズの目安は 10mm×50mm 以上）。 イ．庁舎等内におけるシュレッダー処理は、一般的に古紙原料としての利用適性が低下することから、機密の度合いや必要性を考慮して行うこと。シュレッダー屑は廃棄・焼却せず、紙の種類に応じて適切に製紙原料として使用されるよう、古紙回収業者や機密文書処理事業者等に回収・処理を依頼するよう努めること（古紙として再生に適した紙幅の目安は 5mm 以上）。

別表１

古紙の分別方法（例）

分類	品目
新聞	新聞（折込チラシを含む）
段ボール	段ボール
雑誌	ポスター、チラシ 雑誌、報告書、カタログ、パンフレット、書籍、ノートなど冊子形状のもの
OA 用紙	コピー用紙及びそれに準ずるもの
リサイクル対応型印刷物	「印刷用の紙にリサイクルできます」の印刷物（Ａランクの材料のみ使用）
	「板紙にリサイクルできます」の印刷物（ＡまたはＢランクの材料のみ使用）
その他雑がみ	封筒、紙箱、DM、メモ用紙、包装紙など上記以外の紙
シュレッダー屑	庁舎等内において裁断処理した紙

備考）　「リサイクル対応型印刷物」とは、印刷に係る判断の基準（印刷参照）に示された印刷物のリサイクル適性が表示された印刷物をいう。

別表２

古紙再生の阻害要因となる材料（例）

分類	種類
紙製品	粘着物の付いた封筒
	防水加工された紙
	裏カーボン紙、ノーカーボン紙（宅配便の複写伝票など）
	圧着はがき
	感熱紙
	写真、インクジェット写真プリント用紙、感光紙
	プラスチックフィルムやアルミ箔などを貼り合わせた複合素材の紙
	金・銀などの金属が箔押しされた紙
	臭いの付いた紙（石けんの個別包装紙、紙製の洗剤容器、線香の紙箱等）
	捺染紙（昇華転写紙、アイロンプリント紙等）
	感熱発泡紙
	合成紙
紙以外	粘着テープ類
	ワッペン類
	ファイルの金属
	金属クリップ類
	フィルム類
	発泡スチロール
	セロハン
	プラスチック類
	ガラス製品
	布製品

害虫防除 （※）	【判断の基準】 ①　害虫防除において使用する物品がグリーン購入対象品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。 ②　殺そ剤及び殺虫剤の乱用を避け、生息状況等の調査を重視した総合的な防除措置が講じられていること。 ③　害虫等の発生・侵入を防止するための措置が講じられていること。 ④　防除作業にあたり、事前計画や目標が設定されていること。また、防除作業後に、効果判定（確認調査、防除の有効性評価等）が行われていること。 ⑤　殺そ剤又は殺虫剤の使用に当たっては、薬事法上の製造販売の承認を得た医薬品又は医薬部外品を使用し、使用回数・使用量・使用濃度等、適正かつ効果的に行われていること。 ※　本項の判断の基準（グリーン購入）と対象とする「害虫防除」は、建築物における衛生的環境の確保に関する法律を基本に、庁舎等のねずみ・昆虫、外来生物等その他人の健康を損なう事態を生じさせるおそれのある動物等の防除とする。 【配慮事項】 ○生息状況等に応じた適切な害虫防除方法等を提案するよう努めていること。

別　表

庁舎管理・利用に係る省エネルギー対策例

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例） 常駐管理	管理基準（例） 常駐管理以外	①日常・定期点検	②利用者の協力	③管理運用面
受変電設備	受変電室の室内温度の見直し	季節ごとに実施	—			○
	デマンドの状況により手動によるこまめな調節	随時実施	—			○
	進相用コンデンサによる力率管理の徹底（手動の場合）	随時実施	—	○		
照明設備	作業スペースの過剰照明、窓際の間引き	利用状況に応じ実施	利用状況に応じ実施		○	
	廊下・ホールの消灯、間引きの徹底	利用状況に応じ実施	利用状況に応じ実施		○	
	トイレ・給湯室不在時の消灯	毎日実施	—		○	
	空室・倉庫等の消灯	毎日実施	適宜実施			○
	昼休みの消灯	毎日実施	—		○	
	残業時間帯における部分消灯、場所の集約化	毎日実施	—		○	
	始業点灯時間の短縮・制限	毎日実施	—		○	
	器具の清掃による照明効率の向上	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
	定期的なランプ交換の実施	１回／２～３年	１回／２～３年			○
	間仕切りの取り止め	適宜実施	—		○	
	OA ルーバーの取り止め	適宜実施	—		○	
	机の配置、作業個所の適正化	適宜実施	—		○	
	ソーラータイマーのこまめな調整	月１回以上実施	月１回以上実施			○
	局部照明の採用	随時実施	—		○	
	手動によるこまめな点消灯	随時実施	—		○	
搬送設備	エレベータ・エスカレータの運転間引き	毎日実施	—			○
	階段利用の促進	毎日実施	—		○	
	停止階の間引き	毎日実施	—			○
	庁舎内配送共同化の実施	毎日実施	—		○	
給排水・衛生設備	給湯時間の制限と給湯範囲の縮小	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施		○	
	夏期における手洗い場等の給湯の停止	当該期間毎日実施	当該期間適宜実施			○
	給湯温度の設定変更	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			○
	使用上、支障の無い範囲で給水・給湯の分岐バルブを絞込み	適宜実施	適宜実施			○
給排気設備	機械室、電気室、倉庫の換気量の制限	随時実施	随時実施	○		

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		①日常・定期点検	②利用者の協力	③管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
	不使用室の換気停止（倉庫、機械室等）	適宜実施	適宜実施			○
	窓の開閉による自然換気の採用	季節・外気温に応じ実施	－		○	
	ファンベルトの点検・交換	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
熱源・空調設備共通	室内設定温湿度条件の変更	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施		○	
	運転時間の短縮など機器の起動・停止期間の最適化	毎日実施	季節ごとに実施	○		
	季節毎・室内負荷状況に応じた運転方法の最適化	週１回以上実施	季節ごとに実施			○
	空調終了前に関連補機（外調機・熱源機器）などの停止の励行	毎日実施	－	○		
	インテリア・ペリメータの年間冷暖房の取り止め	季節・外気温に応じ実施	－			○
	温湿度センサの取付位置の適正化	適宜実施	適宜実施	○		
	吹出し口の位置、方向の調整による温度分布均一化	適宜実施	適宜実施	○		
	冷暖房期間の短縮化	季節・外気温に応じ実施	－		○	
	空室・倉庫等の空調換気の停止	適宜実施	適宜実施			○
	運転時間の短縮	毎日実施	－			○
	残業時間帯の空調制限	毎日実施	－		○	
	ブラインド・カーテンの休日前の閉止による休日明けの空調負荷の低減	毎日実施	－		○	
	早朝・深夜の清掃作業における空調制限	毎日実施	－			○
	空調時間帯の扉・窓開放の禁止	季節・外気温に応じ実施	－		○	
	空調の障害となる間仕切り・家具の配置の変更	随時実施	－		○	
	共用部の温度設定を居室よりも緩和する措置の実施	毎日実施	季節ごとに実施			○
	個人差による衣服の調整など居室者に対する啓蒙活動の実施	季節ごとに実施	季節ごとに実施		○	
	夏季における屋上等への散水の実施（気化熱による打ち水効果）	当該期間外気温に応じ実施	－			○
個別空調機	各種センサを含む自動制御装置の適正保守の実施	随時実施	随時実施	○		
	エアーフィルタの定期清掃の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		①日常・定期点検	②利用者の協力	③管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
	冷温水フィンコイルの定期清掃の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	空調の還気、吹出し口の障害物の撤去	随時実施	―	○		
	ウォーミングアップ制御の採用	毎日実施	―			○
	空調立ち上げ時に対し定常運転後に設定温度を２℃～３℃上げる又は下げる措置の実施	季節・外気温に応じ実施	―			○
	窓の開閉による自然換気の採用	季節・外気温に応じ実施	―		○	
	ナイトパージの実施	季節・外気温に応じ実施	―			○
	ショートサーキットの防止	随時実施	随時実施			○
	スケジュール運転の実施	随時実施	随時実施			○
	ダクトのエアー漏れ・水漏れ・保温材の脱落等について保守管理の徹底	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
	全熱交換器の清掃管理	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	全熱交換器の停止措置	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			○
	ゼロエナジーバンドの最適化	毎日実施	―			○
セントラル空調システム関連	省エネ温度管理の実施（冷水は高め、温水は低め）	毎日実施	―			○
	冷温水の大温度差運転の制御運転の実施（ポンプの搬送動力の低減）	随時実施	―			○
	冷温水・冷却水の定期的な水質管理の実施（熱伝導率低下の防止）	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	空調終了３０分程度前での熱源機器の停止	毎日実施	―			○
ボイラ	空気比・排ガス温度等燃焼装置の最適化の実施	随時実施	随時実施			○
	伝熱面の清掃・スケール等の除去	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
	熱交換器類の伝熱面の管理	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	ボイラーの水質管理	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	蒸気トラップの機能維持（ドレンの回収）の実施	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	機器の COP 値（効率）の管理	随時実施	―	○		
冷凍機	冷凍機の運転圧力の適正管理	随時実施	随時実施	○		
	蒸発器・凝縮器の薬洗・ブラシ清掃などのチューブ内部洗浄の実施	適宜実施	適宜実施	○		
	温度計・圧力計などの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		①日常・定期点検	②利用者の協力	③管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
	マノメーター・センサーなどの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	機器の COP 値（効率）の管理	随時実施	―	○		
冷温水発生機・吸収式冷凍機	機内の機密の適正な維持管理	随時実施	随時実施	○		
	蒸発器・凝縮器の薬洗・ブラシ清掃などのチューブ内部洗浄の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	温度計・圧力計などの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	マノメーター・センサーなどの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	機器の COP 値（効率）の管理	随時実施	―	○		
冷却塔	充填材の汚れ、水質の汚れ等の管理	随時実施	随時実施	○		
	冷却塔水槽の清掃	随時実施	随時実施	○		
	冷却水の薬注管理の実施	随時実施	随時実施	○		
ポンプ関連	二次ポンプの起動・停止・圧力・流量の最適化の実施	随時実施	―	○		
	グランドパッキン等の水量適正管理の実施	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	断熱材の状態管理	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	３管・４管式設備の場合、状況に応じた運転停止などの実施	随時実施	―	○		
蓄熱槽	蓄熱槽における水・氷蓄熱量の最適化運転の実施	随時実施	―			○
	槽内温度分布の適正管理	随時実施	―			○
ファンコイル	ペリメータ用ファンコイルの運転最適化(時間帯・設定温度)	季節・外気温に応じ実施	―	○		
	エアーフィルタの定期的な清掃	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	冷温水フィンコイルの定期的な清掃	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	空調の還気、吹出し口の障害物の撤去	随時実施	―	○		
空冷ヒートポンプ	室外機フィンコイルの定期的な洗浄	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
	室内機フィンコイルの定期的な洗浄	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
	室内機のエアーフィルタの定期的な清掃	月１回以上実施	月１回以上実施	○		

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		①日常・定期点検	②利用者の協力	③管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
	運転圧力・運転電流などによる運転状況の確認・管理	毎日実施	―	○		
	全熱交換器の清掃	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	全熱交換器の停止措置	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			○
水冷パッケージ方式	室内機フィンコイルの定期的な洗浄	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
	エアーフィルタの定期的な清掃	月１回以上実施	月１回以上実施	○		
	運転圧力・運転電流などによる運転状況の確認・管理	毎日実施	―	○		
	全熱交換器の清掃	年２回以上実施	年２回以上実施	○		
	全熱交換器の停止措置	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			○
	冷却水薬洗の実施	年１回以上実施	年１回以上実施	○		
その他	自動販売機の節電（照明を消灯・夜間運転停止時）の実施	毎日実施	―			○
	OA 機器は昼休み等にスイッチを OFF	毎日実施	―		○	
	ブラインド・カーテンの有効利用	毎日実施	―		○	
	省エネに必要なエネルギーデータの把握	毎日実施	月１回以上実施	○		

注：「①日常・定期点検」は日常点検・定期点検業務で実施可能な項目
「②利用者の協力」は施設利用者（入居者、来庁者）に協力を求めることにより実施可能な項目
「③管理・運用面」は設備・機器等の管理・運用面において実施可能な項目

２０－７　輸配送

品目	判断の基準等
輸配送 （※１）	【判断の基準】 ①　エネルギーの使用の実態、エネルギーの使用の合理化に係る取組効果の把握が定期的に行われていること。 ②　エコドライブ（※２）を推進するための措置が講じられていること。（※３） ③　大気汚染物質の排出削減、エネルギー効率を維持する等の環境の保全の観点から車両の点検・整備を実施していること。（※４） ④　モーダルシフト（※５）を実施していること。 ⑤　輸配送効率の向上のための措置が講じられていること。（※６） ⑥　上記①については使用実態、取組効果の数値が、上記②から⑤については実施の有無がウエブサイトを始め環境報告書（※７）等により公表され、容易に確認できること、又は第三者により客観的な立場から審査されていること。 ※１　本項の判断の基準（グリーン購入）の対象とする「輸配送」とは、国内向けの信書、宅配便、小包郵便物（一般、冊子等）及びメール便をいう。 ア.「信書」とは、特定の受取人に対し、差出人の意思を表示し、又は事実を通知する文書をいう。 イ.「宅配便」とは、一般貨物自動車運送事業の特別積合せ貨物運送又はこれに準ずる貨物の運送及び利用運送事業の鉄道貨物運送、内航海運、貨物自動車運送、航空貨物運送のいずれか又はこれらを組み合わせて利用する運送であって、重量30kg 以下の一口一個の貨物をいう。 ウ.「メール便」とは、書籍、雑誌、商品目録等比較的軽量な荷物を荷送人から引き受け、それらを荷受人の郵便受箱等に投函することにより運送行為を終了する運送サービスであって、重量 1kg 以下の一口一冊の貨物をいう。 ※２　「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」（平成 24 年 10 月）に基づく運転をいう。 （参考）①ふんわりアクセル『ｅスタート』②車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転③減速時は早めにアクセルを離そう④エアコンの使用は適切に⑤ムダなアイドリングはやめよう⑥渋滞を避け、余裕をもって出発しよう⑦タイヤの空気圧から始める点検・整備⑧不要な荷物はおろそう⑨走行の妨げとなる駐車はやめよう⑩自分の燃費を把握しよう ※３　判断の基準②の「エコドライブを推進するための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。 ア．エコドライブについて運転者への周知がなされていること。 イ．エコドライブに係る管理責任者の設置、マニュアルの作成（既存マニュアルの活用を含む）、エコドライブの推進体制を整備していること。 ウ．エコドライブに係る教育・研修等を実施していること。 エ．運行記録を運転者別・車種別等の適切な単位で把握し、エネルギーの使用の管理を行っていること。 ※４　判断の基準③の「車両の点検・整備」とは、日常点検、定期点検の実施等道路運送車両法等において規定されている事項を遵守するほか、車両のエネルギー効率を維持する等環境の保全を目的に、別表に示した点検・整備項目に係る自主的な管理基準を定め、実施していることをいう。 ※５　「モーダルシフト」とは、貨物輸送において、環境負荷の少ない大量輸送機関である鉄道貨物輸送・内航海運の活用により、輸送機関（モード）の転換（シフト）を図ることをいう。 ※６　判断の基準⑤の「輸配送効率の向上のための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。

	ア．エネルギーの使用に関して効率的な輸配送経路を事前に選択し、運転者に周知していること。 イ．渋滞情報等を把握することにより、適切な輸配送経路を選択できる仕組みを有していること。 ウ．輸配送量、地域の特性に応じた適正車種の選択をしていること。 エ．輸配送先、輸配送量に応じて拠点経由方式と直送方式を使い分け、全体として輸配送距離を短縮していること。 ※７　「環境報告書」とは、環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（平成16年法律77号）第２条第４項に規定する環境報告書をいう。 【配慮事項】 ①エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に基づく「貨物の輸送に係るエネルギーの使用の合理化に関する貨物輸送事業者の判断の基準（経済産業省・国土交通省告示第７号（平成18年3月31日）」を踏まえ、輸配送におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。 ②低燃費・低公害車の導入を推進するとともに、可能な限り低燃費・低公害車による輸配送が実施されていること。（※１） ③輸配送に使用する車両台数を削減するため積載率の向上が図られていること。 ④輸配送回数を削減するために共同輸配送が実施されていること。 ⑤エコドライブを推進するための装置が可能な限り導入されていること。 ⑥道路交通情報通信システム（VICS）対応カーナビゲーションシステムや自動料金収受システム（ETC）等、高度道路交通システム（ITS）の導入に努めていること。 ⑦販売されている宅配便、小包郵便物等の包装用品については、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ⑧事業所、集配拠点等の施設におけるエネルギー使用実態の把握を行うとともに、当該施設におけるエネルギー使用量の削減に努めていること。 ⑨契約により輸配送業務の一部を行う者（※２）に対して、可能な限り環境負荷低減に向けた取組を実施するよう要請するものとする。 ⑩自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（平成4年6月3日法律第70号）の対策地域を走行する輸配送にあっては、可能な限り排出基準を満たした自動車による輸配送が行われていること。 ※１　配慮事項②の低燃費・低公害車とは、本基本方針に示した「１１－１　自動車」を対象とする。 ※２　「契約により輸配送業務の一部を行う者」とは、本項の役務の対象となる輸配送業務の一部を当該役務の提供者のために実施するものをいう。

別　表

車両のエネルギー効率の維持等環境の保全に係る点検・整備項目

【点検・整備の推進体制】		
	□	点検・整備は、明示された実施計画に基づき、その結果を把握し、記録として残していること。
	□	点検・整備結果に基づき、点検・整備体制や取組内容について見直しを行う仕組みを有すること。
【車両の適切な点検・整備】		
	■	点検・整備を整備事業者に依頼するに当たっては、車両の状態を日常から把握し、その状況について伝えていること。
	■	目視により黒煙が増加してきたと判断された場合には、点検・整備を実施していること。
	■	フロン類の大気中への放出を抑制するため、カーエアコンの効き具合等により、エアコンガスが減っている（漏れている）と判断された場合には、カーエアコンの点検・整備を実施していること。
【自主的な管理基準による点検・整備】		
	（エア・クリーナ・エレメント関連）	
	■	エア・クリーナ・エレメントの清掃・交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（エンジンオイル関連）	
	■	エンジンオイルの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	■	エンジンオイルフィルタの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（燃料装置関連）	
	□	燃料装置のオーバーホールや交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（排出ガス減少装置関連）	
	■	排出ガス減少装置（DPF、酸化触媒）の点検に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（その他）	
	■	タイヤの空気圧の点検・調整は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、空気圧の測定に基づき実施していること。
	□	トランスミッションオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	トランスミッションオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	デファレンシャルオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	デファレンシャルオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。

注：「■」は車両の点検・整備に当たって必ず実施すべき項目
「□」は車両の点検・整備に当たって実施するよう努めるべき項目

２０－８ 旅客輸送（自動車）

品目	判断の基準等
旅客輸送	【判断の基準】 ① エネルギーの使用の実態、エネルギーの使用の合理化に係る取組効果の把握が定期的に行われていること。 ② エコドライブ（※１）を推進するための措置（※２）が講じられていること。 ③ エネルギー効率を維持する等環境の保全のため車両の点検・整備（※３）を実施していること。 ④ 旅客輸送効率の向上のための措置又は空車走行距離の削減のための措置（※４）が講じられていること。 ⑤ 上記①については使用実態、取組効果の数値が、上記②から④については実施の状況がウエブサイトをはじめ環境報告書（※５）等により公表され、容易に確認できること、又は第三者により客観的な立場から審査されていること。 ※１ 「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」（平成 24 年 10 月）に基づく運転をいう。 （参考）①ふんわりアクセル『ｅスタート』②車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転③減速時は早めにアクセルを離そう④エアコンの使用は適切に⑤ムダなアイドリングはやめよう⑥渋滞を避け、余裕をもって出発しよう⑦タイヤの空気圧から始める点検・整備⑧不要な荷物はおろそう⑨走行の妨げとなる駐車はやめよう⑩自分の燃費を把握しよう ※２ 「エコドライブを推進するための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。 ア．エコドライブについて運転者への周知がなされていること。 イ．エコドライブに係る管理責任者の設置、マニュアルの作成（既存マニュアルの活用を含む）、エコドライブの推進体制を整備していること。 ウ．エコドライブに係る教育・研修等を実施していること。 エ．運行記録を運転者別・車種別等の適切な単位で把握し、エネルギーの使用の管理を行っていること。 ※３ 「車両の点検・整備」とは、日常点検、定期点検の実施等道路運送車両法等において規定されている事項を遵守するほか、車両のエネルギー効率を維持する等環境の保全を目的に、別表に示した点検・整備項目に係る自主的な管理基準を定め、実施していることをいう。 ※４ 「旅客輸送効率の向上のための措置」及び「空車走行距離の削減ための措置」とは、次の要件を満たすことをいう。 一般貸切旅客自動車にあっては次の要件ア及びイを満たすことをいう。 ア．エネルギーの使用に関して効率的な旅客輸送経路を事前に選択し、運転者に周知していること。 イ．輸送人数、地域の特性に応じた適正車種の選択をしていること。 一般乗用旅客自動車にあっては次の要件ウを満たすことをいう。 ウ．配車に無線を導入していること、あるいは他の通信・情報機器等を利用し運転者との連絡が取れる体制を有していること。 ※５ 「環境報告書」とは、環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（平成 16 年法律 77 号）第２条第４項に規定する環境報告書をいう。 【配慮事項】 ① エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に基づく「旅

	客の輸送に係るエネルギーの使用の合理化に関する旅客輸送事業者の判断の基準（経済産業省・国土交通省告示第６号（平成18年3月31日)」を踏まえ、旅客輸送におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。 ② 低燃費・低公害車（本基本方針に示した「１１－１　自動車」を対象とする。）の導入を推進するとともに、可能な限り低燃費・低公害車による旅客輸送が実施されていること。 ③ エコドライブを推進するための装置が可能な限り導入されていること。 ④ 道路交通情報通信システム（VICS）対応カーナビゲーションシステムや自動料金収受システム（ETC）等、高度道路交通システム（ITS）の導入に努めていること。 ⑤ 事業所、営業所等におけるエネルギー使用実態の把握を行うとともに、当該施設におけるエネルギー使用量の削減に努めていること。 ⑥ GPS-AVMシステムの導入による効率的な配車に努めていること。

別　表

車両のエネルギー効率の維持等環境の保全に係る点検・整備項目

【点検・整備の推進体制】		
	□	点検・整備は、明示された実施計画に基づき、その結果を把握し、記録として残していること。
	□	点検・整備結果に基づき、点検・整備体制や取組内容について見直しを行う仕組みを有すること。
【車両の適切な点検・整備】		
	■	車両の状態を日常から把握し、環境に対して影響のある現象が確認された時には、直ちに点検・整備を実施していること。
	■	ディーゼル車にあっては、目視により黒煙が増加してきたと判断された場合には、点検・整備を実施していること。
	■	フロン類の大気中への放出を抑制するため、カーエアコンの効き具合等により、エアコンガスが減っている（漏れている）と判断された場合には、カーエアコンの点検・整備を実施していること。
【自主的な管理基準による点検・整備】		
	（エア・クリーナ・エレメント関連）	
	■	ディーゼル車にあっては、エア・クリーナ・エレメントの清掃・交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（エンジンオイル関連）	
	■	エンジンオイルの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	■	エンジンオイルフィルタの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（燃料装置関連）	
	□	ディーゼル車にあっては、燃料装置のオーバーホールや交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（排出ガス減少装置関連）	
	■	ディーゼル車にあっては、排出ガス減少装置（DPF、酸化触媒）の点検に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（その他）	
	■	タイヤの空気圧の点検・調整は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、空気圧の測定に基づき実施していること。
	□	トランスミッションオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	トランスミッションオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	デファレンシャルオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	デファレンシャルオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。

注：「■」は車両の点検・整備に当たって必ず実施すべき項目
　　「□」は車両の点検・整備に当たって実施するよう努めるべき項目

２０－９ 照明機能提供業務

品目	判断の基準等
蛍光灯機能提供業務	【判断の基準】 ○　次の要件を満たす機能提供型サービス（サービサイジング）（※１）であること。 ①　使用目的に不都合がなく器具に適合する場合、蛍光ランプに係る判断の基準（ランプ参照）を満たす蛍光灯が使用されていること。 ②　回収した蛍光灯のうち成型品で回収されたものについては再資源化率が95%以上であること。 ③　蛍光灯の適正処理終了を示す証明書（※２）を発行し、顧客に提示できること。 ※１　蛍光灯の所有権を業務提供者から移さず機能のみを提供し、輸送・回収・廃棄にかかる責任を業務提供者が負う役務をいう。 ※２　電子マニフェストやITを活用したマニフェスト管理システムなど証明書に準ずるものでも可能とする。 【配慮事項】 ①　使用済蛍光ランプの回収容器は、繰り返し使えるものを使用するなど、環境負荷低減に配慮されていること。 ②　使用済蛍光ランプの回収に当たっては、施設管理者と協力し、破損なく回収するよう努めていること。 ③　蛍光ランプの配送・回収に関し、定期ルート便や共同配送等の効率的な物流網を構築していること。 ④　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

２０－１０ 小売業務

品目	判断の基準等
庁舎等において営業を行う小売業務	【判断の基準】 ○ 庁舎又は敷地内において委託契約等によって営業を行う小売業務の店舗にあっては、容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するために、次のいずれかの要件を満たすこと。 ① 容器包装の過剰な使用を抑制するための独自の取組（※１）が行われていること。 ② 消費者の容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するための独自の取組（※２）が行われていること。 ※１ 判断の基準①の独自の取組とは、薄肉化又は軽量化された容器包装を使用すること、商品に応じて適正な寸法の容器包装を使用することその他の小売業者自らが容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するために取り組む措置をいう。 ※２ 判断の基準②の独自の取組とは、商品の販売に際して消費者に容器包装を有償で提供すること、自ら買物袋等を持参しない消費者に対し繰り返し使用が可能な買物袋等を提供すること、容器包装の使用に関する意思を消費者に確認することその他の消費者による容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するために取り組む措置をいう。 【配慮事項】 ○ 店舗において取り扱う商品については、再使用のために容器包装の返却・回収が可能なものであること、又は簡易包装等により容器包装の使用量を削減したものであること。

２０－１１ クリーニング

品目	判断の基準等
クリーニング ※ 対象とする「クリーニング」は、クリーニング業法（昭和 25 年法律第 207 号）に定めるクリーニング業をいう。ただし、毛布、ふとん、モップ等、他の品目としてリース・レンタル契約により調達する場合、調達先事業者が行う当該製品のクリーニングには本項の判断の基準は適用しない。	【判断の基準】 ① ドレン（※）の回収及び再利用により、省エネルギー及び水資源節約等の環境負荷低減が図られていること。 ② エコドライブ（備考１）を推進するための措置（備考２）が講じられていること。 ③ ハンガーの回収及び再使用等の仕組みが構築されていること。（備考３） ※ 「ドレン」とは、蒸発してできた蒸気（飽和蒸気）が放熱や熱の利用により凝縮水へ状態変化したものをいう。 【配慮事項】 ① 揮発性有機化合物の発生抑制に配慮されていること。 ② ランドリー用水や洗剤の適正使用に努めていること。 ③ 事業所、営業所等におけるエネルギー使用実態の把握を行うとともに、当該施設におけるエネルギー使用量の削減に努めていること。 ④ 可能な限り低燃費・低公害車（※）による集配等が実施されていること。 ⑤ 包装材（ポリ包装資材、袋等）の削減に努めていること。 ⑥ 省エネルギー型のクリーニング設備・機械・空調設備等の導入が図られていること。 ※ 「低燃費・低公害車」とは、本基本方針に示した「１１－１ 自動車」を対象とする。

備考） １ 「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」（平成 24 年 10 月）に基づく運転をいう。

（参考）①ふんわりアクセル『ｅスタート』②車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転③減速時は早めにアクセルを離そう④エアコンの使用は適切に⑤ムダなアイドリングはやめよう⑥渋滞を避け、余裕をもって出発しよう⑦タイヤの空気圧から始める点検・整備⑧不要な荷物はおろそう⑨走行の妨げとなる駐車はやめよう⑩自分の燃費を把握しよう

２ 「エコドライブを推進するための措置」とは、次の要件を満たすことをいう。

ア．エコドライブについて運転者への周知がなされていること。

イ．エコドライブに係る責任者の設置、マニュアルの作成（既存マニュアルの活用を含む）等の取組を実施していること。

ウ．エネルギー使用実態を運転者別・車種別等の適切な単位で把握し、エネルギーの使用の管理を行うこと。なお、その際は、車両の運行記録を用いることが望ましい。

３ 「ハンガーの回収及び再使用等の仕組みが構築されていること」とは、次の要件を満たすことをいう。

ア．回収が適切に行われるよう、ユーザに対し回収に関する情報（回収方法、回収窓口等）が表示又は提供されていること。

イ．回収されたハンガーを洗浄し、再使用すること。

ウ．回収されたプラスチックハンガーについて、再使用できない場合にあっては可能な限りマテリアルリサイクルをすること。

２０－１２ 自動販売機設置

品目	判断の基準等
飲料自動販売機設置 （備考１）	【判断の基準】（備考２） ①　エネルギー消費効率が別表１に示された区分ごとの算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率を上回らないこと。（備考３） ②　冷媒に次の物質が使用されていないこと。 ア．オゾン層を破壊する物質 イ．ハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）（備考４、８） ③　断熱材発泡剤にオゾン層を破壊する物質及びハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと。 ④　別表２に掲げる評価基準に示された環境配慮設計がなされていること。また、環境配慮設計の実施状況については、その内容がウエブサイト、環境報告書等により公表され、容易に確認できること。 ⑤　特定の化学物質が含有率基準値を超えないこと。また、当該化学物質の含有情報がウエブサイト等で容易に確認できること。（備考５） ⑥　使用済自動販売機の回収リサイクルシステムがあり、リサイクルされない部分については適正処理されるシステムがあること。 【配慮事項】 ①　年間消費電力量及びエネルギー消費効率基準達成率（備考６）並びに冷媒（種類、地球温暖化係数（備考７）及び封入量）が自動販売機本体の見やすい箇所に表示されるとともに、ウエブサイトにおいて公表されていること。 ②　屋内に設置される場合にあっては、夜間周囲に照明機器がなく、商品の選択・購入に支障をきたす場合を除き、照明が常時消灯されていること。 ③　屋外に設置される場合にあっては、自動販売機本体に日光が直接当たらないよう配慮されていること。 ④　カップ式飲料自動販売機にあっては、マイカップに対応可能であること。 ⑤　真空断熱材等の熱伝導率の低い断熱材が使用されていること。 ⑥　自動販売機本体と併設して飲料容器の回収箱を設置するとともに、容器の分別回収及びリサイクルを実施すること。 ⑦　自動販売機の設置・回収、販売品の補充、容器の回収等に当たって低燃費・低公害車を使用する、配送効率の向上のための取組を実施する等物流に伴う環境負荷の低減が図られていること。 ⑧　製品の包装又は梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること ⑨　包装材等の回収及び再使用又は再生利用のためのシステムがあること。

備考）　１　本項の判断の基準の対象となる「飲料自動販売機設置」は、缶・ボトル飲料自動販売機、紙容器飲料自動販売機及びカップ式飲料自動販売機を設置する場合をいう。ただし、次のいずれかに該当するものを設置する場合は、これに含まれないものとする。

①商品を常温又は常温に近い温度のみで保存する収容スペースをもつもの

②台の上に載せて使用する小型の卓上型のもの

③車両等特定の場所で使用することを目的とするもの

④電子冷却（ペルチェ冷却等）により、飲料（原料）を冷却しているもの

２　本項の判断の基準は、設置に係る契約等の期間中又は契約更新等の場合で機器の入替えが発生しない場合には適用しないものとする。

３　判断の基準①については、災害対応自動販売機、ユニバーサルデザイン自動販売機及び社会貢献型自動販売機のうち、当該機能を有することにより、消費電力量の増加するものについては適用しないものとする。

４　判断の基準②イについては、次のいずれかに該当する場合は、適用しないものとする。

ア．紙容器飲料自動販売機又はカップ式飲料自動販売機

イ．使用される冷媒に用いられている物質の地球温暖化係数が相当程度小さい場合（地球温暖化係数 140 未満。該当する冷媒は二酸化炭素、炭化水素及びハイドロフルオロオレフィン（HFO1234yf）等）

5　判断の基準⑤における特定の化学物質の含有率基準値については、JIS C 0950:2008（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書Ａの表 A.1（特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値とし、基準値を超える含有が許容される項目については、上記 JIS の附属書Ｂに準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについては JIS C 0950:2008 に準ずるものとする。

6　「エネルギー消費効率基準達成率」とは、判断の基準①で算出した当該製品の基準エネルギー消費効率をエネルギー消費効率で除した数値を百分率（小数点以下を切り捨て）で表したものとする。

7　本項における「地球温暖化係数」とは、温室効果ガスである物質ごとに地球の温暖化をもたらす程度を二酸化炭素に係る当該程度に対する比で示した数値をいう。

8　調達を行う各機関は、次の事項に十分留意すること。

ア．利用人数、販売量等を十分勘案し、必要な台数、適切な大きさの自動販売機を設置すること。

イ．設置場所（屋内・屋外、日向・日陰等）によって、エネルギー消費等の環境負荷が異なることから、可能な限り環境負荷の低い場所に設置するよう検討すること。

ウ．マイカップ対応型自動販売機の設置に当たっては、設置場所及び周辺の清掃・衛生面の確認を行い、購入者への注意喚起を実施するとともに、衛生面における問題が生じた場合の責任の所在の明確化を図ること。

別表１　飲料自動販売機に係る基準エネルギー消費効率算定式

<table>
<tr><th colspan="3">区　　分</th><th rowspan="2">基準エネルギー
消費効率の算定式</th></tr>
<tr><th>販売する
飲料の種類</th><th colspan="2">自動販売機の種類</th></tr>
<tr><td rowspan="4">缶・ボトル飲料</td><td colspan="2">コールド専用機又はホットオアコールド機</td><td>E=0.218V+401</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホットアンドコールド機（庫内奥行寸法が 400mm 未満のもの）</td><td>E=0.798Va+414</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ホットアンドコールド機（庫内奥行寸法が400mm 以上のもの）</td><td>電子マネー対応装置のないもの</td><td>E=0.482Va+350</td></tr>
<tr><td>電子マネー対応装置のあるもの</td><td>E=0.482Va+500</td></tr>
<tr><td rowspan="5">紙容器飲料</td><td rowspan="3">Ａタイプ（サンプルを使用し、商品販売を行うもの）</td><td>コールド専用機</td><td>E=0.948V+373</td></tr>
<tr><td>ホットアンドコールド機（庫内が２室のもの）</td><td>E=0.306Vb+954</td></tr>
<tr><td>ホットアンドコールド機（庫内が３室のもの）</td><td>E=0.630Vb+1474</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｂタイプ（商品そのものを視認し、商品販売を行うもの）</td><td>コールド専用機</td><td>E=0.477V+750</td></tr>
<tr><td>ホットアンドコールド機</td><td>E=0.401Vb+1261</td></tr>
<tr><td>カップ式飲料</td><td colspan="2">―</td><td>E=1020[T≦1500]
E=0.293T+580[T＞1500]</td></tr>
</table>

備考）　１　「コールド専用機」とは、商品を冷蔵して販売するためのものをいう。

２　「ホットオアコールド機」とは、商品を冷蔵又は温蔵どちらか一方にして販売するためのものをいう。

３　「ホットアンドコールド機」とは、自動販売機の内部が仕切壁で仕切られ、商品を冷蔵又は温蔵して販売するためのものをいう。

４　E,V,Va,Vb 及び T は、次の数値を表すものとする。

E　：基準エネルギー消費効率（単位：kWh/年）

V　：実庫内容積（商品を貯蔵する庫室の内寸法から算出した数値をいう。）（単位：L）

Va：調整庫内容積（温蔵室の実庫内容積に 40 を乗じて 11 で除した数値に冷蔵室の実庫内容積を加えた数値をいう。）（単位：L）

Vb：調整庫内容積（温蔵室の実庫内容積に 40 を乗じて 10 で除した数値に冷蔵室の実庫内容積を加えた数値をいう。）（単位：L）

T　：調整熱容量（湯タンク容量に 80 を乗じた数値、冷水槽容量に 15 を乗じた数値及び貯氷量に 95 を乗じて 0.917 で除した数値の総和に 4.19 を乗じた数値）（単位：kJ）

５　エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示 289 号（平成 19 年 11 月 26 日）の「３エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

別表２　飲料自動販売機に係る環境配慮設計項目

目　　　的	評 価 項 目	評 価 基 準
リデュース（省資源化）	使用資源の削減	製品の質量を削減抑制していること。
	再生材の使用	再生材の使用を促進していること。
	製品の長寿命化	オーバーホール、リニューアルへの配慮をしていること。
		製品の分解・組立性への配慮・改善をしていること。
		修理・保守性への配慮をしていること。
	消費電力量の削減	製品の消費電力量の抑制が図られていること。設置条件、設定条件の適正化等の運用支援を行っていること。
リユース（再使用化）	リユース部品の選定	リユース部品について設計段階から選定し、共通化・標準化に配慮していること。
	製品での配慮	リユース対象部品の分解・組立性に配慮していること。
	部品のリユース設計	リユース対象部品への表示、清掃・洗浄、与寿命判定の容易性に配慮していること。
リサイクル（再資源化）	材料	リサイクル可能な材料を選択していること。
		プラスチックの種類の統一化及び材料表示を行っていること。
		リサイクル困難な部材の使用削減を図っていること。
	分解容易性	事前分別対象部品の分解容易性に配慮していること。

２０－１３ 引越輸送

品目	判断の基準等
引越輸送 （備考１）	【判断の基準】 ①　梱包及び養生に使用する物品が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。 ②　反復利用可能な梱包用資材及び養生用資材が使用されていること。 ③　引越終了後に梱包用資材の回収が実施されていること。（備考２） ④　自動車による輸送を伴う場合には、次の要件を満たすこと。（備考３） ア．エネルギーの使用の実態及びエネルギーの使用の合理化に係る取組効果の把握が定期的に行われていること。 イ．エコドライブ（備考４）を推進するための措置が講じられていること。（備考５） ウ．大気汚染物質の排出削減、エネルギー効率を維持する等の環境の保全の観点から車両の点検・整備（備考６）が実施されていること。 【配慮事項】 ①　環境負荷低減に資する引越輸送の方法の適切な提案が行われるものであること。（備考７） ②　梱包用資材及び養生用資材について、一括梱包や資材の使用削減を図るなどの省資源化又は再生材料の使用に係る取組がなされていること、また、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 ③　自動車による輸送を伴う場合には、次の事項に配慮されていること。（備考３） ア．エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に基づく「貨物の輸送に係るエネルギーの使用の合理化に関する貨物輸送事業者の判断の基準（経済産業省・国土交通省告示第７号（平成18年3月31日）」を踏まえ、輸送におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。 イ．低燃費・低公害車（備考８）の導入を推進するとともに、可能な限り低燃費・低公害車による輸送が実施されていること。 ウ．輸送効率の向上のための措置が講じられていること。（備考９） エ．エコドライブを推進するための装置が可能な限り導入されていること。 オ．道路交通情報通信システム（VICS）対応カーナビゲーションシステムや自動料金収受システム（ETC）等、高度道路交通システム（ITS）の導入に努めていること。 カ．自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（平成4年法律第70号）の対策地域において輸送する場合にあっては、可能な限り排出基準を満たした自動車による輸送が行われていること。

備考）１　本項の判断の基準の対象とする「引越輸送」とは、庁舎移転等（庁舎・ビル間移転、庁舎・ビル内移動、フロア内移動を含む。）に伴う什器、物品、書類等の引越輸送業務及びこれに附帯する梱包・開梱、配置、養生等の役務をいう。ただし、美術品、精密機器、動植物等の特殊な梱包及び運送、管理等が必要となる品目は除く。

２　判断の基準③は、段ボール等紙製の梱包用資材が業務提供者によって提供される場合に適用し、発注者の求めに応じて回収を実施する。ただし、あらかじめ回収期限及び回数を定めるものとする。

３　判断の基準④及び配慮事項③は、引越輸送の元請か下請かを問わず、自動車による輸送を行う者に適用する。

４　「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」（平成 24 年 10 月）に基づく運転をいう。

（参考）①ふんわりアクセル『ｅスタート』②車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転③減速時は早めにアクセルを離そう④エアコンの使用は適切に⑤ム

ダなアイドリングはやめよう⑥渋滞を避け、余裕をもって出発しよう⑦タイヤの空気圧から始める点検・整備⑧不要な荷物はおろそう⑨走行の妨げとなる駐車はやめよう⑩自分の燃費を把握しよう

５　判断の基準④イの「エコドライブを推進するための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。

ア．エコドライブについて運転者への周知がなされていること。

イ．エコドライブに係る管理責任者の設置、マニュアルの作成（既存マニュアルの活用を含む）及びエコドライブの推進体制を整備していること。

ウ．エコドライブに係る教育・研修等を実施していること。

エ．運行記録を運転者別・車種別等の適切な単位で把握し、エネルギーの使用の管理を行っていること。

６　判断の基準④ウの「車両の点検・整備」とは、日常点検、定期点検の実施等道路運送車両法等において規定されている事項を遵守するほか、車両のエネルギー効率を維持する等環境の保全を目的に、別表に示した点検・整備項目に係る自主的な管理基準を定め、実施していることをいう。

７　配慮事項①の「引越輸送の方法の適切な提案」は、発注者に対し、具体的な提案が可能となる契約方式の場合に適用する。

８　配慮事項③イの低燃費・低公害車とは、本基本方針に示した「１１－１　自動車」を対象とする。

９　配慮事項③ウの「輸送効率の向上のための措置」とは、次の事項に配慮することをいう。

ア．エネルギーの使用に関して効率的な輸送経路を事前に選択し、運転者に周知していること。

イ．渋滞情報等を把握することにより、適切な輸送経路を選択できる仕組みを有していること。

ウ．輸送量、地域の特性に応じた適正車種の選択をしていること。

１０　調達を行う各機関は、次の事項に十分留意すること。

ア．引越に伴い発生する廃棄物の収集若しくは運搬又は処分を第三者に依頼する場合には、一般廃棄物については市町村又は一般廃棄物処理業者（廃棄物処理法施行規則第2条第1項及び第2条の3第1項に該当するものを含む）に、産業廃棄物については産業廃棄物処理業者（同法施行規則第9条第1項及び第10条の3第1項に該当するものを含む）にそれぞれ収集若しくは運搬又は処分を委託する必要がある。なお、一般廃棄物の収集又は運搬については委任状を交付した上で引越事業者に依頼することも可能である。

イ．引越輸送業務と併せて廃棄物の収集若しくは運搬又は処分を委託する場合には、委託基準に従う必要があり、産業廃棄物については、収集又は運搬を委託する産業廃棄物収集運搬業者及び処分を委託する産業廃棄物処分業者とあらかじめ契約し、運搬先である産業廃棄物処理施設の所在地及び処分方法を確認するとともに、最終処分される場合には最終処分場の所在地の確認が必要である。また一般廃棄物についても、産業廃棄物に準じた確認を行うことが望ましい。

ウ．廃棄物の引渡しにおいて、産業廃棄物については、引渡しと同時に産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付し、運搬及び処分の終了後に処理業者からその旨を記載した産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写しの送付を受け、委託内容どおりに運搬、処分されたことを確認する必要がある。また一般廃棄物についても、産業廃棄物に準じた確認を行うことが望ましい。

別　表

車両のエネルギー効率の維持等環境の保全に係る点検・整備項目

【点検・整備の推進体制】		
	□	点検・整備は、明示された実施計画に基づき、その結果を把握し、記録として残していること。
	□	点検・整備結果に基づき、点検・整備体制や取組内容について見直しを行う仕組みを有すること。
【車両の適切な点検・整備】		
	■	点検・整備を整備事業者に依頼するに当たっては、車両の状態を日常から把握し、その状況について伝えていること。
	■	目視により黒煙が増加してきたと判断された場合には、点検・整備を実施していること。
	■	フロン類の大気中への放出を抑制するため、カーエアコンの効き具合等により、エアコンガスが減っている（漏れている）と判断された場合には、カーエアコンの点検・整備を実施していること。
【自主的な管理基準による点検・整備】		
	（エア・クリーナ・エレメント関連）	
	■	エア・クリーナ・エレメントの清掃・交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（エンジンオイル関連）	
	■	エンジンオイルの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	■	エンジンオイルフィルタの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（燃料装置関連）	
	□	燃料装置のオーバーホールや交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（排出ガス減少装置関連）	
	■	排出ガス減少装置（DPF、酸化触媒）の点検に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	（その他）	
	■	タイヤの空気圧の点検・調整は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、空気圧の測定に基づき実施していること。
	□	トランスミッションオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	トランスミッションオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	デファレンシャルオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	□	デファレンシャルオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。

注：「■」は車両の点検・整備に当たって必ず実施すべき項目
「□」は車両の点検・整備に当たって実施するよう努めるべき項目

２０－１４ 会議運営

品目	判断の基準等
会議運営	【判断の基準】 ○　委託契約等により会議の運営を含む業務の実施に当たって、次の項目に該当する場合は、該当する項目に掲げられた要件を満たすこと。 ①　紙の資料を配布する場合は、適正部数の印刷、両面印刷等により、紙の使用量の削減が図られていること。また、紙の資料として配布される用紙が特定調達品目に該当する場合は、当該品目に係る判断の基準を満たすこと。 ②　ポスター、チラシ、パンフレット等の印刷物を印刷する場合は、印刷に係る判断の基準を満たすこと。 【配慮事項】 ①　紙の資料、印刷物等の残部のうち、不要なものについては、リサイクルを行うこと。 ②　飲料等が提供される場合には、容器包装の返却・回収が行われていること。また、可能な限り、容器包装の再使用を行うこと。 ③　自動車により資機材の搬送、参加者の送迎等を行う場合は、可能な限り、低燃費・低公害車（備考１）が使用されていること。また、エコドライブ（備考２）に努めていること。 ④　会議の参加者に対し、公共交通機関の利用、クールビズ・ウォームビズの奨励等の環境負荷低減に資する取組に関する情報提供がなされていること。 ⑤　資機材の搬送に使用する梱包用資材については、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

備考）　１　「低燃費・低公害車」とは、本基本方針に示した「１１－１　自動車」を対象とする。

２　「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」（平成 24 年 10 月）に基づく運転をいう。

（参考）①ふんわりアクセル『ｅスタート』②車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転③減速時は早めにアクセルを離そう④エアコンの使用は適切に⑤ムダなアイドリングはやめよう⑥渋滞を避け、余裕をもって出発しよう⑦タイヤの空気圧から始める点検・整備⑧不要な荷物はおろそう⑨走行の妨げとなる駐車はやめよう⑩自分の燃費を把握しよう

《巻末》

参考

1．コピー用紙を調達する際の総合評価制度について

（1）背景

平成 20 年１月のコピー用紙古紙配合率の偽造問題から、国では、平成 20 年度に検討委員会が設けられ、議論されてきた。古紙配合率 100%から製品に求められる基本的な品質、機能等の確保を前提に、総合評価指標を導入した判断基準を採用。

（2）総合評価指標の概要

環境指標項目

①基本項目･･･廃棄物削減、資源の有効活用、持続可能な森林経営等の観点から、原料組成を基本項目とする。

②加点項目･･･①以外重要な環境性能を評価するため、白色度及び坪量を加点項目とする。

指標内容

指標項目			評価式	指標値範囲	重み付け	評価値範囲
基本項目	古紙パルプ配合率（%）	X_1	$y_1=X_1-20$	$70\leqq X_1\leqq 100$	1	$50\leqq y_1\leqq 80$
	森林認証材パルプ利用割合(%)	X_2	$y_2=X_2+X_3$	$0\leqq X_2+X_3\leqq 30$	1	$0\leqq y_2\leqq 30$
	間伐材等パルプ利用割合(%)	X_3			1	
	その他の持続可能性を目指したパルプ利用割合(%)	X_4	$y_3=0.5\times X_4$	$0\leqq X_4\leqq 30$	0.5	$0\leqq y_3\leqq 15$
加点項目	白色度（%）	X_5	$y_4=-X_5+75$	$60\leqq X_5\leqq 75$	—	$0\leqq y_4\leqq 15$
	坪量(g/㎡)	X_6	$y_5=-2.5\times X_6+170$	$62\leqq X_6\leqq 68$	—	$0\leqq y_5\leqq 15$

$$Y=(y_1+y_2+y_3)+(y_4+y_5)\geqq 80$$

基本項目 　加点項目

（物品への表示例）

総　合
評価値 **80**

- 古紙パルプ配合率 ：○%　△
- 森林認証材パルプ利用割合 ：○%　△
- 間伐材等パルプ利用割合 ：○%　△
- その他の持続可能性を目指したパルプ ：○%　△
- 白色度 ：○%　△
- 坪量 ：○g/㎡　△

２．印刷用紙を調達する際の総合評価制度について

（１）印刷用紙への総合評価指標の導入目的と期待される効果について

・品質面を含め、環境価値を一律ではなく総合的に評価

・事業者が独自の技術力や地域性（工場の立地条件、製造ライン等）、製造コスト等を勘案し、それぞれの状況に合わせた環境配慮製品の生産・開発が可能

・総合評価指標の導入により古紙偽装の原因としてあげられた問題の解決に寄与

・環境価値の大小を数量的に消費者に伝えることが可能

・各環境指標間の重み付けは、ライフサイクル上のインパクトとともに、製紙メーカーの製品供給状況、情報開示の進捗状況及び政策的判断を踏まえて議論し決定するもの

（２）総合評価指標の概要

環境指標項目

①基本項目･･･廃棄物削減、資源の有効活用、持続可能な森林経営等の観点から、原料組成を基本項目とする。

②加点項目･･･①以外環境性能を評価するため、非塗工用紙は白色度、塗工用紙は塗工量を加点項目とする。

指標内容

<table>
<tr><th colspan="4">指標項目</th><th>評価式</th><th>指標値範囲</th><th>重み付け</th><th>評価値範囲</th></tr>
<tr><td rowspan="4">基本項目</td><td colspan="2">古紙パルプ配合率（%）</td><td>X_1</td><td>$y_1=X_1-10$</td><td>$60 \leqq X_1 \leqq 100$</td><td>1</td><td>$50 \leqq y_1 \leqq 90$</td></tr>
<tr><td colspan="2">森林認証材パルプ利用割合(%)</td><td>X_2</td><td rowspan="2">$y_2=X_2+X_3$</td><td rowspan="2">$0 \leqq X_2+X_3 \leqq 40$</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">$0 \leqq y_2 \leqq 40$</td></tr>
<tr><td colspan="2">間伐材等パルプ利用割合(%)</td><td>X_3</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他の持続可能性を目指したパルプ利用割合(%)</td><td>X_4</td><td>$y_3=0.5 \times X_4$</td><td>$0 \leqq X_4 \leqq 40$</td><td>0.5</td><td>$0 \leqq y_3 \leqq 20$</td></tr>
<tr><td rowspan="3">加点項目</td><td rowspan="2">非塗工</td><td>白色度（%）</td><td>X_5</td><td>$y_4=-X_5+75$</td><td>$60 \leqq X_5 \leqq 75$</td><td>―</td><td>$0 \leqq y_4 \leqq 15$</td></tr>
<tr><td>A ランクのファンシーペーパー、抄色紙</td><td>―</td><td>$y_4=5$</td><td>―</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>塗工</td><td>塗工量(g/㎡)</td><td>X_6</td><td>$y_5=0, 5, 10, 15$</td><td>$0 \leqq X_6 \leqq 30$</td><td>―</td><td>$0 \leqq y_5 \leqq 15$</td></tr>
</table>

【非塗工用紙】　$Y_1 = (y_1 + y_2 + y_3) + y_4 \geqq 80$

【塗工用紙】　$Y_2 = (y_1 + y_2 + y_3) + y_5 \geqq 80$

基本項目　　加点項目

３．品目の原料に紙（バージンパルプ）及び木材が使用されている場合の留意点

（１）紙（バージンパルプ）の場合

①用紙への使用

・「持続可能性を目指した原料の調達方針に基づいて使用するパルプ」

ア．森林の有する多面的機能を維持し、森林を劣化させず、森林面積を減少させないようにするなど森林資源を循環的・持続的に利用する観点から経営され、かつ、生物多様性の保全等の環境的優位性、労働者の健康や安全への配慮等の社会的優位性の確保について配慮された森林から産出された木材に限って調達するとの方針に基づいて使用するパルプ

イ．資源の有効活用となる再・未利用木材（廃木材、建設発生木材、低位利用木材（林地残材、かん木、木の根、病虫獣害・災害などを受けた丸太から得られる木材、曲がり材、小径材などの木材）及び廃植物繊維）を調達するとの方針に基づいて使用するパルプ

・紙の原料となる間伐材の確認は、林野庁作成の「間伐材チップの確認のためのガイドライン（平成 21 年 2 月 13 日)」に準拠して行うものとする。

・紙の場合は、複数の木材チップを混合して生産するため、製造工程において製品ごとの実配合を担保することが困難等の理由を勘案し、間伐材の管理方法は「森林認証材・間伐材に係るクレジット方式運用ガイドライン（平成 21 年 2 月 13 日)」に準拠したクレジット方式を採用してもよい。また、森林認証材については、各制度に基づくクレジット方式により運用を行ってもよい。

なお、「クレジット方式」とは、個々の製品に実配合されているか否かを問わず、一定期間に製造された製品全体に使用された森林認証材・間伐材とそれ以外の原料の使用量に基づき、個々の製品に対し森林認証材・間伐材が等しく使われているとみなす方式をいう。

①木材及び紙を使用するもの

・原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン（平成 18 年 2 月 15 日)」に準拠して行うものとする。

ただし、平成 18 年 4 月 1 日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成 18 年 4 月 1 日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成 18 年 4 月 1 日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法な木材であることの証明は不要とする。

４．古紙及び古紙パルプ配合率

各品目において判断の基準となっている古紙及び関連する用語、古紙パルプ配合率の定義は、以下のとおりとする。また、古紙の定義等の設定に伴い、平成26年3月31日までに製造された従前の判断基準を満たす製品については、平成26年度1年間は特定調達物品等（グリーン購入）とみなすこととする。

【古紙及び関連する用語の定義】

古紙	市中回収古紙及び産業古紙。
市中回収古紙	店舗、事務所及び家庭などから発生する使用済みの紙であって、紙製造事業者により紙の原料として使用されるもの（商品として出荷され流通段階を経て戻るものを含む。）。
産業古紙	原紙の製紙工程後の加工工程から発生し、紙製造事業者により紙の原料として使用されるもの。 ただし、紙製造事業者等（当該紙製造事業者の子会社、関連会社等の関係会社を含む。）の紙加工工場、紙製品工場、印刷工場及び製本工場など、紙を原料として使用する工場若しくは事業場において加工を行う場合、又は当該紙製造事業者が製品を出荷する前に委託により他の事業者に加工を行わせる場合に発生するものであって、商品として出荷されずに当該紙製造事業者により紙の原料として使用されるものは、古紙としては取り扱わない（当該紙製造事業者等の手を離れ、第三者を介した場合は、損紙を古紙として取り扱うための意図的な行為を除き、古紙として取り扱う。）。
損紙	以下のいずれかに該当するもの。 ・製紙工程において発生し、そのまま製紙工程に戻され原料として使用されるもの（いわゆる「回流損紙」。ウェットブローク及びドライブローク）。 ・製紙工場又は事業場内に保管されて原料として使用されるもの（いわゆる「仕込損紙」）。 ・上記産業古紙の定義において、「ただし書き」で規定されているもの。
紙製造事業者	日本標準産業分類（平成 21 年 3 月 23 日総務省告示第 175 号）の中分類に掲げる「紙製造業（142）」であり、小分類の「洋紙製造業（1421）」「板紙製造業（1422）」「機械すき和紙製造業（1423）」及び「手すき和紙製造業（1424）」をいう。
子会社、関連会社及び関係会社	金融商品取引法（昭和 23 年法律第 25 号）第 193 条の規定に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第 8 条の各項に定めるものをいう。

【古紙パルプ配合率の定義】

$$\text{古紙パルプ配合率} = \frac{\text{古紙パルプ}}{\text{（バージンパルプ＋古紙パルプ）}} \times 100\ (\%)$$

パルプは含水率 10%の重量とする。
上記算定式の分母及び分子には損紙は含まないものとする。